

# F D活動報告書

第20号 (2024年度)

関西大学大学院会計研究科  
(会計専門職大学院)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

2025年3月

# 目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法	2
(5) 対象科目リスト	3
II 2024 年度授業評価アンケートフォーム	7
III 2024 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 2024 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要	11
(2) 2024 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要	47
(3) 2024 年度授業評価アンケート総括	89
IV 組織的な研修等	93

## はじめに

関西大学大学院会計研究科は、創設からこれまで、教育体制、カリキュラムおよび教育内容・方法など常に研究科として見直し、改善を試みてきた。また、個々の教員においても、それぞれが自己研鑽を繰り返し、最善の教育を目指して取り組んできた。このような取り組みを組織的に行っているのが、FD(Faculty Development)活動である。そして、このFD活動を推進してきたのが教務・FD委員会およびその下部組織としての専攻分野別教務・FD委員会である。このFD活動報告書は、FD活動の一環として作成しており、本研究科における会計専門職教育を継続的に進化・発展させるうえで大きな役割を果たしている。

本研究科では、このFD活動によって、教員の教育能力および教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っている。教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されない。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を、教授会及びFD委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

本FD活動報告書は、2024年度のFD活動をまとめた第20号である。2024年度は、70名を超える学生が入学したことから、クラス分けで対応しつつ、例年より多い人数による授業を各教員の工夫により対応がなされた。また、後掲の総括にもある通り、受講生の予習・復習時間の確保という課題に取り組まねばならないことが明らかとなった。本研究科はこれまで4度の分野別認証評価を受けたが、評価基準のすべてを満たしていると評価され、「認定会計大学院」の称号を得ている。このFD活動報告書は、本研究科の自己点検・評価報告書と合わせて、評価を受けるにあたっての資料として提出されている。

我々は、今後もこのFD活動を通じて、「世界水準で通用する、理論と実務に習熟した会計専門職業人」を養成すべく、会計専門職教育を継続的に充実・発展させていかなければならない。

今後も、FD活動を継続して行い、FD報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

2025年3月

会計研究科長 三島 徹也

## I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

### (1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、2024年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

### (2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15回の講義が実施される。

授業評価アンケートは2020年度からオンライン方式（無記名）で実施しており、第14回目または第15回目の講義でQRコード付のアンケート依頼用紙を授業担当者が配付している。

オンライン方式で回答した内容はシステムで集計され、今後の授業内容および方法の改善のため、各授業担当者にフィードバックされる。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

### (3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び総括については、原則として担当教員が分析している。

### (4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5) 対象科目リスト(索引)

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁
導入科目群	中級商業簿記	2	1	財務会計	春・秋	11・85
	中級工業簿記	2	1	管理会計	春・秋	12・86
基本科目群	必修科目					
	上級簿記論	2	1	財務会計	春前・秋	13・14・52
	上級財務会計論	2	1	財務会計	春後・秋	15・16・58
	上級原価計算論	2	1	管理会計	春前・秋	17・18・56
	上級管理会計論	2	1	管理会計	春後・秋	19・20・51
	監査制度論	2	1	監査	春後・秋	21・22・70
	監査基準論	2	1	監査	春・秋	23・24・68
	企業法	2	1	法律・税務	春前・秋	25・26・73
	会計専門職業倫理	2	2	監査	春・秋	27・28・67
	会計基準論	2	1	財務会計	春	29
	会計制度論	2	1	財務会計	春	30
発展科目群	財表作成簿記論	2	1	財務会計	秋	53
	戦略管理会計論	2	1	管理会計	秋	57
	企業分析論	2	1	管理会計	秋	76
	監査実施論	2	1	監査	秋	
	監査報告論	2	1	監査	秋	72
	商取引法	2	1	法律・税務	春	31
	会社法	2	1	法律・税務	秋	74
	民法	2	1	法律・税務	秋	
	法人税法	2	1	法律・税務	春	32
	上級税務会計論	2	1	法律・税務	春	33
	経営学理論	2	1	経営・経済	春	
	経営戦略・組織論	2	1	経営・経済	秋	
	統計学	2	1	経営・経済	秋	
	ミクロ経済学	2	1	経営・経済	秋	
	特殊講義(コンサルティング実務)	2	1	管理会計	秋	
	特殊講義(会計専門職業数学)	2	1	横断科目	不開講	
	特殊講義(公会計論)	2	1	財務会計	不開講	
	特殊講義(BATIC演習)	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(IFRS演習)	2	1	財務会計	秋	
	特殊講義(自治体マネジメントと監査)＜公監査論＞	2	2	監査	春	
	特殊講義(民法(債権))	2	2	法律・税務	不開講	
	特殊講義(資本市場論)	2	2	経営・経済	春	34
	特殊講義(不正摘発監査論)	2	2	監査	春	35
	特殊講義(国際監査事例研究)	2	2	監査	秋	
	特殊講義(起業・株式公開事例研究)	2	2	経営・経済	春	
	特殊講義(会計検査制度論)	2	1	監査	秋	
	特殊講義(企業マネジメントと会計)	2	1	横断科目	秋	66
	特殊講義(連結会計実務)	2	1	財務会計	秋	48
	特殊講義(連結会計論)	2	1	財務会計	秋	49
	特殊講義(財務会計各論)	2	1	財務会計	秋	50
	特殊講義(経営学)	2	1	経営・経済	春	36

類別	授業科目	単位	配当年次	系統	開講学期	頁	
発展科目群	英文会計論	2	2	財務会計	秋		
	IFRS会計論	2	2	財務会計	春	37	
	組織再編会計論	2	2	財務会計	秋		
	コストマネジメント論	2	2	管理会計	秋		
	企業価値マネジメント論	2	2	管理会計	春		
	マネジメント・コントロール・システム論	2	2	管理会計	春		
	内部監査論	2	2	監査	春		
	国際監査基準論	2	2	監査	春		
	上級会社法	2	2	法律・税務	春	38	
	租税法理論	2	2	法律・税務	秋	61	
	租税法会計論	2	2	法律・税務	秋	64	
	国際税務論	2	2	法律・税務	春	39	
	コーポレート・ファイナンス論	2	2	経営・経済	秋	75	
	インベストメント論	2	2	経営・経済	春	40	
	マクロ経済学	2	2	経営・経済	春		
	応用・実践科目群	選択必修科目					
		基本会計プログラム演習	2	1	財務会計	秋	59・60
会計事例研究		2	1	財務会計	春	41	
会社経理実務		2	1	財務会計	秋	47	
管理会計事例研究		2	1	管理会計	秋		
監査事例研究		2	1	監査	秋	69	
基本監査プログラム演習		2	1	監査	秋	71	
アカデミック・ソリューション		2	1	個別演習科目	通隔	77~80・82	
論文指導(導入)		2	1	個別演習科目	春	42~44	
論文指導(基礎)		2	1	個別演習科目	秋	62	
監査法人インターンシップ		2	1	横断科目	冬季集中		
企業インターンシップ		2	1	横断科目	夏季集中		
実践会計プログラム演習		2	2	財務会計	秋	55	
IFRS事例研究		2	2	財務会計	春		
ディスクロージャー実務		2	2	財務会計	秋	54	
国際管理会計事例研究		2	2	管理会計	秋		
実践監査プログラム演習		2	2	監査	秋		
企業法判例演習	2	2	法律・税務	秋			
税務事例研究	2	2	法律・税務	春			
企業実践コミュニケーション	2	2	経営・経済	春			
プロフェSSIONAL・ソリューション	2	2	個別演習科目	通隔	81・83・84		
論文指導(実践)	4	2	個別演習科目	通年	63・65		
総括						89	

※掲載対象科目は、2024年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。  
(監査法人インターンシップ、企業インターンシップはのぞく)



## Ⅱ . 2024 年度授業評価アンケートフォーム



## 2024年度 関西大学会計専門職大学院 授業評価アンケート

会計研究科教務・FD委員会

NO	質問内容	回答
1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
2	この授業の進度はどうでしたか。 1. かなり遅い 2. 遅い 3. ちょうどよい 4. 早い 5. かなり早い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
7	ホワイト・ボードやOHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
12	この授業への出席状況はどうでしたか。 1. 30%未満 2. 30%以上 3. 50%以上 4. 70%以上 5. 90%以上	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。 1. 0時間 2. 30分程度 3. 1時間程度 4. 1時間30分程度 5. 2時間以上	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。 1. 全くそう思わない 2. そう思わない 3. どちらともいえない 4. そう思う 5. 強くそう思う	

— 以上 —

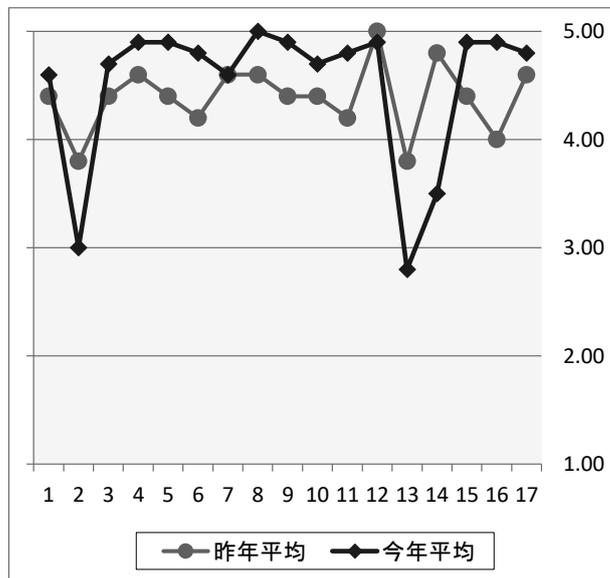


### Ⅲ-(1). 2024 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要



科 目	中級商業簿記		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	12	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.60	5	5	2
2	3.80	3.00	3	3	3
3	4.40	4.70	5	5	4
4	4.60	4.90	5	5	4
5	4.40	4.90	5	5	4
6	4.20	4.80	5	5	4
7	4.60	4.60	5	5	3
8	4.60	5.00	5	5	5
9	4.40	4.90	5	5	4
10	4.40	4.70	5	5	4
11	4.20	4.80	5	5	4
12	5.00	4.90	5	5	4
13	3.80	2.80	1	5	1
14	4.80	3.50	5	5	1
15	4.40	4.90	5	5	4
16	4.00	4.90	5	5	4
17	4.60	4.80	5	5	4
回答者数	5	10			



#### 受講生の傾向

受講生は、導入科目の履修義務者と科目等履修生のほか、「上級簿記論」からの参加者であった。簿記の習熟度は一人ずつ異なる状況であったが、全体的に学習意欲が高く、積極的に教員に質問して理解を得ようとしていた。また、受講生同士で意見交換や教え合いも積極的に行われるなど、良い学習環境が構築されていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

問題演習を中心として講義を展開し、受講生各自の習熟度に応じて質問対応と個別指導を行った。また、今年度は受講者が所定の人数に達したため、課外講座としてスキルアップ講座を実施し、総合問題のトレーニングなどの特別指導を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

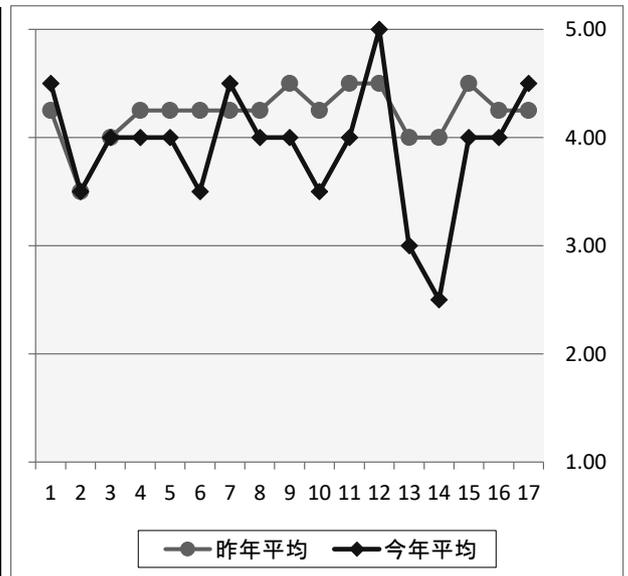
今年度のアンケート結果は、昨年度に比べると低いのが、単年度の結果としてみれば概ね高いポイントを得ている。学習意欲を高めるように誘導したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。引き続き、受講生の学習意欲を高めるようにしたい。また、受講者が所定の人数に達すれば、スキルアップ講座を実施することができる。簿記の習熟度に不安がある学生には、この授業の履修を促し、今年度のように良い学習環境を構築するとともに、スキルアップ講座を実施して受講生の学力向上に役立つようにしたい。

科目	中級工業簿記		
配当年次	1		春土1
受講者数	10	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3.50	3・4	4	3
3	4.00	4.00	4	4	4
4	4.25	4.00	4	4	4
5	4.25	4.00	4	4	4
6	4.25	3.50	3・4	4	3
7	4.25	4.50	4・5	5	4
8	4.25	4.00	4	4	4
9	4.50	4.00	4	4	4
10	4.25	3.50	3・4	4	3
11	4.50	4.00	4	4	4
12	4.50	5.00	5	5	5
13	4.00	3.00	2・4	4	2
14	4.00	2.50	2・3	3	2
15	4.50	4.00	4	4	4
16	4.25	4.00	4	4	4
17	4.25	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	2			



#### 受講生の傾向

簿記初学者が多い。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様、毎回の講義で小テストを実施し、基礎力及び計算力を定着させるようにした。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

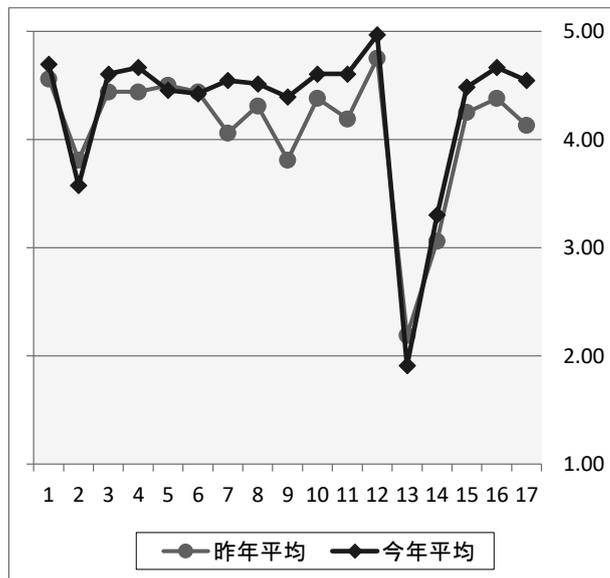
講義中の問題演習と毎回の小テストを次年度も続けていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度も講義を担当するかは不明だが、担当する場合は今年と同様に問題演習と小テストの実施し、勉強時間を強制的に確保させるようにしていきたい。

科目	上級簿記論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	35	回答者数	33

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.70	5	5	4
2	3.81	3.58	3	5	3
3	4.44	4.61	5	5	4
4	4.44	4.67	5	5	3
5	4.50	4.45	5	5	2
6	4.44	4.42	5	5	2
7	4.06	4.55	5	5	2
8	4.31	4.52	5	5	3
9	3.81	4.39	5	5	2
10	4.38	4.61	5	5	2
11	4.19	4.61	5	5	3
12	4.75	4.97	5	5	4
13	2.19	1.91	1	5	1
14	3.06	3.30	3	5	1
15	4.25	4.48	5	5	3
16	4.38	4.67	5	5	4
17	4.13	4.55	5	5	3
回答者数	16	33			



#### 受講生の傾向

A1クラスの受講生は、全員が1年次生である。簿記の習熟度が高い受講生が多くいる一方で、簿記の習熟度が低い受講生も多かった。習熟度が低い受講生は、ほとんどが日商2級までの学力が不足しており、計算問題を解き慣れていない様子であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中は、複雑な論点よりも基本的で重要な論点を優先的に取り上げるようにした。問題演習の時間を設けて、できるかぎり全員の理解を確認して回り、個々人の習熟度に応じて個別に指導した。簿記の習熟度が高い学生も低い学生も学習上の悩みを抱えており、中間の課題の結果を踏まえて授業時間外に個別に対応した。また、授業と連携した課外講座を実施し、受講生の学力向上を図った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

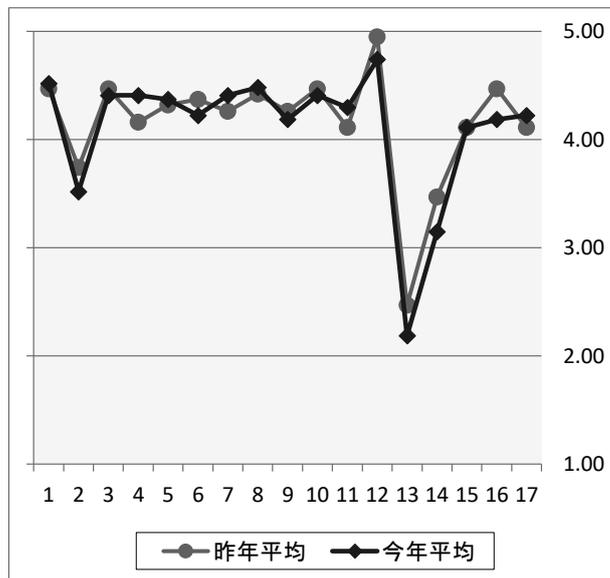
今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。また、講義動画の視聴や計算問題の反復練習を勧めることのほか、日商2級までの学力に不安がある受講生には「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

科目	上級簿記論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	34	回答者数	27

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.52	5	5	4
2	3.74	3.52	3	5	3
3	4.47	4.41	4	5	3
4	4.16	4.41	4・5	5	2
5	4.32	4.37	4	5	3
6	4.37	4.22	4	5	3
7	4.26	4.41	4	5	3
8	4.42	4.48	5	5	3
9	4.26	4.19	4	5	2
10	4.47	4.41	4	5	4
11	4.11	4.30	4	5	1
12	4.95	4.74	5	5	4
13	2.47	2.19	1・3	5	1
14	3.47	3.15	3	5	1
15	4.11	4.11	4	5	1
16	4.47	4.19	4	5	1
17	4.11	4.22	4	5	2
回答者数	19	27			



#### 受講生の傾向

A2クラスの受講生は、1年次生と2年次生である。簿記の習熟度が高い受講生が多い一方で、簿記の習熟度が低い受講生も多かった。習熟度が低い受講生は、ほとんどが日商2級までの学力が不足しており、計算問題を解き慣れていない様子であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中は、複雑な論点よりも基本的で重要な論点を優先的に取り上げるようにした。問題演習の時間を設けて、できるかぎり全員の理解を確認して回り、個々人の習熟度に応じて個別に指導した。簿記の習熟度が高い学生も低い学生も学習上の悩みを抱えており、中間の課題の結果を踏まえて授業時間外に個別に対応した。また、授業と連携した課外講座を実施し、受講生の学力向上を図った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

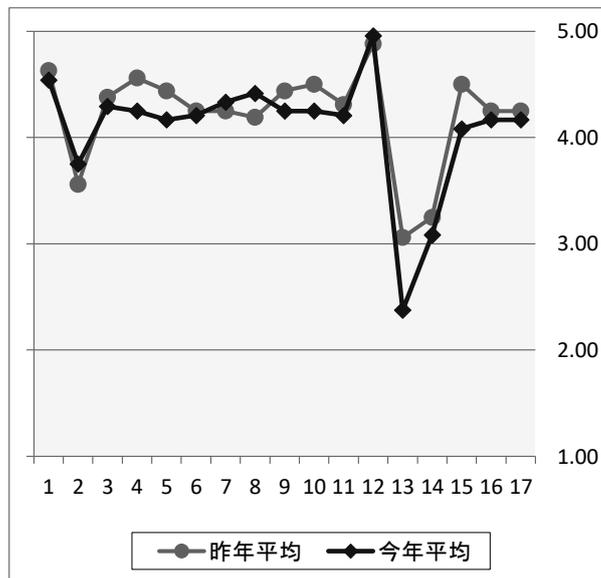
今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにしたい。また、講義動画の視聴や計算問題の反復練習を勧めることのほか、日商2級までの学力に不安がある受講生には「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

科目	上級財務会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	35	回答者数	24

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.54	5	5	4
2	3.56	3.75	4	5	3
3	4.38	4.29	5	5	2
4	4.56	4.25	5	5	1
5	4.44	4.17	4・5	5	1
6	4.25	4.21	5	5	1
7	4.25	4.33	5	5	1
8	4.19	4.42	5	5	3
9	4.44	4.25	5	5	1
10	4.50	4.25	5	5	1
11	4.31	4.21	5	5	1
12	4.88	4.96	5	5	4
13	3.06	2.38	2	5	1
14	3.25	3.08	2	5	1
15	4.50	4.08	4	5	1
16	4.25	4.17	4	5	1
17	4.25	4.17	5	5	1
回答者数	16	24			



#### 受講生の傾向

昨年度より学習意欲が平均的に低い印象を受ける。予習・復習の時間や小テストの平均点を比較しても同様の結果となっている。今年度の入学者数が多く、教室に対して受講生の数が昨年度までと比較して多いようであり、それが学習意欲を削いでいるか、確率としてそのような受講生が増えたかは不明である。一方で、熱心かつ真摯に受講している受講生も例年と同様に多数存在していた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の「今後の対応」で、方向性はしばらく維持するつもりであるとしたとおり、小テストは関大LMSではなく紙で実施した。また、小テストで間違いの多かった箇所については、間違いの傾向や留意点を説明した。ただ、やはり理解を促進するつもりで、他の制度との比較を加えながら授業の説明を行い、理解を深めるように努めた。また、補足的な説明として随時板書を加え、理解の促進に努めたつもりである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

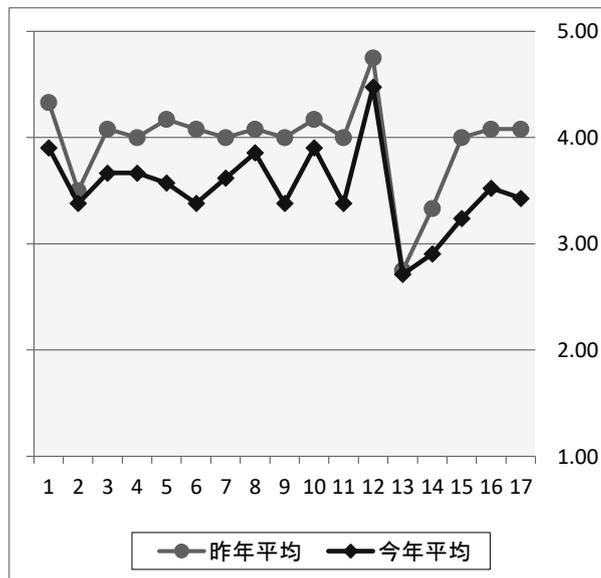
昨年度より改善された授業評価アンケートの結果であったため、対応の方向性はしばらく維持するつもりである。具体的には、講義資料は関大LMS経由で配布し、小テスト及び試験は紙で行うことで学習の促進に繋げ、理解が浸透するまで他の制度との比較を加えた説明をできるだけ少なくし、講義の最終回付近で比較を交えて理解を深めるような説明に再構築していく。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業評価アンケートの結果、小テストの紙での実施には効果があるように感じるため継続するとして、復習を促す効果を期待しボリュームを増やすなどの工夫を講じるつもりである。また、時間の許す限り小テストの講評や解説を手厚く行うことで理解の促進を試みるつもりである。一方、授業期間早期での他の制度の比較を加えた授業内容は、効果が無いようであるため、授業期間の後半になるまで比較を加えた説明をできるだけ少なくしてみるつもりである。

科目	上級財務会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	23	回答者数	21

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	3.90	4	5	1
2	3.50	3.38	3	5	2
3	4.08	3.67	4	5	1
4	4.00	3.67	4	5	1
5	4.17	3.57	5	5	1
6	4.08	3.38	5	5	1
7	4.00	3.62	4	5	1
8	4.08	3.86	5	5	1
9	4.00	3.38	5	5	1
10	4.17	3.90	4	5	1
11	4.00	3.38	4・5	5	1
12	4.75	4.48	5	5	2
13	2.75	2.71	2	5	1
14	3.33	2.90	3	5	1
15	4.00	3.24	4	5	1
16	4.08	3.52	5	5	1
17	4.08	3.43	3・5	5	1
回答者数	12	21			



### 受講生の傾向

昨年度より学習意欲が平均的に低い印象を受ける。予習・復習の時間や小テストの平均点を比較しても同様の結果となっている。この傾向はA1クラスよりも顕著であり、授業中に説明した授業内容に関する注意事項や留意事項を聞いていなかった受講生も多く、出席数の平均もA1クラスより低くなっている。A1クラスより教室に余裕があり、確率としてそのような受講生がA2クラスに多かっただけなのかは不明である。一方で、極めて熱心かつ真摯に受講している受講生も例年と同様に多数存在していた。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度での「今後の対応」にもあるが、A1クラスと比較するとA2クラスが受講態度も成績も平均として見たときに劣後しているようであるが、傾向として認められるかわからないため、A1クラスと同じ対応をしている。方向性はしばらく維持し、小テストはA1クラスと同程度の内容のものを関大LMSではなく紙で実施した。また、小テストで間違いの多かった箇所については、間違いの傾向や留意点を説明した。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

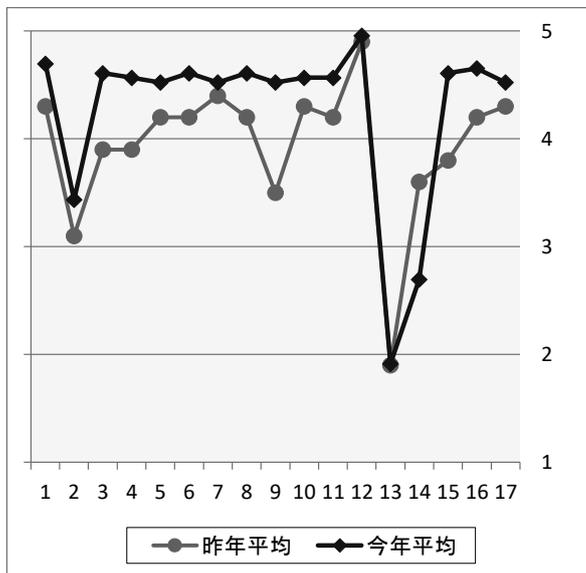
A1クラスでは昨年度より改善された授業評価アンケートの結果であったが、A2クラスでの改善が認められないと思われる。教室の規模の問題か再履修の受講生が一定程度含まれるためか、この差異についての理由は不明である。予習や復習にかかる時間は増加しており、A1クラスでは改善しているため、対応の方向性はしばらく維持するつもりである。具体的には、講義資料は関大LMS経由で配布し、小テスト及び試験は紙で行うことで学習の促進に繋げ、理解が浸透するまで他の制度との比較を加えた説明をできるだけ少なくし、講義の最終回付近で比較を交えて理解を深めるような説明に再構築していく。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

A1クラスとA2クラスで受講生が質的に異なるか見極められるように、留意するつもりである。傾向的に異なるようであれば、A1クラスと異なる工夫を講じることを検討する。小テストの実施は効果的であるようなので、復習を促す効果を期待しボリュームを増やすなどの工夫を講じるつもりである。また、時間の許す限り小テストの講評や解説を手厚く行うことで理解の促進を試みるつもりである。一方、授業期間早期での他の制度の比較を加えた授業内容は、効果が無いようであるため、授業期間の後半になるまで比較を加えた説明をできるだけ少なくしてみるつもりである。

科 目	上級原価計算論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前月3・木2
受講者数	32	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.3	4.70	5	5	4
2	3.1	3.43	3	5	3
3	3.9	4.61	5	5	4
4	3.9	4.57	5	5	3
5	4.2	4.52	5	5	4
6	4.2	4.61	5	5	3
7	4.4	4.52	5	5	3
8	4.2	4.61	5	5	4
9	3.5	4.52	5	5	3
10	4.3	4.57	5	5	3
11	4.2	4.57	5	5	3
12	4.9	4.96	5	5	4
13	1.9	1.91	1	4	1
14	3.6	2.70	3	5	1
15	3.8	4.61	5	5	4
16	4.2	4.65	5	5	4
17	4.3	4.52	5	5	2
回答者数	10	23			



#### 受講生の傾向

受講生は基本的な内容を理解しており、受講生間での学習の進捗度の差は大きくなかったように思われる。また、受講生の期待水準と授業の内容は適合していたと考えられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、アンケートの概要は、前任の担当者と比較すると極めて良好であった。次に、今年度の担当者が工夫・留意した点としては、この授業における受講生への伝え方についてである。これについては、昨年度の質問3「準備」と質問4「熱意」との点数差(0.71と0.67で、より「5強く思う」に近い結果)に表れている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

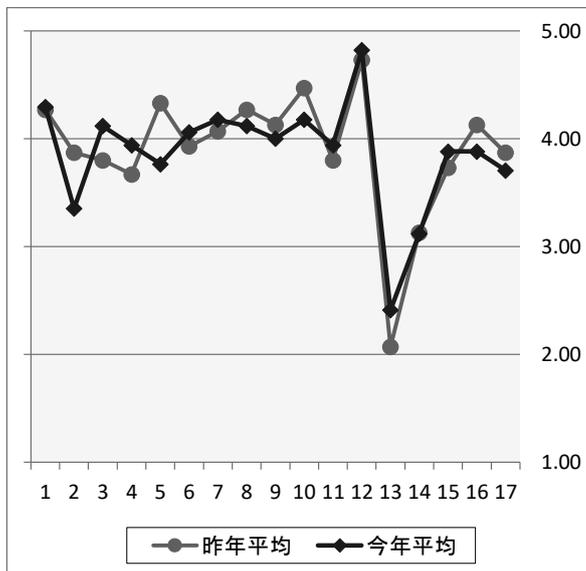
該当なし(担任者変更)

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は受講生の期待水準と授業の内容が適合していたため、非常に良好な結果になったと思われる。今後もこうした結果が得られるように準備をし、熱意を持って取り組みたい。さらに、質問15「さらに学習したいという意欲」(前任の担当者と比較すると0.81改善)を維持できるように努力していきたい。

科 目	上級原価計算論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前月2・木3
受講者数	24	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.27	4.29	4	5	2
2	3.87	3.35	3	5	2
3	3.80	4.12	4	5	3
4	3.67	3.94	4	5	1
5	4.33	3.76	4	5	2
6	3.93	4.06	4	5	2
7	4.07	4.18	4	5	3
8	4.27	4.12	4	5	3
9	4.13	4.00	4	5	3
10	4.47	4.18	4	5	3
11	3.80	3.94	4	5	2
12	4.73	4.82	5	5	4
13	2.07	2.41	3	5	1
14	3.13	3.12	3	5	1
15	3.73	3.88	4	5	2
16	4.13	3.88	4	5	2
17	3.87	3.71	3・4・5	5	1
回答者数	15	17			



#### 受講生の傾向

受講生の傾向としては、基本的な内容を概ね理解している層と、基本的な内容を十分に理解していない層とに、2極化していたと思われる。しかし、基本的な内容を十分に理解していない受講生が相当数見られるにもかかわらず、予習にかかる時間(質問13)は前年と同様に短い傾向にある。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、アンケート結果は、前任の担当者と同様の傾向を示している。次に、今年度の担当者が工夫・留意した点としては、この授業における進捗についてである。これについては、昨年度の質問2との点数差(0.52、より「3ちょうどよい」に近い結果)に表れている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

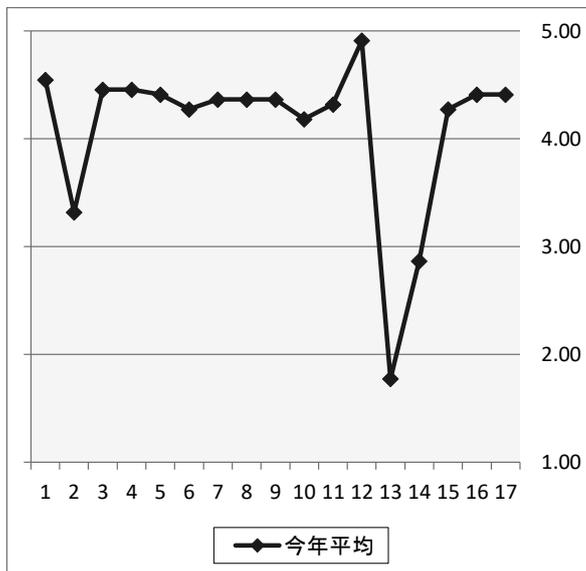
##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

このクラスの受講生が2極化する傾向にあることをふまえて、とくに基本的な内容を十分に理解していない受講生に配慮しながら、授業を進めることを課題としたい。具体的には、説明の仕方(質問5)を工夫し、基本的な内容を十分に理解していない場合においても対応できるようにしたい。

科 目	上級管理会計論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後月2・木3
受講者数	31	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.55	5	5	4
2	—	3.32	3	4	2
3	—	4.45	4	5	4
4	—	4.45	4	5	4
5	—	4.41	4	5	4
6	—	4.27	4	5	3
7	—	4.36	4	5	3
8	—	4.36	4・5	5	3
9	—	4.36	4	5	4
10	—	4.18	4	5	2
11	—	4.32	4	5	3
12	—	4.91	5	5	4
13	—	1.77	1・2	3	1
14	—	2.86	2	5	1
15	—	4.27	4	5	3
16	—	4.41	4	5	4
17	—	4.41	4	5	3
回答者数	—	22			

※昨年平均値なし



#### 受講生の傾向

本科目は、学生にとって必修となる基本科目のひとつである。本クラスの受講生は、1年次だけで構成されている。受講生は基本的にまじめに出席していたと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
該当なし。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

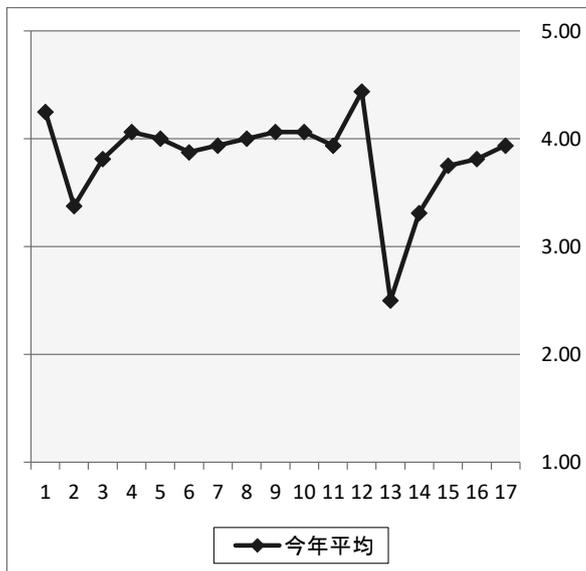
#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

多くの項目において、評価は比較的高かったと解釈することができる。そのため、現在の取り組みを今後も継続することが重要であると考えられる。

科 目	上級管理会計論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後月3・木2
受講者数	18	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.25	4	5	3
2	—	3.38	3	5	2
3	—	3.81	4	5	2
4	—	4.06	4・5	5	2
5	—	4.00	4	5	3
6	—	3.88	4	5	1
7	—	3.94	4	5	2
8	—	4.00	4	5	3
9	—	4.06	4	5	3
10	—	4.06	4	5	3
11	—	3.94	4	5	3
12	—	4.44	4	5	4
13	—	2.50	1	5	1
14	—	3.31	3	5	1
15	—	3.75	4	5	1
16	—	3.81	4	5	2
17	—	3.94	4	5	3
回答者数	—	16			

※昨年平均値なし



#### 受講生の傾向

本科目は、学生にとって必修となる基本科目のひとつである。受講生は、1年次で初めて履修する学生に加えて、再履修の学生も含まれている。受講生は基本的にまじめに出席していたと考えられる。ただし、受講生が持つ管理会計の知識および計算スキルのばらつきは大きかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
該当なし。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

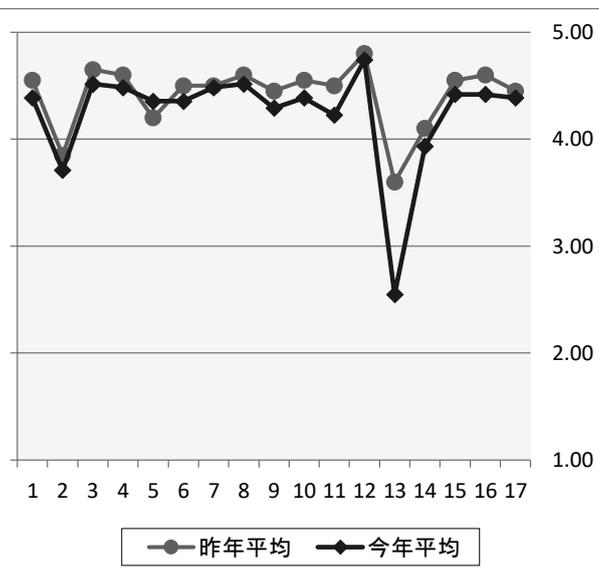
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

他の開講クラスと比べて、本クラスでは相対的に評価が低かった。また、授業進度に関する設問2では、進度が早すぎる(評点5)と回答した受講生が存在していた。そのため、多様な学生に対して柔軟に対応することが今後の課題であると考えられる。

科目	監査制度論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春後火2・金3
受講者数	33	回答者数	31

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.55	4.39	5	5	2
2	3.85	3.71	3	5	3
3	4.65	4.52	5	5	3
4	4.60	4.48	5	5	2
5	4.20	4.35	5	5	2
6	4.50	4.35	5	5	2
7	4.50	4.48	5	5	3
8	4.60	4.52	5	5	2
9	4.45	4.29	5	5	1
10	4.55	4.39	5	5	3
11	4.50	4.23	5	5	1
12	4.80	4.74	5	5	4
13	3.60	2.55	2	5	1
14	4.10	3.94	5	5	2
15	4.55	4.42	5	5	1
16	4.60	4.42	5	5	1
17	4.45	4.39	5	5	2
回答者数	20	31			



#### 受講生の傾向

本科目は基本科目(必修科目)群に属するため、受講生の出席率(項目12)は90%以上と極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。講義進度は若干早い(項目2)と評価されているが、前年度よりは適度なレベルに落ち着いている。一方、全体的に評価は前年度より悪化している。個別評価において、授業運営の仕方(項目5)では改善があるものの、配布資料の適切さ(項目6)、機材の使い方(項目7)、質問への対応(項目8)、ならびに小テスト等の効果(項目9)についても、評価が昨年度より若干悪化した。また課題予習(項目13)・復習(項目14)に対する時間も昨年度より悪化しており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)の結果に繋がっている。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂された監査基準及び実務指針を網羅的かつ体系的に反映したパワーポイントによる教材を作成し配布した。また当該配布資料の末尾に、復習を促すための復習課題と当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日までにアップロードし、受講生がダウンロードした上で予習・復習をできるようにした。小テストによる勉学の動機付けについても、例年通り、2回分の授業が終了することに理解度を確認する目的と復習を促すために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週回に小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、添削の際のポイントを解説するとともに優秀答案を氏名を伏せて配布した。

このように講義2回(復習課題の確認)→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

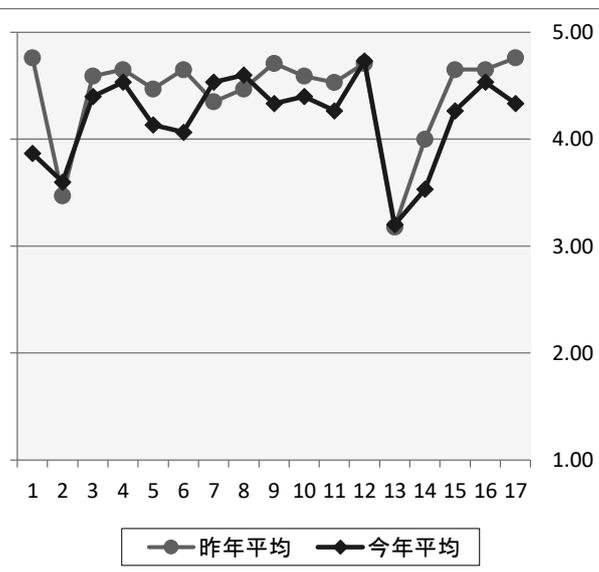
復習課題の解答による振り返りを促すため、毎講義時間終了時に復習課題の問題確認をすることで復習課題への対応を促したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比して受講生の数が多くなったことでクラス規模の問題(項目10)に対応できず、全体的な評価が下がった可能性があるため、受講生個々に講義資料をより早期に提供し、学習意欲、特に予習に時間を費やすように促す措置を講じたい。

科目	監査制度論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春後火3・金2
受講者数	22	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.76	3.87	4	5	1
2	3.47	3.60	3・4	5	3
3	4.59	4.40	5	5	3
4	4.65	4.53	5	5	3
5	4.47	4.13	4	5	3
6	4.65	4.07	4	5	2
7	4.35	4.53	5	5	4
8	4.47	4.60	5	5	3
9	4.71	4.33	5	5	3
10	4.59	4.40	4・5	5	3
11	4.53	4.27	5	5	3
12	4.71	4.73	5	5	3
13	3.18	3.20	5	5	1
14	4.00	3.53	3・5	5	1
15	4.65	4.27	4	5	3
16	4.65	4.53	5	5	3
17	4.76	4.33	5	5	3
回答者数	17	15			



#### 受講生の傾向

本科目は基本科目(必修科目)群に属するため、受講生の出席率(項目12)は90%以上と極めて高い出席率であり勉学に対する意欲は非常に高いと解される。講義進度は若干早い(項目2)と評価されてはいるが、前年度よりは適度なレベルに落ち着いている。しかしながら、再履修の学生が相対的に多かったため、全体的に評価は前年度より悪化している。個別評価において、機材の利用(項目7)や質問への対応(項目8)では改善が見られるものの、その他の項目で評価が前年度より悪化した。また復習(項目14)に対する時間も前年度より悪化しており、本科目の受講に伴う学習意欲の向上(項目15)、ならびに知識・能力の向上(項目16)の結果に繋がったと思われる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂された監査基準及び実務指針を網羅的かつ体系的に反映したパワーポイントによる教材を作成し配布した。また当該配布資料の末尾に、復習を促すための復習課題と当該課題に対応するための参考文献を列挙した。さらにこれら配布資料は、講義終了後、関西大学LMSに授業前日までにアップロードし、受講生がダウンロードした上で予習・復習をできるようにした。小テストによる勉学の動機付けについても、例年通り、2回分の授業が終了するごとに理解度を確認する目的と復習を促すために、小テストを授業時間の最初15分程度で実施した。翌週回に小テストの添削後、コメントを付して各自に返却するとともに、添削の際のポイントを解説するとともに優秀答案を氏名を伏せて配布した。このように講義2回(復習課題の確認)→小テスト実施→添削→返却(添削ポイント・講評)を繰り返すことで、各受講生にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

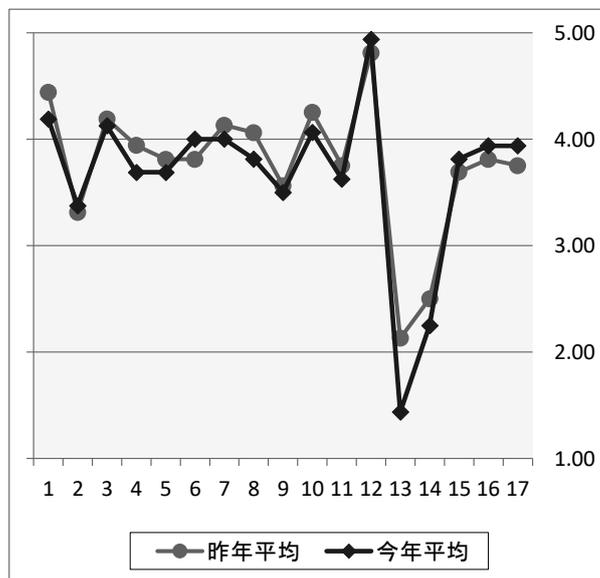
毎授業時間終わりに解答すべき復習課題を口頭で確認することで、毎回の復習課題への解答を促したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比して相対的に再履修の受講生が多かったことから、当該受講生にも学習意欲を高めるような措置として復習課題の実施等を講じる必要がある。

科目	監査基準論(A1)		
配当年次	1	開講時限	春水1
受講者数	27	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.19	4・5	5	1
2	3.31	3.38	3	5	3
3	4.19	4.13	5	5	1
4	3.94	3.69	4	5	1
5	3.81	3.69	4	5	1
6	3.81	4.00	4	5	1
7	4.13	4.00	4	5	1
8	4.06	3.81	4	5	1
9	3.56	3.50	4	5	1
10	4.25	4.06	4	5	3
11	3.75	3.63	4	5	1
12	4.81	4.94	5	5	4
13	2.13	1.44	1	3	1
14	2.50	2.25	2	5	1
15	3.69	3.81	4	5	1
16	3.81	3.94	4	5	1
17	3.75	3.94	4	5	1
回答者数	16	16			



#### 受講生の傾向

昨年に比べて13項目目の予習時間を除き大きな変動は無い。予習時間が昨年に比べて30分ほど減少してしまった。また、授業を通じて「覚える」点の重要性を強調したにも関わらず復習時間もわずかながら減少してしまった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・授業スピードは現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・配信提示スライドのページ数や添付資料数は削減した。重点項目の説明に時間をかけた。
- ・監査基準論の理解に際しては、基本項目を記憶する点の重要性・必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達した。
- ・監査現場で、具体的にどのような論点が生じるか?にも言及した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

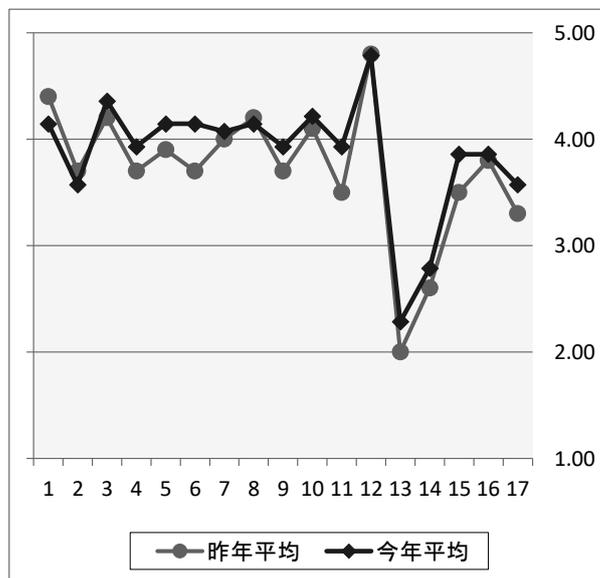
- ・授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を憶える必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・重点項目の説明に時間をかける。
- ・監査基準論の理解に際しては、基本項目を記憶する点の必要性を改めて強調する。
- ・スライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を改めて伝達する。
- ・各監基報の項目が監査現場でどのように具現化するのか?を付言し、監基報要求事項の必要性や意味の理解を促す。

科目	監査基準論(A2)		
配当年次	1	開講時限	春水2
受講者数	25	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.14	4	5	3
2	3.70	3.57	3	5	3
3	4.20	4.36	4	5	4
4	3.70	3.93	4	5	2
5	3.90	4.14	4	5	3
6	3.70	4.14	4	5	3
7	4.00	4.07	4	5	2
8	4.20	4.14	4	5	3
9	3.70	3.93	4	5	3
10	4.10	4.21	4	5	2
11	3.50	3.93	4	5	1
12	4.80	4.79	5	5	4
13	2.00	2.29	2	5	1
14	2.60	2.79	2	5	2
15	3.50	3.86	4	5	2
16	3.80	3.86	4	5	3
17	3.30	3.57	4	5	2
回答者数	10	14			



#### 受講生の傾向

6項目目の配布資料の適切性は0.4程度アップしたが、それ以外の項目では前年と比べ変動はなかった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・授業スピードは現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減した。重点項目の説明に時間をかけた。
- ・監査基準論の理解に際しては、基本項目を記憶する点の重要性・必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達した。
- ・監査現場で、具体的にどのような論点が生じるか?にも言及した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

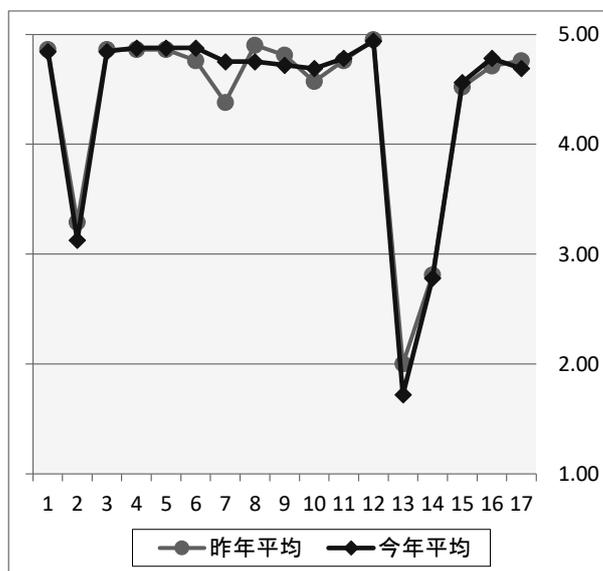
- ・授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を憶える必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

- ・重点項目の説明に時間をかける。
- ・監査基準論の理解に際しては、基本項目を記憶する点の必要性を改めて強調する。
- ・スライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を改めて伝達する。
- ・各監基報の項目が監査現場でどのように具現化するのか?を付言し、監基報要求事項の必要性や意味の理解を促す。

科目	企業法(A1)		
配当年次	1	開講時限	春前火2・金3
受講者数	34	回答者数	32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.84	5	5	4
2	3.29	3.13	3	4	2
3	4.86	4.84	5	5	4
4	4.86	4.88	5	5	4
5	4.86	4.88	5	5	4
6	4.76	4.88	5	5	4
7	4.38	4.75	5	5	3
8	4.90	4.75	5	5	3
9	4.81	4.72	5	5	3
10	4.57	4.69	5	5	3
11	4.76	4.78	5	5	4
12	4.95	4.94	5	5	4
13	2.00	1.72	1	5	1
14	2.81	2.78	2	5	1
15	4.52	4.56	5	5	3
16	4.71	4.78	5	5	4
17	4.76	4.69	5	5	3
回答者数	21	32			



#### 受講生の傾向

本科目は基本科目でありそもそも受講者数は多い傾向にあるが、本年度はA1クラスに受講者数が34名とクラス分けをしても若干多い人数が受講した。受講生は多いわりにほとんどの学生が授業に対してまじめにかつ熱心に出席し、積極的に参加していたが、ごく少数ではあるが授業を休みがちな学生もいた。難易度としては、あまり高いとは感じられていないようで、それは企業法の基本理念などその根本的な部分を学習するのが目的であって、詳細については扱わないことを前提としているからであろう。同様に、法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、授業進度も比較的ちょうど良いようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の企業法においては、企業法学(広く法学においても)における論文の作成というところに重点を置いた。企業法の理解を目的としたレクチャーを行い、それを踏まえて理解度を確認する短答式の小テストを行うことは、継続している。しかし、やはり法学の文章を書くに論文を作成するというにおいては、学生にとっては難しく感じられるようだったので、今回は特に一定の授業が進行することに論文作成の指導を行うことを目的とした小テストに重点を置いた。その効果としては、論文作成の練習回数を重ねるごとに論文の出来は良くなり、最終的な学期末試験においても、比較的論文が書けるようになっていたように思われる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

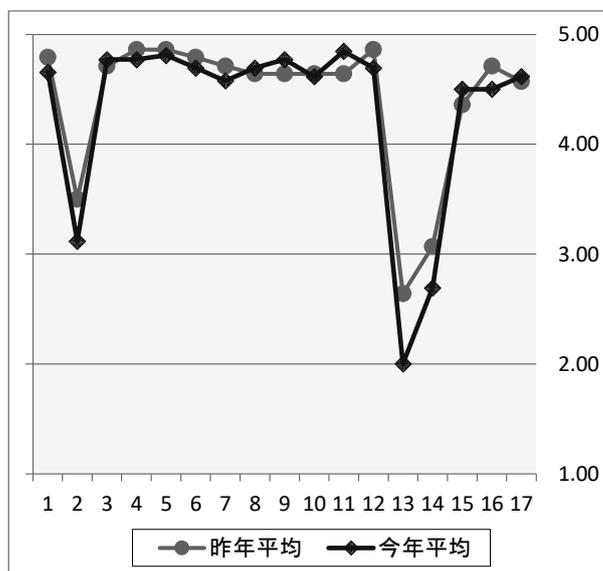
企業法は、本会計研究科の法学に関する基礎の科目を構成するので、すでに企業法を学習した学生については理解を再確認してもらい、ないしより理解を深めてもらい、法学初学者については、必要最低限の法学に関する学力を身に付けてもらいたい。そのためにも授業を受けて終わりというのではなく、授業中に行う小テスト等を利用して、受講生にはよりしっかりと理解してもらえよう、多くの学生(特に苦手とする)が時間外学修(予習復習等)に取り組むような工夫をしていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応としては、企業法においては、その内容を学生に理解してもらい、それを確認するという作業は引き続き必要となるが、上記でも示したように論文作成能力を身につけさせることもまた重要である。今後も引き続き論文作成の指導を続けていくつもりであるが、全体の授業の中でバランスよくそれを組み入れる必要があり、かつより効果的な方法で行っていくべく工夫したい。

科目	企業法(A2)		
配当年次	1	開講時限	春前火3・金2
受講者数	31	回答者数	26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.79	4.65	5	5	4
2	3.50	3.12	3	4	3
3	4.71	4.77	5	5	4
4	4.86	4.77	5	5	4
5	4.86	4.81	5	5	4
6	4.79	4.69	5	5	3
7	4.71	4.58	5	5	4
8	4.64	4.69	5	5	4
9	4.64	4.77	5	5	4
10	4.64	4.62	5	5	4
11	4.64	4.85	5	5	4
12	4.86	4.69	5	5	1
13	2.64	2.00	1	5	1
14	3.07	2.69	3	5	1
15	4.36	4.50	4・5	5	4
16	4.71	4.50	5	5	3
17	4.57	4.62	5	5	4
回答者数	14	26			



#### 受講生の傾向

企業法A2クラスではA1クラスとあまり変わらず、31名というこちらもやや多い受講者数であった。A1クラスと同様の評価になってしまいが、学生は授業に対してまじめにかつ熱心に出席し、積極的に参加していたが、ごく少数ではあるが授業を休みがちな学生もいた。難易度としては、あまり高いとは感じられていないようで、それは企業法の基本理念などその根本的な部分を学習するのが目的であって、詳細については扱わないことを前提としているからであろう。同様に、法学初学者であっても受講できるよう配慮している科目なので、授業進度も比較的ちょうど良いようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

こちらもA1クラスと同様になるが、今年度は企業法学(広く法学においても)における論文の作成というところに重点を置いた。企業法の理解を目的としたレクチャーを行い、それを踏まえて理解度を確認する短答式の小テストを行うことは、継続している。しかし、やはり法学の文章を書くないし論文を作成するという点においては、学生にとっては難しく感じられるようだったので、今回は特に一定の授業が進行するごとに論文作成の指導を行うことを目的とした小テストに重点を置いた。その効果としては、論文作成の練習回数を重ねるごとに論文の出来は良くなり、最終的な学期末試験においても、比較的論文が書けるようになっていたように思われる。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

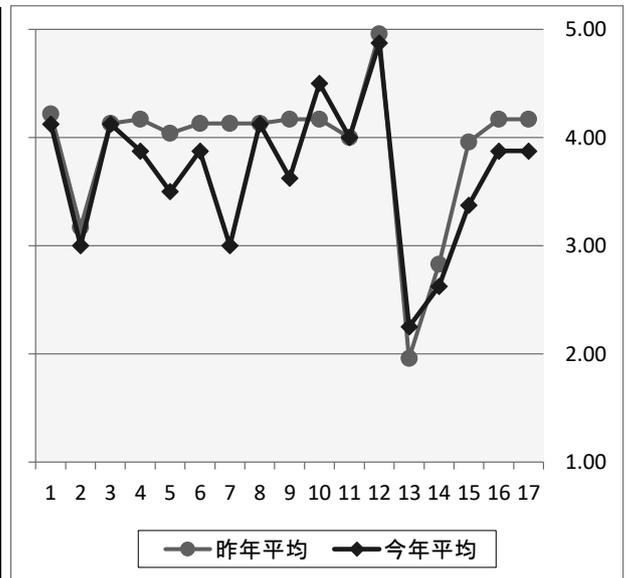
今後の対応においても、A1クラスと同様に、企業法は、本会計研究科の法学に関する基礎の科目を構成するので、すでに企業法を学習した学生については理解を再確認してもらい、ないしより理解を深めてもらい、法学初学者については、必要最低限の法学に関する学力を身に付けてもらいたい。そのためにも授業を受けて終わりというのではなく、授業中に行う小テスト等を利用して、受講生にはよりしっかりと理解してもらえよう、多くの学生(特に苦手とする)が時間外学修(予習復習等)に取り組むような工夫をしていきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応についても、A1クラスと同様に、企業法においては、その内容を学生に理解してもらい、それを確認するという作業は引き続き必要となるが、上記でも示したように論文作成能力を身につけさせることもまた重要である。今後も引き続き論文作成の指導を続けていくつもりであるが全体の授業の中でバランスよくそれを組み入れる必要があり、かつより効果的な方法で行っていくべく工夫したい。

科目	会計専門職業倫理(A1)		
配当年次	2	開講時限	春月3
受講者数	17	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.13	5	5	1
2	3.17	3.00	3	3	3
3	4.13	4.13	5	5	2
4	4.17	3.88	5	5	2
5	4.04	3.50	2・3・4・5	5	2
6	4.13	3.88	5	5	2
7	4.13	3.00	2	5	1
8	4.13	4.13	4・5	5	3
9	4.17	3.63	5	5	1
10	4.17	4.50	5	5	3
11	4.00	4.00	5	5	1
12	4.96	4.88	5	5	4
13	1.96	2.25	2	4	1
14	2.83	2.63	1・2・3	5	1
15	3.96	3.38	3・4・5	5	1
16	4.17	3.88	5	5	1
17	4.17	3.88	4・5	5	1
回答者数	23	8			



#### 受講生の傾向

彼らと接して受けた印象としては、会計士になろうとする学生は少ないのではないか、というものだった。一般事業会社への就職希望者が多く、会計士に何が何でもなろうとする院生はいないとのものであった。その印象通りのんびりした雰囲気は彼らからは漂っていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

当年度から担当するため、昨年の反省を踏まえて今年工夫したことというものはない。ただし、昨年のアンケート結果と比較して見える内容は次の二つである。

1. 昨年の評価は総じて4→今年の評価は3と下がった。  
→職業倫理という科目を教えることは初めてであり、教えるポイント把握に時間がかかった。
2. 回答者数が23人→8人(今年を受講者数の約半分)と減少した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(担任者変更)

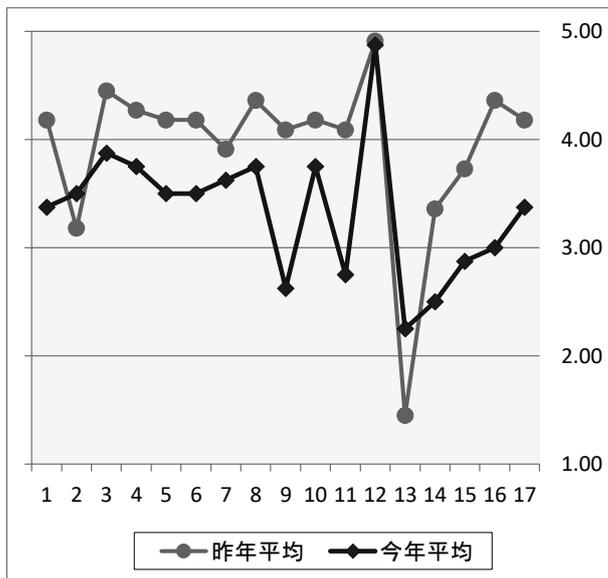
##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2024年後期は次のようなことに気を付けている。

1. 学生自らの考えを話す時間を作っている。
2. 各章の要点を最初に板書し、講義中はそれについてポイントを明確に話すようにしている。
3. まだその章まで到達していないが、倫理規定が中心になると思っているので後期講義の最初の時間で参考として配布し、テキストが引用している箇所について随時見せるようにしている。

科目	会計専門職業倫理(A2)		
配当年次	2	開講時限	春水2
受講者数	14	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	3.38	4	5	1
2	3.18	3.50	3・4	4	3
3	4.45	3.88	4	5	1
4	4.27	3.75	4	5	1
5	4.18	3.50	4	5	1
6	4.18	3.50	4	5	1
7	3.91	3.63	4	5	1
8	4.36	3.75	4	5	1
9	4.09	2.63	1	5	1
10	4.18	3.75	4・5	5	1
11	4.09	2.75	1	5	1
12	4.91	4.88	5	5	4
13	1.45	2.25	1	5	1
14	3.36	2.50	2	5	1
15	3.73	2.88	1・3・4	5	1
16	4.36	3.00	4	5	1
17	4.18	3.38	3・4	5	1
回答者数	11	8			



#### 受講生の傾向

受講生の内訳は、公認会計士志望者8名、税理士志望者4名、一般企業(経理等)志望者2名の計14名であった。受講生の資格取得に関する進捗度等は様々であったが、履修理由は、必修科目であることに加え、会計専門職として理論や実務では学びにくい職業倫理を学ぶためとする学生が多かった。総じて受講生の受講態度は真面目であり、課題の提出状況も良好であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内での意見の発表について、小グループでの意見交換を経たのちに発表をするようにすると、他者との意見交換を通じて各自の考えもまとまりやすく、発表しやすいように見受けられた。また、本年度より基本となるテキストが指定されたが、テキストの記述のみにとどまらず、事例やその他関連した事項などもあわせて解説等を行った。従来から継続しているグループ発表を実施し、事例を深く掘り下げる取り組みを行ったが、アンケートの結果を見ると、受講生の負担感などもあり、満足度が低い学生もいたようである。講義設計としては、従来より課題の量を減らす一方、小テストを2回実施し、知識の定着及び理解を図るように調整した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

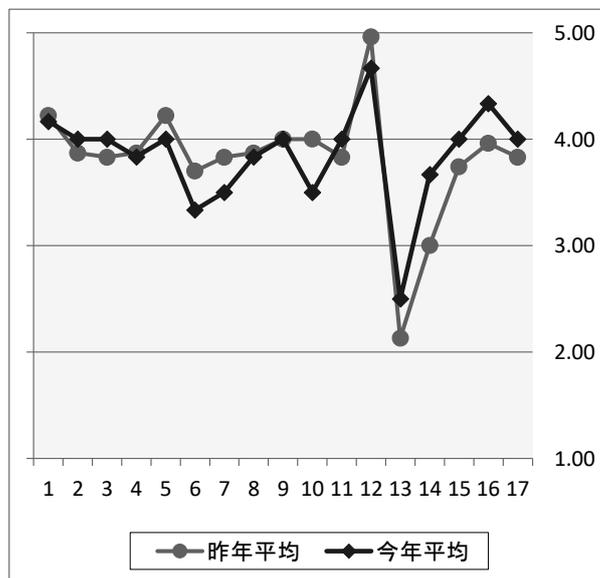
引き続き、質疑応答などを中心に、座学中心ではなく受講生が主体的に講義に取り組めるように努める。ディスカッションについても、まず小グループでの意見交換を経るなど、発言しやすい雰囲気を作ることに留意する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、受講生が主体的に取り組めるような講義設計を行う。具体的には、小グループでの意見交換、ディスカッションを積極的に取り入れ、一方的な座学とならないように努める。

科目	会計基準論		
配当年次	1	開講時限	春月1
受講者数	44	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.22	4.17	4	5	4
2	3.87	4.00	4	5	3
3	3.83	4.00	4	5	3
4	3.87	3.83	4	4	3
5	4.22	4.00	5	5	2
6	3.70	3.33	2・4	5	2
7	3.83	3.50	3・4	5	2
8	3.87	3.83	4	5	3
9	4.00	4.00	4	5	2
10	4.00	3.50	3・4	5	2
11	3.83	4.00	4	5	2
12	4.96	4.67	5	5	4
13	2.13	2.50	1・3	5	1
14	3.00	3.67	3・5	5	2
15	3.74	4.00	4	5	3
16	3.96	4.33	4	5	4
17	3.83	4.00	4	5	2
回答者数	23	6			



#### 受講生の傾向

受講生の半数近くが、授業の到達目標と受講生自らの受講時点での理解度とギャップが大きいのに関わらず受講登録した印象を受ける。月曜1時限での開講及び授業時間冒頭での小テストを負担に感じる受講生が多かったせいか、途中から受講を諦める受講生が少なくなかったように感じる。そのような受講生は毎年度一定数いるのであるが、今年度はその割合が多いように感じた。一方で、毎回熱心にかつ真摯に受講していた受講生も多くいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一昨年度において、教科書とした書籍を取得せず、教員による配布資料のみで受講する受講生が増えていると感じたため、著作権上問題のない資料は関大LMSを通じて事前に配布した。また、提示しているパワーポイント資料を写真撮影を隠れて行う学生には、それを禁じて受講に専念するように促している。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

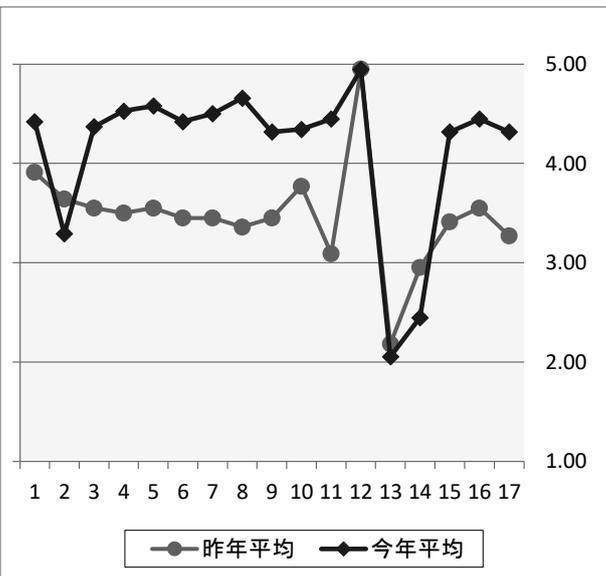
受講生の反応が全体的に良くない状態となった昨年度よりは受講生の反応が改善したと思われる。資料の配布や提示については今年度の方法を維持しつつ、追加学習や予習復習につながるような資料を逐次追加作成するなどの工夫を講じるつもりである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問13-17については、昨年度より向上していることから、授業の展開そのものや授業内容については、現在の方向性で問題ないと感じる。受動的な受講やなんとなく受講登録したという印象を受ける受講生について、授業期間前半では、復習を促すなどして講義内容の理解を促進する工夫を講じてみるつもりである。また、質問6及び7については昨年より否定的な回答が増加しているが、講義中に提示しているパワーポイント資料の配布を要求している可能性が高いと思われるが受動的な受講を回避するため、資料の配布や提示については、現状を維持するつもりである。

科目	会計制度論		
配当年次	1	開講時限	春金4
受講者数	33	回答者数	38

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.91	4.42	4・5	5	3
2	3.64	3.29	3	5	2
3	3.55	4.37	5	5	3
4	3.50	4.53	5	5	3
5	3.55	4.58	5	5	3
6	3.45	4.42	5	5	2
7	3.45	4.50	5	5	3
8	3.36	4.66	5	5	3
9	3.45	4.32	4・5	5	2
10	3.77	4.34	5	5	3
11	3.09	4.45	5	5	3
12	4.95	4.95	5	5	4
13	2.18	2.05	1	5	1
14	2.95	2.45	2	5	1
15	3.41	4.32	4	5	3
16	3.55	4.45	5	5	3
17	3.27	4.32	5	5	1
回答者数	22	38			



#### 受講生の傾向

会計士志望の受講生が多く、学習意欲は全体的に高い。ただ、積極的な発言が少ない傾向にあるため、こちらから指名の上発言を促すことを心がけた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

疑問点が生じた場合にすぐに質問できる環境づくりを目指した。また、積極的なコミュニケーションを図るとともに、グループディスカッションや事例等に関する発表の機会を設け、「他者に伝える力」を養う場となるよう工夫した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

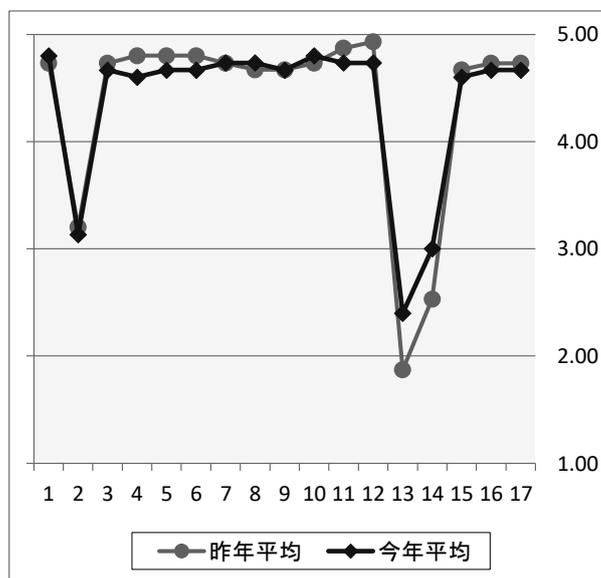
該当なし(担任者変更)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学習進度により受講生のレベルが大きく異なるため、各人のレベルに応じた最適な授業内容となるよう検討していく。また、受験予備校では学習しないような実務上の論点や開示制度等については、引き続き内容として盛り込み、会計専門職大学院で学習することの意義を探究していきたい。

科目	商取引法		
配当年次	1	開講時限	春金1
受講者数	23	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.73	4.80	5	5	4
2	3.20	3.13	3	4	3
3	4.73	4.67	5	5	3
4	4.80	4.60	5	5	3
5	4.80	4.67	5	5	3
6	4.80	4.67	5	5	3
7	4.73	4.73	5	5	4
8	4.67	4.73	5	5	3
9	4.67	4.67	5	5	3
10	4.73	4.80	5	5	4
11	4.87	4.73	5	5	4
12	4.93	4.73	5	5	4
13	1.87	2.40	1	5	1
14	2.53	3.00	2・3	5	2
15	4.67	4.60	5	5	3
16	4.73	4.67	5	5	4
17	4.73	4.67	5	5	4
回答者数	15	15			



#### 受講生の傾向

商取引法の履修者数としては、23名で例年よりやや多いということがいえる。公認会計士試験受験者や特に企業法学に興味を持っている学生であれば履修するであろうが、会計学習をメインに勉強する学生は履修しない傾向にある。基本科目ではなく選択して受講しているということから、受講している学生は比較的熱心でまじめな学生が多い。授業の難易度については、法学初学者にとっては難しく感じたところもあるかもしれないが(1年生春学期で受講できるため企業法と並行することになる)、極力平易な説明を心がけ、全体的にみると特に難しく感じるようなことはなかったようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

商取引法は、会社法などと異なり、少し抽象的でイメージがしにくいところもあるので、なるべくイメージのしやすい具体例や取引の実例などを示すように心がけた。また、商取引法上のいわゆる論点といったところも扱ったが、こちらも最高裁判例を例に取り上げて説明するなどの工夫を心がけた。しかし、あまりにも丁寧な授業を心がけるとすると、進度との関係もあるので、説明の中で重要なものや自学習では困難なものはしっかりと時間をかける一方で、そうでない部分についてはスピード化を図った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

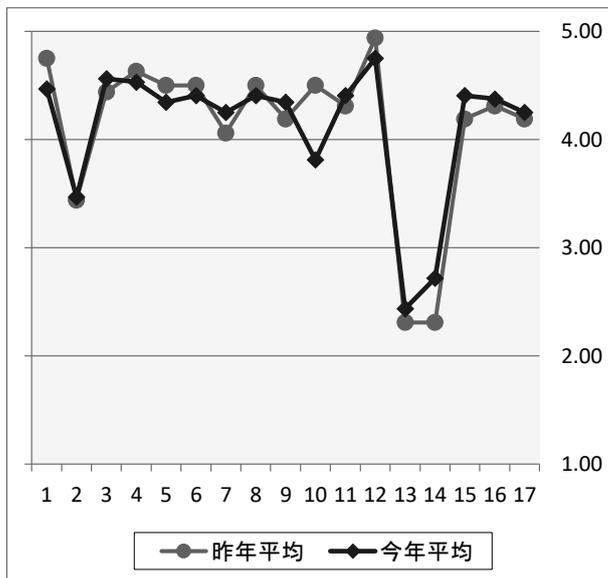
商取引法は扱う範囲が広く、進度・難易度ともに動画教材等を利用するなどの試みを続けながら、今後は学生が全範囲をむらなく網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるが、より踏み込んだ議論にも言及してメリハリのある授業を行っていきたいと思う。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上でも述べたように、説明の中で重要なものや自学習では困難なものはしっかりと時間をかけて、そうでない部分についてはスピード化を図るということは、今後も必要となり、より一層メリハリのついた授業を心がけていきたい。特に、商取引法はこの授業で完結するものであるから(企業法や会社法は他の授業、例えば上級会社法等で補完できる)、より一層全体の中でバランスよく授業内容を配置していくことが必要となる。

科目	法人税法		
配当年次	1	開講時限	春火4
受講者数	38	回答者数	32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.47	4	5	4
2	3.44	3.47	3	4	3
3	4.44	4.56	5	5	4
4	4.63	4.53	5	5	3
5	4.50	4.34	4	5	2
6	4.50	4.41	5	5	3
7	4.06	4.25	4	5	1
8	4.50	4.41	5	5	2
9	4.19	4.34	5	5	2
10	4.50	3.81	4・5	5	1
11	4.31	4.41	5	5	2
12	4.94	4.75	5	5	3
13	2.31	2.44	2・3	5	1
14	2.31	2.72	3	5	1
15	4.19	4.41	5	5	3
16	4.31	4.38	5	5	3
17	4.19	4.25	4	5	2
回答者数	16	32			



#### 受講生の傾向

受講生38名の構成は、公認会計士志望者が23名、税理士志望者が15名であった。授業評価アンケートNo.10(クラスの規模)の結果のとおり、再び悪化した(昨年度19名、一昨年度32名)。また、昨年度と異なり、公認会計士志望者には、すでに公認会計士試験の論文式試験の合格者や短答式試験の合格者がおり、例年以上に既修者と初学者との理解度の差が大きい印象であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義レジュメを令和5年度の公認会計士試験の過去問を追加した内容に変更した。受講者は38名と多かったが、公認会計士試験の過去問に対する解答を3名程度から述べさせ、受講生間で誤りの解答情報を共有するように努めた。また、微調整ではあるが、各回で取り扱う内容の見直しを行い、学生との上記やり取りを行うための時間を確保した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

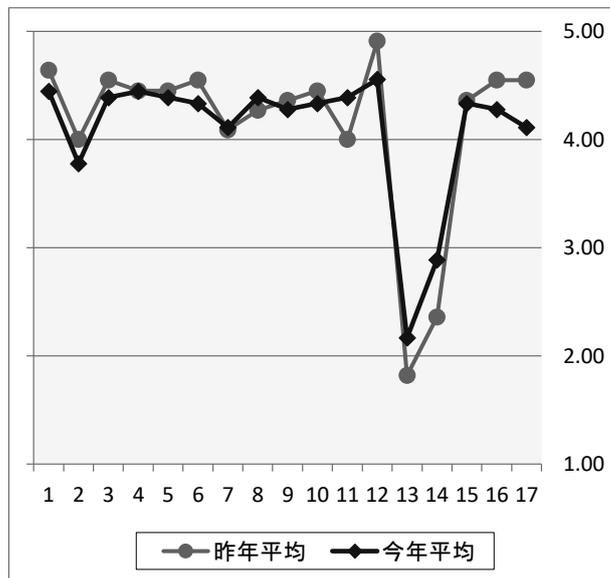
公認会計士試験の過去問に対応した講義レジュメの作成は、有効だったと思われる。次年度も令和5年度の公認会計士試験の過去問を新たに追加し、それに対応した講義レジュメを作成したい。また、少なくとも3名以上から過去問の解答を述べさせる方法は、受講生に他の受講生の解答との違いによって、理解が深まっているようであった。授業時間の制約もあるが、次年度も実施したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の方法は有効であったように思われることから、次年度も引き続き採用していきたい。なお、税制改正の動向を踏まえて、取り扱う項目の見直しと、それに伴う講義レジュメの加筆修正を行う必要はある。

科目	上級税務会計論		
配当年次	1	開講時限	春木4
受講者数	22	回答者数	18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.44	5	5	3
2	4.00	3.78	3	5	3
3	4.55	4.39	5	5	3
4	4.45	4.44	5	5	3
5	4.45	4.39	5	5	3
6	4.55	4.33	5	5	3
7	4.09	4.11	5	5	1
8	4.27	4.39	5	5	3
9	4.36	4.28	5	5	3
10	4.45	4.33	4・5	5	3
11	4.00	4.39	5	5	3
12	4.91	4.56	5	5	3
13	1.82	2.17	1	5	1
14	2.36	2.89	3	5	2
15	4.36	4.33	4・5	5	3
16	4.55	4.28	5	5	3
17	4.55	4.11	4・5	5	2
回答者数	11	18			



#### 受講生の傾向

受講生22名の構成は、公認会計士志望者が17名、税理士志望者が5名であった。特に、公認会計士志望者には、すでに公認会計士試験の論文式試験の合格者や短答式試験の合格者がおり、例年以上に既修者と初学者との理解度の差が大きい印象であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は、講義内で取り扱う過去問の量に差があった。今年度はその点を改善し、公認会計士試験の過去問の量を均等化させ、出来る限り授業内で過去問を解答させる時間を確保した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

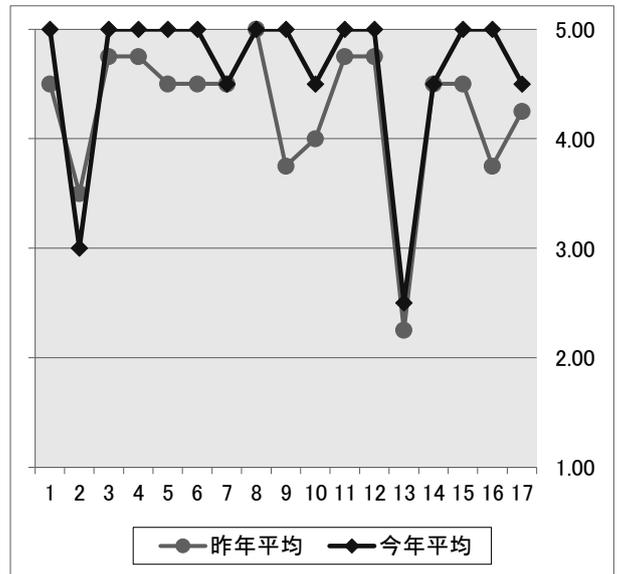
公認会計士試験の過去問を項目ごとにまとめた講義レジュメに基づく講義は非常に有益だった、と受講生から聞いているため、次年度も継続したい。なお、授業時間の制約から全ての過去問を取り入れて講義を行うことは無理なため、講義内で取り扱う公認会計士試験の過去問を選別し、講義レジュメのボリュームをコントロールしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

各講義で取り扱う公認会計士試験の過去問の量を均等化させることに加えて、税制改正の動向を踏まえて取り扱う項目の見直しも行う必要がある。

科目	特殊講義(資本市場論)		
配当年次	2	開講時限	春木2
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.75	5.00	5	5	5
4	4.75	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.50	4.50	4・5	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	3.75	5.00	5	5	5
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.75	5.00	5	5	5
13	2.25	2.50	2・3	3	2
14	4.50	4.50	4・5	5	4
15	4.50	5.00	5	5	5
16	3.75	5.00	5	5	5
17	4.25	4.50	4・5	5	4
回答者数	4	2			



#### 受講生の傾向

今回は受講生が少数であり、会計士志望者と会計士志望で就職活動も合わせて行っている学生であった。受講理由は、将来役に立ちそうとの理由やファイナンスに興味があり基礎固めをしたかった等であった。出席率も良好で、質問しやすい雰囲気もあり、質疑や各自の見解をのべるなど、受講態度も積極的であった。また、課題についても真面目に取り組み、提出状況は良好で各自の視点による見解を明確に述べることであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

グループワークを実施予定だったが、少人数であったため、発言、質問、意見のしやすさを重視して講義を行い、講師を交えた意見交換等を積極的におこなった。また、直近の事例や有名な事例を積極的に取り上げ、学生が興味を持てるようにした。またPC等を活用した演習講義も取り入れ、一方的な座学とならないように心掛けた。

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

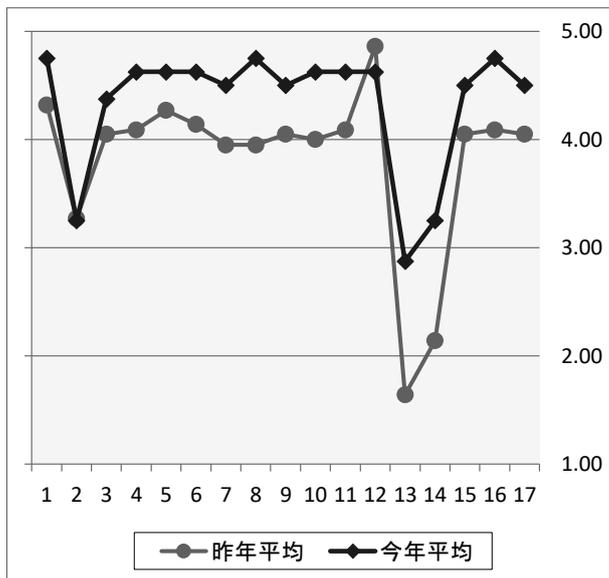
課題や質疑応答で受講生の知識の定着などを確認しながら、グループワーク等を取り入れるなど、引き続き受講生が主体的に関わることができるように努める。また、会計専門職として資本市場に関して将来役立つ知識を事例や実務経験を通して伝えていくように心がける。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き、学生が主体的に関わることができるような講義設計を行う。受講生数に合わせて、グループワークやディスカッション、意見交換、質疑等々を積極的に行う。また、座学のみとならないようPC等を活用する講義を取り入れる。受講生が資本市場に関する興味や意識をもつための基礎となる知見等を、事例や講師の実務経験等を通じて伝え、学生が各自で考える契機となることを重視する。

科 目	特殊講義(不正摘発監査論)		
配当年次	2	開講時限	春土2
受講者数	10	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.32	4.75	5	5	4
2	3.27	3.25	3	4	3
3	4.05	4.38	5	5	3
4	4.09	4.63	5	5	4
5	4.27	4.63	5	5	4
6	4.14	4.63	5	5	4
7	3.95	4.50	4・5	5	4
8	3.95	4.75	5	5	4
9	4.05	4.50	4・5	5	4
10	4.00	4.63	5	5	4
11	4.09	4.63	5	5	4
12	4.86	4.63	5	5	4
13	1.64	2.88	1・2・5	5	1
14	2.14	3.25	2	5	2
15	4.05	4.50	5	5	3
16	4.09	4.75	5	5	3
17	4.05	4.50	5	5	3
回答者数	22	8			



#### 受講生の傾向

公認会計士試験を受験予定で、不正に特に関心を持ち、学習意欲の高い学生が多い傾向がある。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年は少人数であったため、昨年度よりディスカッションを多く取り入れ、講義ごとに学生の思考力や理解度を確認するように工夫した。

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

ディスカッション形式は難しいので、知識や思考力の定着に向けて、課題とレポートを今年度より増やしたい。

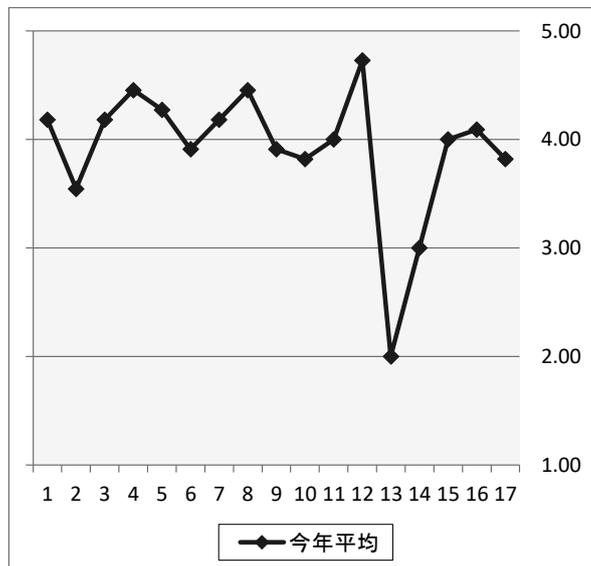
#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

次年度も本講義を受け持つかは不明であるが、受け持つ場合は、今年と同様にディスカッションの機会及び課題の回数増やし、学生の思考力や理解度を確認するように工夫したい。

科 目	特殊講義(経営学)		
配当年次	1	開講時限	春金5
受講者数	10	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.18	4	5	4
2	—	3.55	3	5	3
3	—	4.18	4	5	4
4	—	4.45	4	5	4
5	—	4.27	4	5	4
6	—	3.91	4	5	2
7	—	4.18	4	5	4
8	—	4.45	4	5	4
9	—	3.91	4	5	2
10	—	3.82	4	5	2
11	—	4.00	4	5	3
12	—	4.73	5	5	4
13	—	2.00	1	5	1
14	—	3.00	2・3	5	2
15	—	4.00	4	5	3
16	—	4.09	4	5	3
17	—	3.82	4	5	2
回答者数	—	11			

※昨年平均値なし



#### 受講生の傾向

会計士志望の受講生が多いが、タイミング的に経営学未学習者が多い。そのため、授業内容は基本的な論点をベースに、将来的な会計士試験受験に役立つものとしている。それでも、内容について来られない受講生もいたように感じる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

新設科目のため昨年度評価なし。

上述のように、今回の講義では基本的な内容で経営学(主にファイナンス論)のベースを養うことを重視した。適宜例題を用いた演習を行い、会計士試験合格の基礎を作ること留意した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

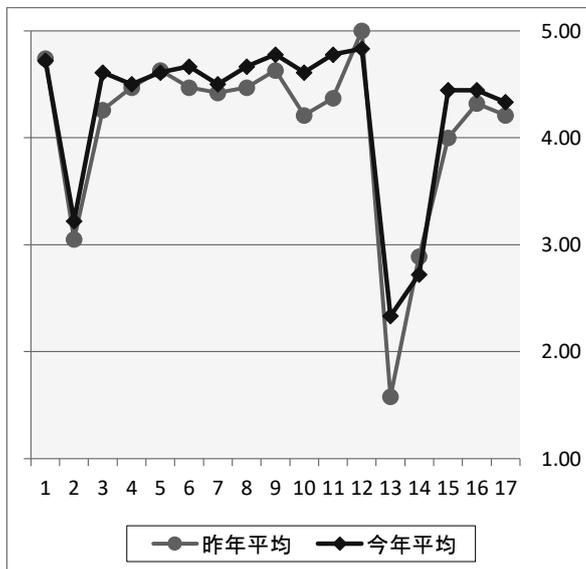
該当なし(今年度新設科目)

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

難易度としては今回の内容で概ね問題ないと考えている。課題等を用いてさらなる学習効果の向上を図ることを検討したい。

科 目	IFRS会計論		
配当年次	2	開講時限	春火1
受講者数	22	回答者数	18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.74	4.72	5	5	4
2	3.05	3.22	3	5	3
3	4.26	4.61	5	5	4
4	4.47	4.50	5	5	2
5	4.63	4.61	5	5	2
6	4.47	4.67	5	5	4
7	4.42	4.50	5	5	2
8	4.47	4.67	5	5	4
9	4.63	4.78	5	5	4
10	4.21	4.61	5	5	4
11	4.37	4.78	5	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	1.58	2.33	2	5	1
14	2.89	2.72	3	5	1
15	4.00	4.44	5	5	1
16	4.32	4.44	5	5	2
17	4.21	4.33	5	5	2
回答者数	19	18			



#### 受講生の傾向

昨年度より公認会計士の実務補修所での単位読み替え制度の対象となったことから受講生が多くなっている状態のようであるが、就職活動その他の事情により欠席する学生が多く、欠席日数も昨年度より多くなっている印象を受ける。4分の1ほど受講生は最低限の学習に留めているようであったが、受講生の全体としては予習・復習の上、真摯に受講していると感じた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

修了後に仕事の必要性からIFRSを学習することを踏まえ、その際に学習しやすいように、できるだけ各基準の基礎となる考え方やポイントとなる処理、日本基準との違いに講義内容を集中し、当該部分の理解のしやすさに注力した。また、毎回実施した小テストについても、その点を意識して作成した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

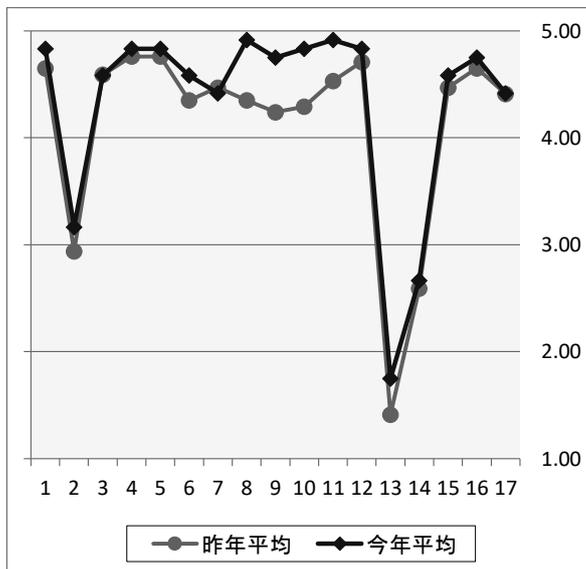
受講生の反応は、昨年度に引き続き概ね良好であると思われる。昨年度と比較し、結果が悪くなった項目とよくなった項目があり、制度変更により受講した受講生と従来どおりの希望で受講した受講生が混在した結果と受け止めているが、いずれの受講生であっても学習意欲が高まるような工夫を講じつつ、基本的に各基準の重要内容に絞りこみ、特徴の理解のしやすさを維持しようとする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の反応は、一昨年度より概ね良好であると思われる。受講生のニーズの変化が生じるまでは、基本的な授業での手法や内容について、継続するつもりである。具体的には、各基準の原則的な処理や重要内容に絞り込み、日本基準との相違についての理解のしやすさを維持しようとする。また、今年度見られた就職活動等で欠席が比較的多くなる受講生に対する追加的な手当についても工夫を講じるつもりである。

科 目	上級会社法		
配当年次	2	開講時限	春木3
受講者数	13	回答者数	12

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.65	4.83	5	5	4
2	2.94	3.17	3	5	3
3	4.59	4.58	5	5	4
4	4.76	4.83	5	5	4
5	4.76	4.83	5	5	4
6	4.35	4.58	5	5	4
7	4.47	4.42	5	5	2
8	4.35	4.92	5	5	4
9	4.24	4.75	5	5	4
10	4.29	4.83	5	5	4
11	4.53	4.92	5	5	4
12	4.71	4.83	5	5	4
13	1.41	1.75	1	4	1
14	2.59	2.67	2	4	1
15	4.47	4.58	5	5	4
16	4.65	4.75	5	5	4
17	4.41	4.42	5	5	3
回答者数	17	12			



#### 受講生の傾向

今年度は受講生が13名と授業の難易度の高さからすると、例年に比べて若干多い状況であった。内容が高度であり「会社法」を理解していなければ理解の難しい科目であるにもかかわらず、このような結果となるのは会社法に興味を抱いてくれた結果であろう。全員の授業態度は非常にまじめで熱心に取り組んでいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は上記で示したように受講生が若干多かったため、個々の学生のレベルにばらつきがあり、これを見極めながら授業を行った。つまり、それぞれの学生の理解度を見つつ、本来であれば上級会社法では扱わないような基本的なレベルでも、受講生が理解できていないようであれば解説し、逆に上級で詳細に説明する予定のところを学生が理解できている場合には簡単に説明したりするというを行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

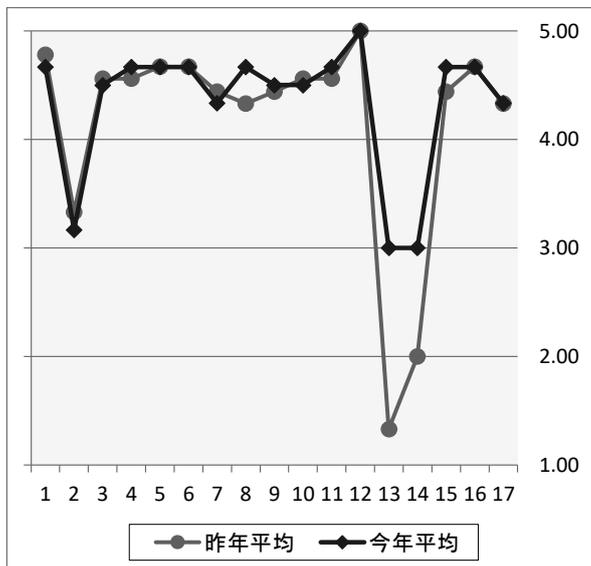
本授業では難易度の高い論文作成指導を通じて、各受講生の学習進度やレベルを把握して、きめ細かな指導を行っていききたい。そして、企業法および会社法と継続する科目であるので、これまでの各受講生の学習進度・レベルや弱点等を把握したうえで、効率的な授業を進める工夫を行いたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

これまで個人指導的に対話および論文指導を行ってきたが、若干受講者が増えてもきめ細かな指導を継続していききたい。受講生それぞれのレベルや理解度を把握するように心がけるとともに、それを実行するためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。また、上級会社法は、会社法から続く科目であるので、なるべく会社法で扱うところは会社法で、上級で扱うところは上級という厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少ないようであれば、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。

科 目	国際税務論		
配当年次	2	開講時限	春月4
受講者数	7	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.67	5	5	4
2	3.33	3.17	3	4	3
3	4.56	4.50	4・5	5	4
4	4.56	4.67	5	5	4
5	4.67	4.67	5	5	4
6	4.67	4.67	5	5	4
7	4.44	4.33	4	5	4
8	4.33	4.67	5	5	4
9	4.44	4.50	4・5	5	4
10	4.56	4.50	4・5	5	4
11	4.56	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.33	3.00	2	5	2
14	2.00	3.00	2	5	2
15	4.44	4.67	5	5	4
16	4.67	4.67	5	5	4
17	4.33	4.33	4	5	4
回答者数	9	6			



#### 受講生の傾向

受講生は、税理士志望者5名と会計士志望者2名から構成され、全員が国際租税法の初学者であった。アンケートNo.13及び14のとおり、昨年度と比べて、真面目に予習と復習に取り組んでいたようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は、外国子会社合算税制を取りやめ、代わりに消費税を1回増やすなど、昨年度の「今後の対応」に記載のとおり、全体的な見直しを行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

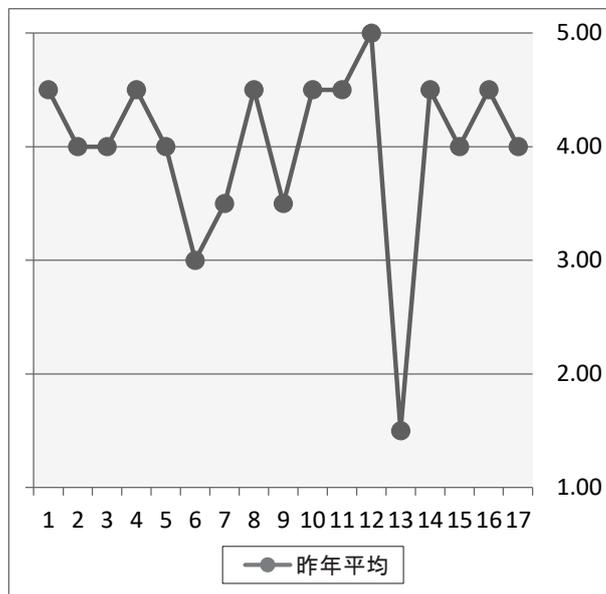
今年度を実施した3つの方法(第1は、講義レジュメの見直しを行った。具体的には、まず学習すべき内容の全体像を示し、次に個々の内容を紹介するスタイルを採用した。第2は、公認会計士試験の過去問に加えて、事例問題を用いて、受講生に出来る限り、条文の当てはめを学ぶ時間をとるようにすべく、受講生との質疑応答にウェイトを置いた講義を行った。第3は、国際租税法の解釈適用の理解向上を目指し、図を多用したことである。これは、テキストに図解シリーズを採用しただけでなく、レジュメやホワイトボードにも図を多用した。)は、国際租税法の初学者にとって有益であったように思われるため、次年度も実施したい。なお、国際租税法の領域では取り扱うべき内容が毎年増加していることに鑑み、次年度の講義計画を見直す必要がある。令和5年12月ごろに出される税制改正大綱の内容や公認会計士試験の動向も踏まえつつ、講義で取り扱うべき項目を取捨選択する予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の見直しの結果、昨年度に比べて時間的な余裕をもって講義を取り進めることができた。ただ、国際租税法は動きの早い分野であり、次年度も税制改正の動向を見ながら講義内容の見直しを行う必要がある。

科目	インベストメント論		
配当年次	2	開講時限	春木4
受講者数	7	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	—	—	—	—
2	4.00	—	—	—	—
3	4.00	—	—	—	—
4	4.50	—	—	—	—
5	4.00	—	—	—	—
6	3.00	—	—	—	—
7	3.50	—	—	—	—
8	4.50	—	—	—	—
9	3.50	—	—	—	—
10	4.50	—	—	—	—
11	4.50	—	—	—	—
12	5.00	—	—	—	—
13	1.50	—	—	—	—
14	4.50	—	—	—	—
15	4.00	—	—	—	—
16	4.50	—	—	—	—
17	4.00	—	—	—	—
回答者数	2	0			



#### 受講生の傾向

課題に真面目に取り組み、新しい分野を学習しようとする意欲が強い学生が多かった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

教科書の課題の中に、かなり難しい問題が含まれていたため、そのヒントとなるような問題を取り入れるようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今回行った授業を元に、今年度行った「反転授業」的要素『前回に係る課題の答え合わせ⇒その回の授業⇒その回に係る課題の掲示(⇒時間外授業で問題解答・提出)』を取り入れた授業を行っていきたい。ただし、ついてこれない学生に対して、落ちこぼれないように、今年の授業の経験をもとに、授業の内容等を工夫していきたい。

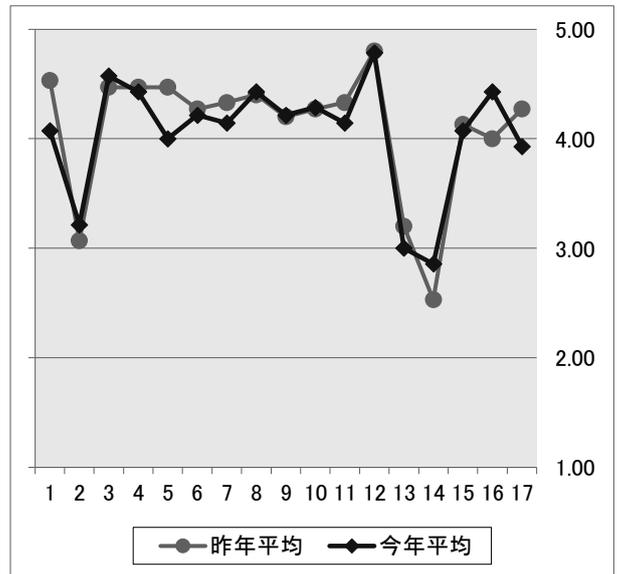
さらに、小テスト等も組み合わせ、効果的な授業を行いたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

基本的には、上記の通りの対応を行いたい。今後、新しい内容についてこれない学生も出る可能性があるため、オフィスアワー等を使ってフォローを行っていくようにしたい。

科目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	春月4
受講者数	27	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.07	4	5	1
2	3.07	3.21	3	4	3
3	4.47	4.57	5	5	3
4	4.47	4.43	4	5	4
5	4.47	4.00	4	5	3
6	4.27	4.21	4	5	3
7	4.33	4.14	4	5	2
8	4.40	4.43	4	5	4
9	4.20	4.21	4	5	3
10	4.27	4.29	5	5	2
11	4.33	4.14	5	5	2
12	4.80	4.79	5	5	4
13	3.20	3.00	2	5	2
14	2.53	2.86	3	5	1
15	4.13	4.07	4	5	2
16	4.00	4.43	5	5	3
17	4.27	3.93	4・5	5	1
回答者数	15	14			



#### 受講生の傾向

彼らと接して受けた印象としては、会計士になろうとする学生は少ないのではないかと、いうものだった。2024年前期の院生は一般事業会社への就職希望者が多く、会計士に何が何でもなろうとする院生はいないというものであった。その印象通りのんびりした雰囲気が彼らからは漂っていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年の個々の評価と遜色ない評価を得たのではないかと回答者数が昨年とほぼ同じだけの回答を得ている。

→それらを考慮すれば、昨年と同じくらいの評価を得たと言っていいのではないかと。

アマナという2024年1月で上場廃止になった会社のここ4年程の適時開示文をほぼ全てデータとして保有していたことが幸いであつた。その全ての適時開示資料と4年の間に提出された3通の調査報告書、証券取引委員会からの訂正指導の開示、会計監査人の交替、2回の臨時株主総会、ファイナンス等の適時開示資料を彼らに渡し、決算以外の情報は取引所の決定事実・発生事実から発せられる、ということを見せることができ、より実務的な内容になったと思っている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

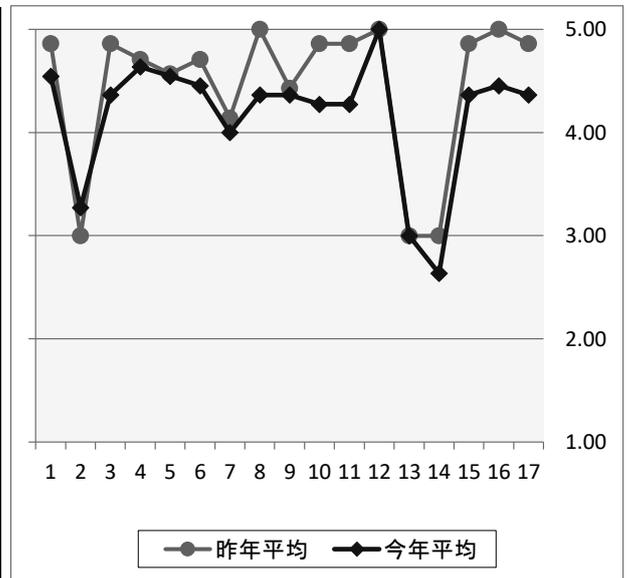
- ・関大LMS添付資料やスライド枚数はもっと削減して説明論点を絞り、院生の「解った」感を引き出す。
- ・グループディスカッションを控える点は継続。各自発表時のフィードバックはより丁寧に個々へ行う。良い着眼点は口頭でその旨を言う。
- ・関大LMSへ添付した事前提示資料を事前に斜め読みする事だけでも、授業の理解が深まる点を伝える。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

2025年度前期は、アマナに匹敵する事例を見つけることができるか、にかかっていると思っている。同じように実務的な内容にしたいと思っている。

科目	論文指導(導入)(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	春火5
受講者数	13	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.86	4.55	5	5	4
2	3.00	3.27	3	5	3
3	4.86	4.36	4	5	4
4	4.71	4.64	5	5	4
5	4.57	4.55	5	5	4
6	4.71	4.45	4	5	4
7	4.14	4.00	4・5	5	2
8	5.00	4.36	4	5	4
9	4.43	4.36	4・5	5	3
10	4.86	4.27	4・5	5	2
11	4.86	4.27	4	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.00	2	5	1
14	3.00	2.64	2	5	1
15	4.86	4.36	5	5	3
16	5.00	4.45	5	5	3
17	4.86	4.36	4・5	5	3
回答者数	7	11			



#### 受講生の傾向

受講生は全て税理士志望であり、最終的には税理士試験の税法2科目免除を希望していた。受講生のうち1名は所得税法の実務経験者であるが、その他の受講生は所得税法の初学者であった。アンケートNo.17のとおり、今年度の受講生は昨年度よりも授業内容を若干ではあるが、理解できていなかったようである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

10名を超える受講者のため、まずは通常報告と成果報告の全体スケジュールを最初に決定した。次に、複数の報告者に対応するため、報告、グループワーク、質疑応答の順で授業時間内で終了できるよう、時間配分に配慮した。さらに欠席者に対応すべく、講義レジュメをLMSIにアップした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

今年度を実施した上記3つの方法は、教育効果として有効と思われるため、次年度も実施したい。なお、第一及び第二の実施にあたり、受講生への継続的な注意喚起は必要である。第一については、受講生が条文を読まずに報告レジュメを作成していたことが多かったためである。第二については、条文とは全く関係のない質疑応答が展開される場面が頻繁に散見されたためである。

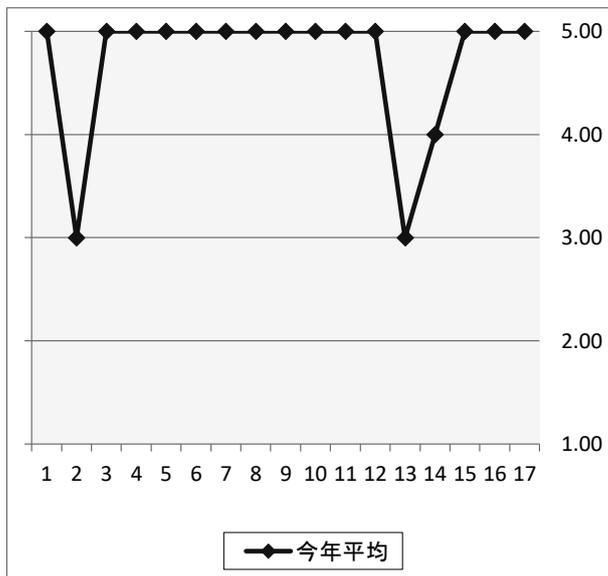
##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の対応は、10名を超える受講者がいても可能な方法であった。ただ、授業時間をオーバーしてしまったこともあったため、時間配分は課題である。

科 目	論文指導(導入)(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	春木5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	-	5.00	5	5	5
2	-	3.00	3	3	3
3	-	5.00	5	5	5
4	-	5.00	5	5	5
5	-	5.00	5	5	5
6	-	5.00	5	5	5
7	-	5.00	5	5	5
8	-	5.00	5	5	5
9	-	5.00	5	5	5
10	-	5.00	5	5	5
11	-	5.00	5	5	5
12	-	5.00	5	5	5
13	-	3.00	3	3	3
14	-	4.00	4	4	4
15	-	5.00	5	5	5
16	-	5.00	5	5	5
17	-	5.00	5	5	5
回答者数	-	1			

※昨年平均値なし



#### 受講生の傾向

受講生は公認会計士試験合格者1名であり、勉学意欲も高く論文作成のための基本的な作法を含め、論理的な論文の作成ノウハウを積極的に習得した。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

論文作成の導入指導を行なうため、社会科学系論文を作成するための作法を紹介するとともに、論題に関連する資料収集、先行研究レビュー、ならびに仮説の設定と論証について具体的な題材を用いて講義を行なった。

#### 今後の対応

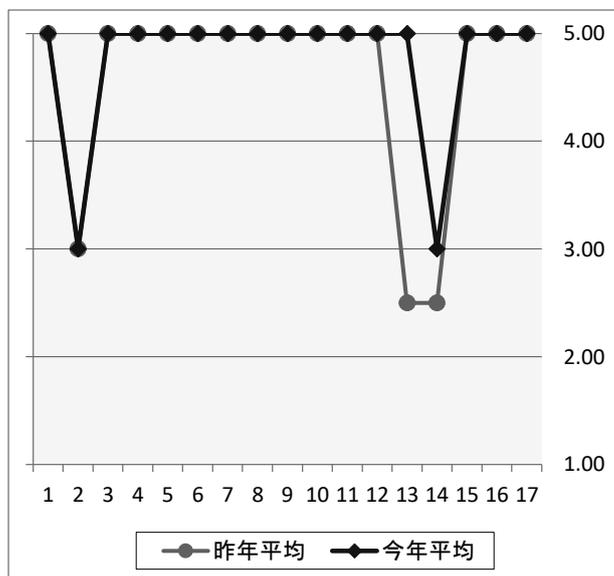
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

特定の論題に対する資料収集や先行研究レビューは論文作成に当たって最も基本的な準備作業に当たることから、引き続き指導において強調したい。

科 目	論文指導(導入)(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	春木5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.50	5.00	5	5	5
14	2.50	3.00	3	3	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



#### 受講生の傾向

本科目の性質上、受講生はいても少人数であるが、今回は1名であった。1対1の授業になるので、必然的に授業態度も良好、かつ授業に対しても熱心であった。本授業の履修者は、目的意識もはっきりしており、授業の都度、論文作成能力も上昇していくのがはっきりとわかるほどであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業では、受講生が1名ということから、学生の希望テーマや学習レベルに合わせて、丁寧に授業を展開することを心掛けた。必要に応じて設定した題材の範囲を超えて、またより深く掘り下げることをしながら、受講生にとって最適な難易度や進度を探りつつ授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

「論文指導・修士論文(導入)」の授業を終えたが、いまだに導入にあたる部分のすべてを授業の中で扱えたとは思っていない。もっと文章を書く練習を積み重ねる必要があったし、それらの文章についてもっと細かくチェックできれば尚よかったと思う。今後はこれを踏まえた指導を行うようにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

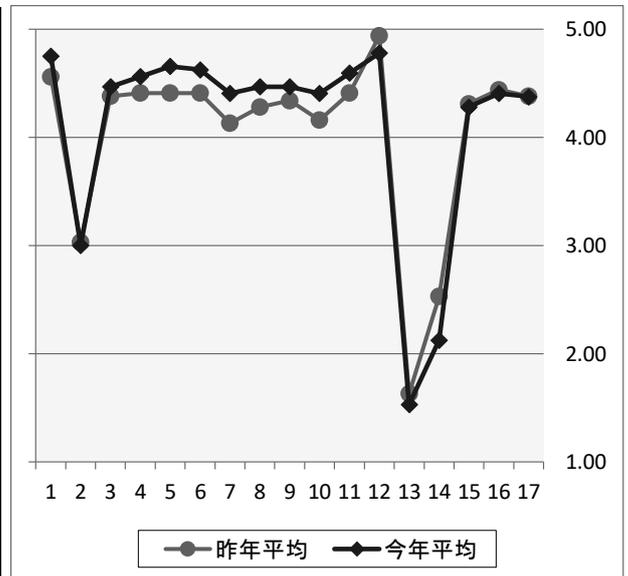
今回の授業のように学生のレベルや希望に沿った授業ができるというのはおそらくまれであろう。今後の対応としては、受講生が2名以上となった場合には受講生の希望およびレベルの調整をしつつ、授業を行っていく必要がある。受講生が複数存在する場合でも、教員の側で各人の学力をしっかり把握する必要があるのと、かつ論文作成能力は徐々に高まっていくので授業の都度に学力を把握することが欠かせなくなる。

### Ⅲ-(2). 2024 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要



科 目	会社経理実務		
配当年次	1	開講時限	秋水2
受講者数	59	回答者数	32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.56	4.75	5	5	3
2	3.03	3.00	3	3	3
3	4.38	4.47	5	5	3
4	4.41	4.56	5	5	3
5	4.41	4.66	5	5	3
6	4.41	4.63	5	5	3
7	4.13	4.41	5	5	3
8	4.28	4.47	5	5	3
9	4.34	4.47	5	5	3
10	4.16	4.41	5	5	3
11	4.41	4.59	5	5	3
12	4.94	4.78	5	5	3
13	1.63	1.53	1	3	1
14	2.53	2.13	2	3	1
15	4.31	4.28	4	5	3
16	4.44	4.41	4・5	5	3
17	4.38	4.38	5	5	3
回答者数	32	32			



#### 受講生の傾向

1年生が多い。経理について簿記をするとしか思っていない人が多く、本講義で経理の幅広い業務を理解してもらえたと感じた。皆まじめに課題に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
 復習する時間を増やすべく、課題を増やした。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

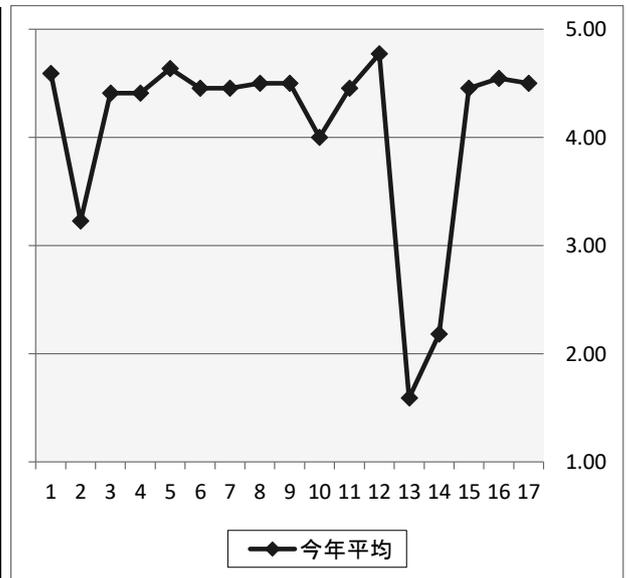
課題をほぼ毎回課すことにより、学生の復習の機会を増やせたので、次年度も今年度と同じように実施していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講人数が多すぎてディスカッション形式は難しいため、課題で思考力がついているかを確認する。

科 目	特殊講義(連結会計実務)		
配当年次	1	開講時限	秋水3
受講者数	39	回答者数	22

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.59	5	5	4
2	—	3.23	3	5	3
3	—	4.41	4	5	4
4	—	4.41	4	5	4
5	—	4.64	5	5	4
6	—	4.45	4	5	4
7	—	4.45	4	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	5	5	3
10	—	4.00	4	5	1
11	—	4.45	4	5	4
12	—	4.77	5	5	4
13	—	1.59	1	4	1
14	—	2.18	1	5	1
15	—	4.45	5	5	3
16	—	4.55	5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	22			



#### 受講生の傾向

1年生が多く受講していた。非常に真面目で熱心に取り組んでいたため、成績も優秀な人が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
昨年度は未実施。

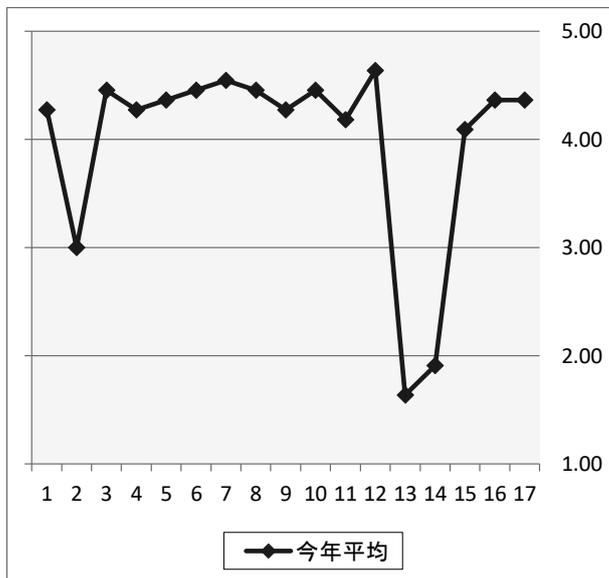
#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」  
昨年度は未実施。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」  
次年度以降、当該科目を担当しない。

科目	特殊講義(連結会計論)		
配当年次	—	開講時限	秋金3
受講者数	30	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.27	5	5	2
2	—	3.00	3	4	2
3	—	4.45	5	5	3
4	—	4.27	5	5	3
5	—	4.36	5	5	2
6	—	4.45	5	5	3
7	—	4.55	5	5	3
8	—	4.45	5	5	3
9	—	4.27	5	5	2
10	—	4.45	5	5	3
11	—	4.18	5	5	1
12	—	4.64	5	5	4
13	—	1.64	1	3	1
14	—	1.91	1	4	1
15	—	4.09	4	5	2
16	—	4.36	5	5	2
17	—	4.36	4・5	5	3
回答者数	—	11			



#### 受講生の傾向

会計士試験に向けて学習している受講生が多く、基礎的な論点は把握していると考えられる。しかしながら、一部受講生は基礎的な論点も不安のある学習進度であり、授業内容(レベル)の設定に配慮する必要がある。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度スタートの授業であり、昨年度アンケートなし。

講義では、基礎的論点に加え、実務上の留意点や会計基準の設例、会計士試験の過去問を利用した問題へのアプローチ方法についての説明を盛り込むことに留意した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

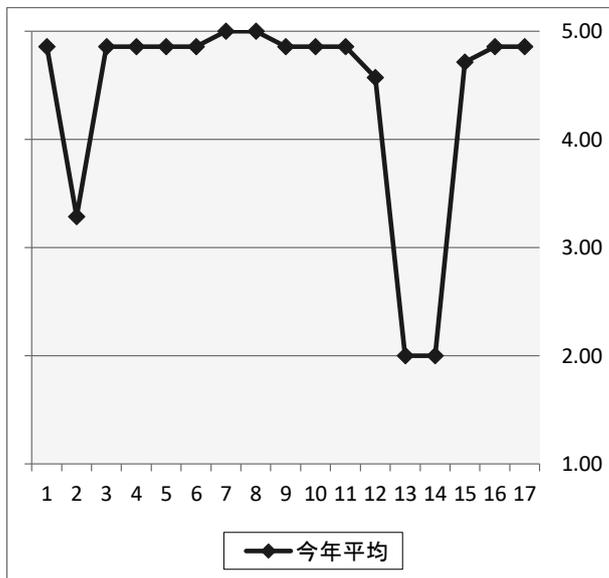
#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習が必ずしも必要な授業内容の設定にしていなかったため、その点がアンケート結果に出ている。今後の対応として、必要に応じて学習効果を高めるような予習・復習を促すことも検討したい。

また、学習進度に応じた対応についても引き続き留意したい。

科目	特殊講義(財務会計各論)		
配当年次	—	開講時限	秋金4
受講者数	20	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.86	5	5	4
2	—	3.29	3	5	3
3	—	4.86	5	5	4
4	—	4.86	5	5	4
5	—	4.86	5	5	4
6	—	4.86	5	5	4
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.86	5	5	4
10	—	4.86	5	5	4
11	—	4.86	5	5	4
12	—	4.57	5	5	4
13	—	2.00	1・3	3	1
14	—	2.00	1・3	3	1
15	—	4.71	5	5	4
16	—	4.86	5	5	4
17	—	4.86	5	5	4
回答者数	—	7			



#### 受講生の傾向

会計士試験に向けて学習している受講生が多く、基礎的な論点は把握していると考えられる。授業への積極的な参加という点では、個々に比較的大きな差があると感じられ、積極性の高い受講生は成績も良い傾向にある。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度スタートの授業であり、昨年度アンケートなし。

講義では、会計士試験の過去問を利用した問題へのアプローチ方法についての説明を盛り込むことに留意し、主に短答式試験レベルの問題に関して、会計基準等の該当箇所や解答方法の解説を実施した。

#### 今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

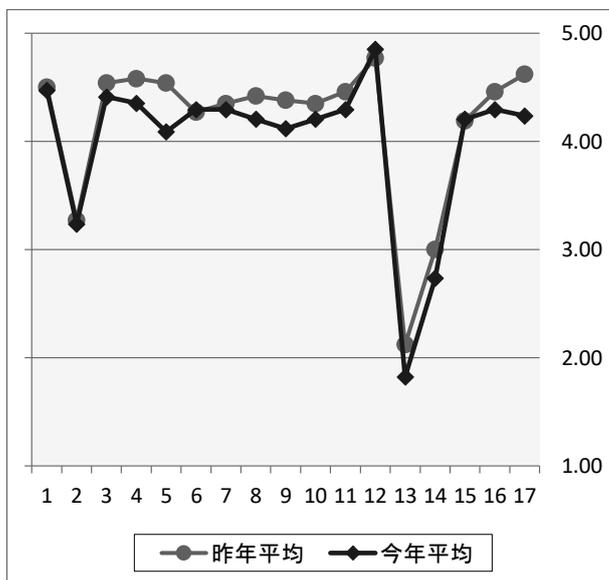
#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習が必ずしも必要な授業内容の設定にしていなかったため、その点がアンケート結果に出ている。今後の対応として、必要に応じて学習効果を高めるような予習・復習を促すことも検討したい。

また、能動的な授業への参加を促進できるよう、発言の機会を増やすことも考えていきたい。

科目	上級管理会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木3
受講者数	49	回答者数	34

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.47	5	5	3
2	3.27	3.24	3	5	2
3	4.54	4.41	5	5	3
4	4.58	4.35	4・5	5	1
5	4.54	4.09	4	5	1
6	4.27	4.29	4	5	1
7	4.35	4.29	4	5	1
8	4.42	4.21	4	5	2
9	4.38	4.12	4	5	2
10	4.35	4.21	4	5	2
11	4.46	4.29	4	5	1
12	4.77	4.85	5	5	4
13	2.12	1.82	1	5	1
14	3.00	2.74	2	5	1
15	4.19	4.21	4・5	5	2
16	4.46	4.29	4	5	2
17	4.62	4.24	4	5	3
回答者数	26	34			



#### 受講生の傾向

本科目は、学生にとって必修となる基本科目の再履修クラスである。受講生は全体として真面目に出席して課題に取り組んでいた。ただし、多様な学生が受講していたため、受講生間の知識には差があるように見受けられた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の評点が全体として良好であった。そのため、本年度も昨年度と同様の取り組みを継続するように試みた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

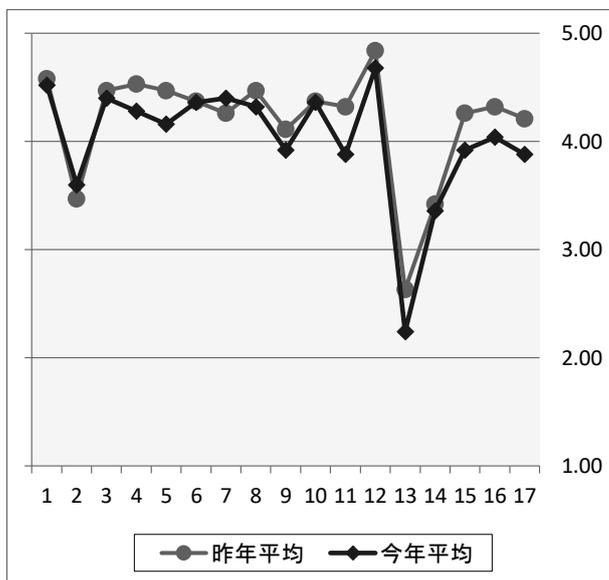
本年度の評点は、全体として昨年度よりも改善しており良好であったと解釈している。また、昨年度で課題としていた予習と復習についても評点が改善している。そのため、次年度も本年度の講義方法を継続していきたいと考えている。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度よりも評点がやや低下したとはいえ、全体としては評価は良好であったと考えられる。そのため、全体としては本年度と同様の取り組みを継続しつつ、昨年度よりも多様な学生の状況に注意して授業を行う予定である。

科目	上級簿記論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	38	回答者数	25

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.52	5	5	3
2	3.47	3.60	3	5	2
3	4.47	4.40	5	5	3
4	4.53	4.28	5	5	1
5	4.47	4.16	5	5	1
6	4.37	4.36	5	5	1
7	4.26	4.40	5	5	2
8	4.47	4.32	5	5	1
9	4.11	3.92	5	5	1
10	4.37	4.36	5	5	3
11	4.32	3.88	5	5	1
12	4.84	4.68	5	5	4
13	2.63	2.24	1	5	1
14	3.42	3.36	5	5	1
15	4.26	3.92	5	5	1
16	4.32	4.04	5	5	1
17	4.21	3.88	4	5	1
回答者数	19	25			



#### 受講生の傾向

受講生は、未履修の学生と再履修の学生であった。資格試験の勉強に取り組んでいる学生も多かったが、ごく一部の受講生を除き、全体的に簿記の習熟度は低く、簿記の基礎力に欠ける受講生も多くいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

簿記の習熟度が低い受講生が多く、それに配慮して講義を展開した。講義中の説明は、「覚えて解く」(暗記)ではなく、「考えて解く」(理解)を意識するように指導した。講義中に問題演習の時間を設け、できるかぎり全員の理解を確認して回った。春学期の同様に課外講座を実施して授業との連携をはかり、受講生のスキルアップを図った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

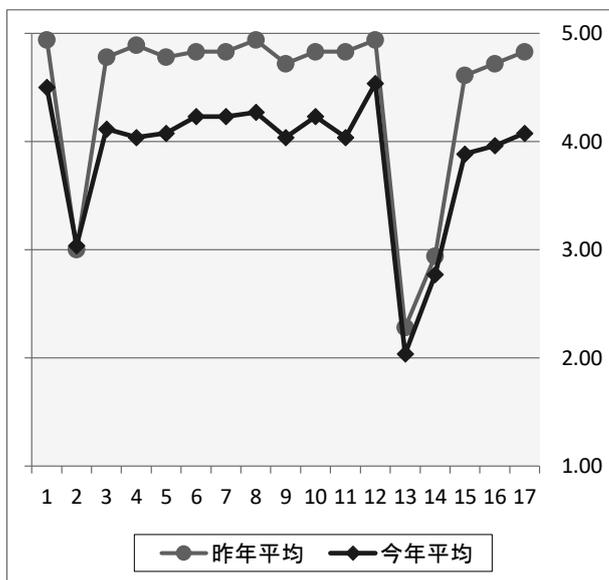
今年度のアンケート結果は概ね高いポイントを得ており、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は昨年度と比べて低い項目もあるが、最頻値は概ね「5」であり、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。また、日商2級の学力に不安がある受講生には、「中級商業簿記」の積極的な履修を促すようにする。

科目	財表作成簿記論		
配当年次	1	開講時限	秋木4
受講者数	36	回答者数	26

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.94	4.50	5	5	3
2	3.00	3.04	3	5	1
3	4.78	4.12	5	5	1
4	4.89	4.04	5	5	1
5	4.78	4.08	5	5	1
6	4.83	4.23	5	5	1
7	4.83	4.23	5	5	2
8	4.94	4.27	5	5	2
9	4.72	4.04	5	5	1
10	4.83	4.23	5	5	2
11	4.83	4.04	5	5	1
12	4.94	4.54	5	5	3
13	2.28	2.04	1	5	1
14	2.94	2.77	3	5	1
15	4.61	3.88	5	5	1
16	4.72	3.96	5	5	1
17	4.83	4.08	5	5	2
回答者数	18	26			



#### 受講生の傾向

受講生は、資格試験の勉強に取り組んでいる学生が多かったが、一部の学生を除き、簿記の習熟度はあまり高いとはいえなかった。多くの受講生は、講義の趣旨を理解して、この機会に知見を深めようと努めていたが、なかには、講義中に関係のない内容の勉強をしているなど、講義に関心がない様子の受講生も散見された。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的で重要な論点を優先的かつ反復的に取り扱うことで、知識の定着が図られるようにした。とくに連結財務諸表の作成は、計算問題を解くという資格試験対策の目線でテクニカルに指導するのではなく、財表作成のプロセスを明確に意識しながら仕訳の意味を考えて根本理解に努めるように指導し、そのように講義資料も工夫した。また、講義中に問題演習の時間を設け、できるかぎり全員の理解を確認して回った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

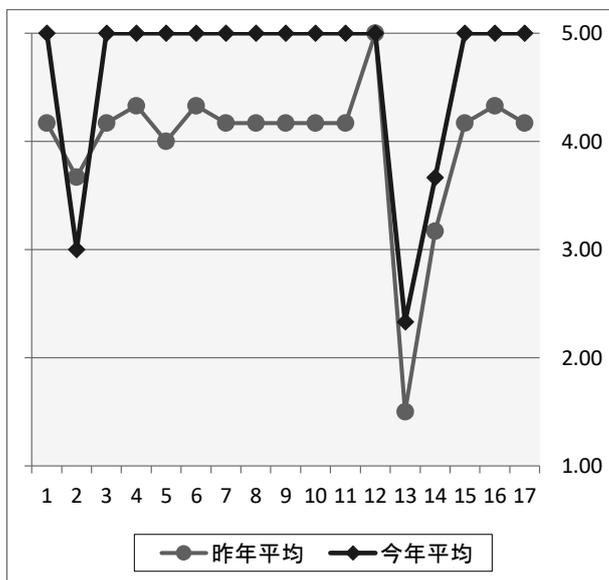
今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度のアンケート結果は昨年度と比べて全体的に低いですが、昨年度の結果はあまりに高く、受講生の簿記の習熟度や学習意欲の違いによるものと推察される。今年度の結果だけで考えると、最頻値は概ね「5」であり、全体的な講義展開としては良い感触を得ている。次年度も継続することにした。

科目	ディスクロージャー実務		
配当年次	2	開講時限	秋木2
受講者数	7	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	5.00	5	5	5
2	3.67	3.00	3	3	3
3	4.17	5.00	5	5	5
4	4.33	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	4.33	5.00	5	5	5
7	4.17	5.00	5	5	5
8	4.17	5.00	5	5	5
9	4.17	5.00	5	5	5
10	4.17	5.00	5	5	5
11	4.17	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.50	2.33	1	5	1
14	3.17	3.67	3	5	3
15	4.17	5.00	5	5	5
16	4.33	5.00	5	5	5
17	4.17	5.00	5	5	5
回答者数	6	3			



#### 受講生の傾向

受講生は実質5名で、内訳は会計士論文試験合格者3名、会計士志望者2名(うち1名は一般企業も想定)であった。少人数でもあり、講義中は常に講師より問いかけを行ったが、受講生はいずれも各自の視点を踏まえた的確な意見を回答し、プレゼンテーションなどによる課題発表においても、意見のまとめ方や発表、質疑応答など全般にわたり優秀であった。出席率も大変良好で、受講態度も真面目でかつ受動的ではなく、講義内によく思考している様子が伺えた。講師としては、毎回、講義テーマについて、受講生の意見を聞き、ディスカッションするのが楽しみであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

少人数でもあり、自己の視点で考えるということに重点を置き、自由な意見を言えるような講義運営を心掛けた。講義では、間違いはなく、多様な意見があり、それらを踏まえて自分の最適解を思考する過程を重視した。また、親近感をもつため、できるだけ身近や現在の事例などを取り上げた。受講生のディスカッションは、まず2名～3名で話し合い、その後全体で議論するという形としたが、これが各自の意見を出しやすく、また思考を深めることに役立つようである。さらに、全体のディスカッション後に課題に取り組んでもらうことでより深く考える機会を設けた。受講生の感想においても、「講義内のディスカッションが楽しくいい経験となった」、「それぞれの考えを共有しながら講義が進むのがよかった」「どうすればよいか能動的に考える時間であり有意義であった」など好評であった。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

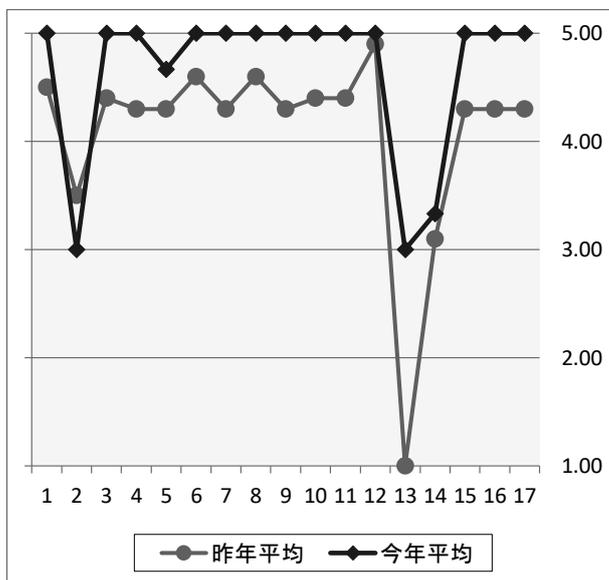
引き続き、変革期における制度の概要について、その背景等を理解しながら習得し、さらにはどうあるべきかという自己の視点をより深めることを重視した講義設計とする。そのため、講義だけではなく、ディスカッション、発表などを取り入れ、自己の考えを深め、さらに他の受講生の意見などを聞き、議論する機会を設ける。また、事例としてできるだけ身近な話題を取り上げ、積極的に教材として取り入れる。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

引き続き制度の概要について、その背景等を理解しながら習得し、さらにはどうあるべきかという自己の視点をより深めることを重視した講義設計とする。そのため、講義だけではなく、ディスカッション、発表などを取り入れ、自己の考えを深め、さらに他の受講生の意見などを聞き、議論する機会を設ける。ディスカッション方法等は、まず少人数で議論し、その後全体で議論するといった段階を設け、最終的に自己の見解をまとめるなど効果的な方法を積極的に採用する。

科目	実践会計プログラム演習		
配当年次	2	開講時限	秋木3
受講者数	11	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.50	3.00	3	3	3
3	4.40	5.00	5	5	5
4	4.30	5.00	5	5	5
5	4.30	4.67	5	5	4
6	4.60	5.00	5	5	5
7	4.30	5.00	5	5	5
8	4.60	5.00	5	5	5
9	4.30	5.00	5	5	5
10	4.40	5.00	5	5	5
11	4.40	5.00	5	5	5
12	4.90	5.00	5	5	5
13	1.00	3.00	1・3・5	5	1
14	3.10	3.33	2・3・5	5	2
15	4.30	5.00	5	5	5
16	4.30	5.00	5	5	5
17	4.30	5.00	5	5	5
回答者数	10	3			



#### 受講生の傾向

受講生の内訳は、会計士志望者4名(うち会計士論文試験合格者1名)、税理士志望者1名、一般企業その他志望者3名、留学生3名等であった。いずれも受講動機は会計ソフト等を実質的に使用した経験がなく、実践的な内容を学びたいというものであった。演習講義のため、出席及び講義内演習の課題提出を重視したが、出席率・課題の提出状況とも良好であった。また、多少の個人差はあるものの、エクセル等の基本的な操作についてはほぼ問題はなく、エクセル等による会計データの分析、固定資産管理、経営計画の作成などのより実践的な内容についても、真面目に丁寧に取り組んでいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まずはソフトの操作や会計数字の作成や分析が行えるよう、講義中は受講生の間を巡回し、個々の状況を確認しつつ、必要な場合にはアドバイス等を行った。上述したとおり、受講生のエクセル等の基本的なスキルは総じて高めであったが、演習課題の進捗には個人差があり、課題の提出期限を延長したり、応用問題を用意するなど、受講生全体の進捗にあわせた対応を行った。また経営計画作成において「会計数値に落とし込む」「会計数値を説明する」等については、ほとんどの受講生が不慣れであり、グループ間で説明する際にもヒアリング、質問、アドバイスなどを行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

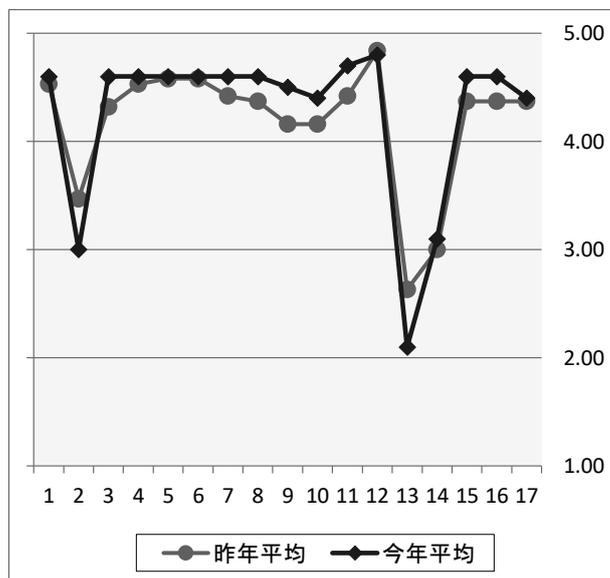
引き続き、PCを使用した演習講義の特色を活かし、経理業務の一連の作業を「勘定奉行」を使用した演習にて実施するとともに、会計データの分析、固定資産管理、経営計画の作成など、より実践的な内容も取り扱う。また、PC操作等については、受講生の間を巡回し、各々の状況に応じてアドバイスし、質問等に対応するなど、受講生の進捗度に合わせた対応に努める。さらに、グループでのディスカッションを取り入れ、「数字に落とし込む」、「説明する」、「質問する」といった会計専門職に必要な基本的なビジネスのスキルの向上を図る。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

PCを使用した演習講義の特色を活かし、経理業務の一連の作業を「勘定奉行」を使用した演習にて実施する。会計データの分析、固定資産管理、経営計画の作成など、より実践的な内容も取り扱う。また、PC操作等については、受講生の間を巡回し、各々の状況に応じてアドバイスし、質問等に対応するなど、受講生の進捗度に合わせた対応に努める。さらに、「数字に落とし込む」、「説明する」などの会計専門職に必要な基本的なビジネスのスキルの向上を図るため、計画等を数字に落とし込み、説明するなどの演習を実施する予定である。

科 目	上級原価計算論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋火2
受講者数	47	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.53	4.60	5	5	4
2	3.47	3.00	3	3	3
3	4.32	4.60	5	5	4
4	4.53	4.60	5	5	4
5	4.58	4.60	5	5	4
6	4.58	4.60	5	5	4
7	4.42	4.60	5	5	4
8	4.37	4.60	5	5	4
9	4.16	4.50	5	5	3
10	4.16	4.40	5	5	3
11	4.42	4.70	5	5	4
12	4.84	4.80	5	5	4
13	2.63	2.10	1	4	1
14	3.00	3.10	2	5	1
15	4.37	4.60	5	5	4
16	4.37	4.60	5	5	4
17	4.37	4.40	4	5	4
回答者数	19	10			



#### 受講生の傾向

今回の受講者は多様であり、原価計算に関する基本的な知識を事前に習得したものと、原価計算に関する知識を未だ十分に習得していないものが混在していた。また、授業に対する参加態度も多様で、授業を複数回欠席するものもある程度見受けられ、学習意欲についてのバラつきも見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者の多様性が顕著に見られたため、今回は、基本的な原価計算の知識とくに重点を置き、原価計算の基本となる計算構造に時間をかけて説明した。これに加えて、個々の計算構造を支える理論、および、原価計算の実務への適用とその有効性についての説明を体系立てて展開した。また、授業資料を早めに公開し、予習が十分にできるよう配慮した。アンケートを見る限り、結果はおおむね良好であったと考えられる。

#### 今後の対応

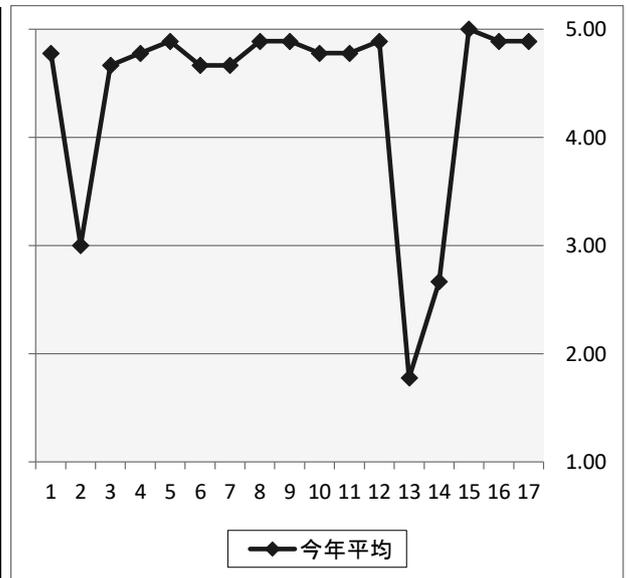
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回のように、受講生の多様性が顕著な場合が今後も想定される。そのため、本年度に実施した施策(すなわち、「基本的な原価計算の計算構造への注目⇒理論⇒実務」という順序だてた説明、授業資料の早期の公開など)をもとに、学習意欲の不足する受講生についても可能な限り対応し、原価計算への関心を高めていくことを考えている。

科目	戦略管理会計論		
配当年次	1	開講時限	秋火3
受講者数	32	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.78	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.67	5	5	4
4	—	4.78	5	5	4
5	—	4.89	5	5	4
6	—	4.67	5	5	4
7	—	4.67	5	5	4
8	—	4.89	5	5	4
9	—	4.89	5	5	4
10	—	4.78	5	5	4
11	—	4.78	5	5	4
12	—	4.89	5	5	4
13	—	1.78	1	3	1
14	—	2.67	2	4	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.89	5	5	4
17	—	4.89	5	5	4
回答者数	—	9			



#### 受講生の傾向

受講生は、おおむね学習意欲の高いものであった。また、出席状況についても良好なものが多く、授業態度についても積極的であった。中には、管理会計論全般に深く興味を持ち、授業の範囲を超えた質問(例えば、経営戦略論や経営組織論に関する質問など)をする受講生も見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業については、「前回の学習内容のふりかえり⇒今回の学習内容⇒今回のまとめ」、という流れで授業を展開し、知識が断片的にならないように工夫した。また、授業内容にかかわる資料を早めに公開することで、予習が十分に行えるように配慮した。これらの工夫は、アンケートを見る限り有益であったと考えられる。

#### 今後の対応

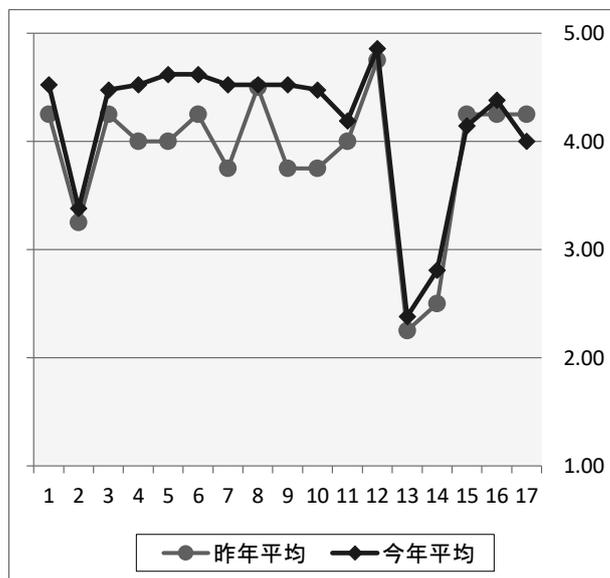
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

管理会計論の近年の動向をふまえて、授業内容についてさらに検討していきたいと考えている。また、学習意欲のバラつきがある場合も想定し、今年度で実施した「前回の学習内容のふりかえり⇒今回の学習内容⇒今回のまとめ」という授業の流れを維持しつつ、必要に応じて新たな内容を盛り込んでいきたいと考えている。

科目	上級財務会計論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月1
受講者数	35	回答者数	21

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.52	5	5	3
2	3.25	3.38	3	5	3
3	4.25	4.48	5	5	3
4	4.00	4.52	5	5	3
5	4.00	4.62	5	5	4
6	4.25	4.62	5	5	3
7	3.75	4.52	5	5	3
8	4.50	4.52	5	5	3
9	3.75	4.52	5	5	4
10	3.75	4.48	5	5	3
11	4.00	4.19	4・5	5	1
12	4.75	4.86	5	5	4
13	2.25	2.38	2	5	1
14	2.50	2.81	2	5	1
15	4.25	4.14	4	5	2
16	4.25	4.38	4	5	3
17	4.25	4.00	4	5	1
回答者数	4	21			



#### 受講生の傾向

概ね真摯に受講していたといえる。1時限での開講であることが原因かもしれないが、半数以上の受講生が数回の欠席あるいは少ない受講生が授業開始間際(直後)に入室してくる状況であった。一方で理解しづらかった点の理解を深めようと意欲のある学生も少なくなかった。例年の傾向ではあるが、授業後半での小テストや最終試験の結果が芳しくない。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

後半になると理解度が落ちてくる傾向があり、また、先取り履修の学部在籍の学生も数名受講しており、授業で扱うそれぞれの制度を比較して理解することよりもまず、それぞれの制度の理解を促し、余力のある場合に比較ができるように授業での説明の調整を行った。

#### 今後の対応

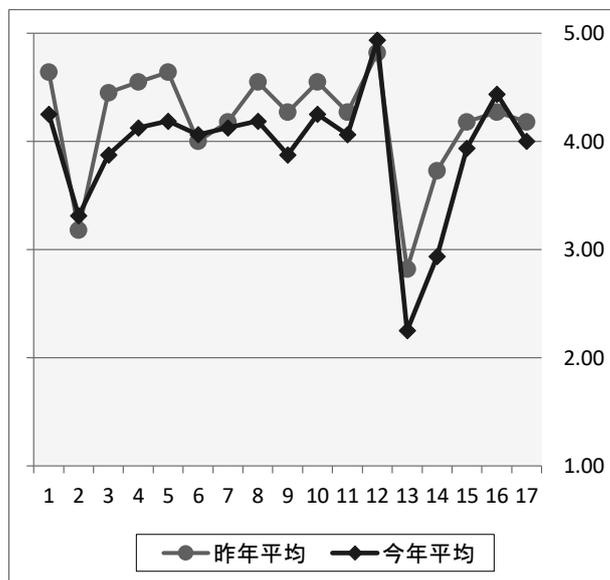
○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度は担当していないため、昨年度を踏まえた対応は検討できない。授業の到達目標としては、授業で扱う制度のそれぞれの理解を各制度の理解だけでなく比較して特徴を認識することにあるが、後半の授業内容(「財務会計の概念フレームワーク」やIFRSの概念フレームワーク)のそれぞれの理解をまずは優先することとし、その上で比較しながら特徴を把握するという目標へと誘導できるよう工夫を講じるつもりである。また、小テスト実施時で理解度を十分にあげておくよう受講生に指導するつもりである。

科目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋月4
受講者数	21	回答者数	16

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.25	5	5	1
2	3.18	3.31	3	5	1
3	4.45	3.88	5	5	1
4	4.55	4.13	5	5	1
5	4.64	4.19	4・5	5	1
6	4.00	4.06	5	5	1
7	4.18	4.13	5	5	1
8	4.55	4.19	4・5	5	1
9	4.27	3.88	5	5	1
10	4.55	4.25	4	5	3
11	4.27	4.06	5	5	1
12	4.82	4.94	5	5	4
13	2.82	2.25	1	5	1
14	3.73	2.94	3	5	1
15	4.18	3.94	5	5	1
16	4.27	4.44	5	5	1
17	4.18	4.00	5	5	1
回答者数	11	16			



#### 受講生の傾向

ほとんどの受講生が真摯に受講していたと感じていたが、授業開始時間間際に入室し、慌てて受講準備をする受講生や数回に渡り連続して欠席する受講生など真摯に受講しているとは感じられない受講生もいた。また、コンピュータに関連する授業であることから理解度に差が生じやすいようである。さらに、今年度の特徴かもしれないが、ほぼ男子学生であったためか下記の質問しやすい環境づくりを意識したためか、授業を少し軽んじる傾向を感じるとともに、演習時に騒々しくなる時があった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コンピュータでの処理について、手記の簿記とは異なる部分について理解しづらい受講生も少ないことから、手記の簿記との相違やコンピュータ処理の特徴を繰り返し説明するとともに、机間巡回の際、全ての受講生に声がけし、気軽に質問しやすい環境づくりに留意した。この環境づくりをアンケートにおける教員の熱意の低さと捉えられてしまったようである。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

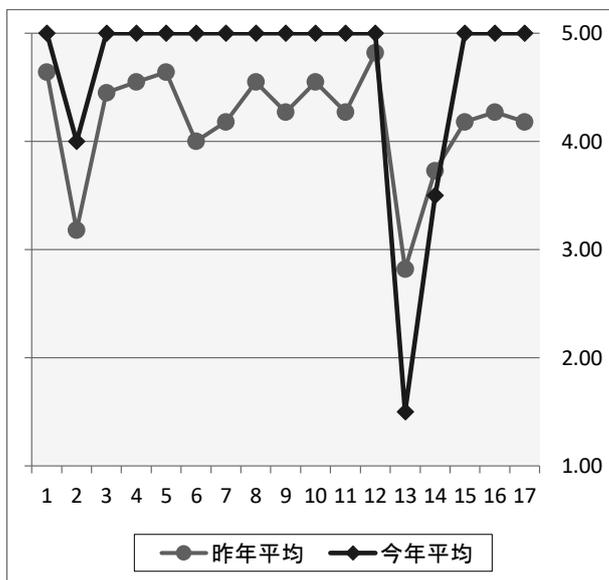
昨年度と比較し、受講生の反応がよくなった部分と悪くなった部分があり、より理解しやすい説明を心がけるつもりである。全体としては、昨年度と同様に、コンピュータの処理について、会計や従来の簿記とは異なり理解しづらいところも多いようであるため、基本的な処理の流れ、相違点や変異点を繰り返し説明することを継続しようと考えている。また、授業内容もアドバンストとなる部分は紹介にとどめて基本形の理解を徹底するつもりである。また、引き続き、演習時には個々の実施状況を把握し、補足的な説明やポイントを強調した説明を繰り返し理解の定着を心がけるつもりである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

コンピュータでの処理について、会計や手記の簿記とは異なる部分があり、理解しづらいところも多いようである。基本的な処理の流れ、手記からの変質点や特徴を繰り返し説明しつつ、基本的な処理と発展した場合での処理（他のシステムとの結合）などの理解を促すように工夫を講じ、授業内容の軽重が受講生にも理解できるように促しつつ、変化をつけた授業に心がけるつもりである。また、演習時には個々の実施状況を把握し、補足的な説明やポイントを強調した説明を行い、理解の定着に心がけるつもりである。

科目	基本会計プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋火1
受講者数	3	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	5.00	5	5	5
2	3.18	4.00	3・5	5	3
3	4.45	5.00	5	5	5
4	4.55	5.00	5	5	5
5	4.64	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.18	5.00	5	5	5
8	4.55	5.00	5	5	5
9	4.27	5.00	5	5	5
10	4.55	5.00	5	5	5
11	4.27	5.00	5	5	5
12	4.82	5.00	5	5	5
13	2.82	1.50	1・2	2	1
14	3.73	3.50	3・4	4	3
15	4.18	5.00	5	5	5
16	4.27	5.00	5	5	5
17	4.18	5.00	5	5	5
回答者数	11	2			



#### 受講生の傾向

火曜1時限目での開講であったためか、1名は数回の受講の後受講をやめてしまっているが、残り2名は真摯に受講しており、授業内容を理解しようという意欲が伝わる感じであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2名での受講であったことから、重要ポイントでの理解しやすい説明に心がけるだけでなく、それぞれに理解できたかを確認しつつ授業を進捗させることにした。板書は必ずメモを取るよう促し、わかりづらいところは再度説明を加えることにした。受講生が欠席した場合には、欠席した箇所を繰り返すようにまた、出席した受講生には復習となるように授業を行なった。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

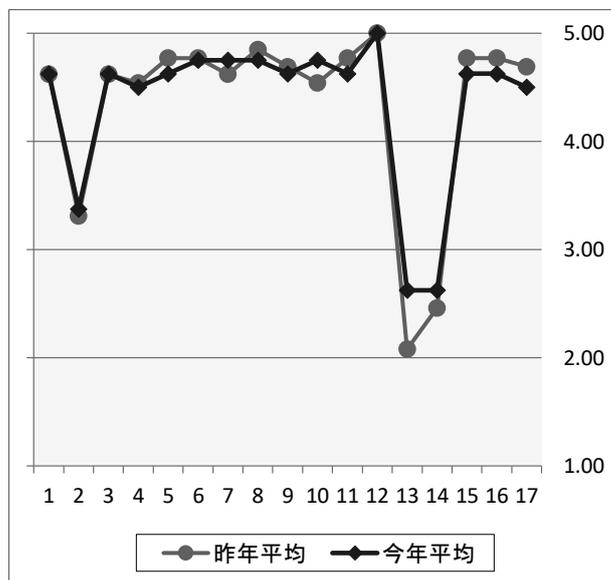
昨年度と比較し、受講生の反応がよくなった部分と悪くなった部分があり、より理解しやすい説明を心がけるつもりである。全体としては、昨年度と同様に、コンピュータの処理について、会計や従来の簿記とは異なり理解しづらいところも多いようであるため、基本的な処理の流れ、相違点や変異点を繰り返し説明することを継続しようと考えている。また、授業内容もアドバンストとなる部分は紹介にとどめて基本形の理解を徹底するつもりである。また、引き続き、演習時には個々の実施状況を把握し、補足的な説明やポイントを強調した説明を繰り返し理解の定着を心がけるつもりである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

(月曜)午後と(火曜)1時限との2クラス開講であり、この授業が火曜1時限であると前提を置くと、午後開講の受講生と比較すると、真摯に受講し理解しようとする意識が明確であり、受講生が少人数である傾向がある。授業内容は午後開講の授業と同じ内容としつつも、このクラスの受講生の特徴を踏まえた対応を付加するつもりである。受講生個々の特徴はあるが、それに沿うように対応しつつ理解度を高めていく工夫を講ずるつもりである。

科目	租税法理論		
配当年次	2	開講時限	秋火4
受講者数	8	回答者数	8

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.62	4.63	5	5	4
2	3.31	3.38	3	5	3
3	4.62	4.63	5	5	4
4	4.54	4.50	4・5	5	4
5	4.77	4.63	5	5	4
6	4.77	4.75	5	5	4
7	4.62	4.75	5	5	4
8	4.85	4.75	5	5	4
9	4.69	4.63	5	5	4
10	4.54	4.75	5	5	4
11	4.77	4.63	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.08	2.63	2・3	5	1
14	2.46	2.63	2・3	5	1
15	4.77	4.63	5	5	4
16	4.77	4.63	5	5	4
17	4.69	4.50	4・5	5	4
回答者数	13	8			



#### 受講生の傾向

受講生8名の内訳は、会計士志望1名、税理士志望6名、その他1名であった。受講生に判例レポートを10件課したが、受講生全員が10件全ての課題を提出するだけでなく、講義内で取り組む公認会計士試験の過去問についても真面目に取り組んでいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、テキストを1冊から2冊へ変更した。次に、令和6年度の公認会計士試験の過去問を講義レジュメに取り込み、過去問を題材として受講生と積極的に議論を行うように心がけた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

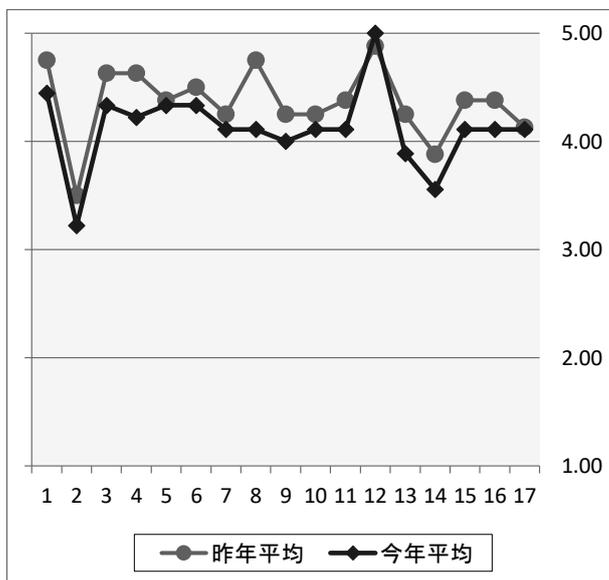
昨年度と同様、公認会計士試験の過去問を中心に講義レジュメを作成し、受講生との議論を積極的に行っていききたい。また、最新の税制改正に出来るだけ対応すべく、テキストを金子宏『租税法〔第24版〕』（弘文堂・2021）から、スタンダードシリーズへ変更する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最新の公認会計士試験の過去問を講義レジュメに加えて、受講生との議論を積極的に行っていききたい。また、消費税法に関しては、講義計画上、2回しか実施できないことから、取り上げるべき論点の再整理を行い対応したいと考えている。

科目	論文指導(基礎)(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	12	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.75	4.44	4	5	4
2	3.50	3.22	3	5	3
3	4.63	4.33	4・5	5	3
4	4.63	4.22	4	5	3
5	4.38	4.33	4	5	4
6	4.50	4.33	4	5	4
7	4.25	4.11	4	5	3
8	4.75	4.11	4	5	2
9	4.25	4.00	3・4・5	5	3
10	4.25	4.11	4	5	3
11	4.38	4.11	4	5	2
12	4.88	5.00	5	5	5
13	4.25	3.89	5	5	1
14	3.88	3.56	5	5	1
15	4.38	4.11	4	5	2
16	4.38	4.11	4	5	2
17	4.13	4.11	4	5	2
回答者数	8	9			



#### 受講生の傾向

受講生12名は全て、税理士試験の税法2科目免除を希望する学生である。受講生のうち、4名は研究テーマを決定できず、途中から授業を欠席したため、最終的には8名が授業に参加していた。今年度の受講生は昨年度よりも芳しくないアンケート結果となっているとおり、先行研究の渉獵が不十分だけでなく、解釈論による研究方法自体をあまり理解できていなかった。ただ、最終結果として、残った8名のうち、7名が論題設定に至ることになった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、受講生は当初10名を超えていたため、各回3名の報告を行わせることで、最低4回の報告機会を提供できるようにした。次に、数回先の分までの講義レジュメを事前にLMSアップし、受講生の論題設定の参考になるよう、早めの情報提供を行った。最後に、授業内ではグループワークと質疑応答のスタイルを採用した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

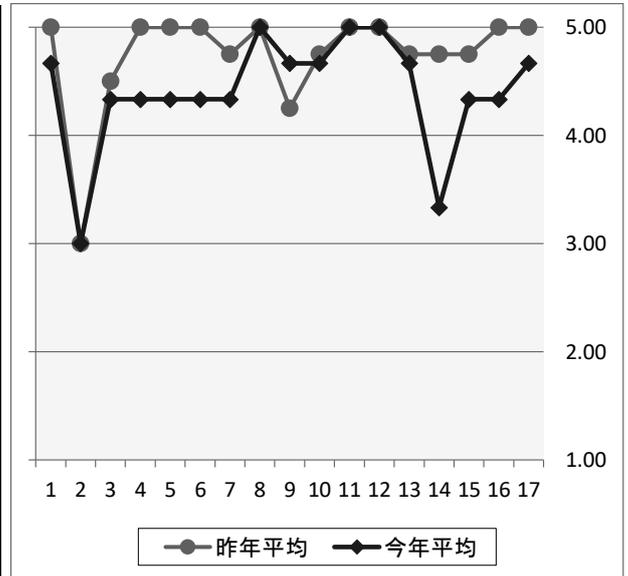
研究方法(解釈論)と研究材料(論文)に関する受講生の理解向上が、今後の課題と考える。今年度の方法を引き続き実施していきたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は合計5名が論題設定に至らなかったが、その原因は解釈論による研究方法を理解できなかった点にあるとみている。アカデミック・ソリューションで判例分析の手法を理解させるなど、アカデミック・ソリューションとの連携を行いつつ、解釈論による研究方法の理解向上を図り、論題設定につながるよう指導していきたい。

科 目	論文指導(実践)(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年木5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.50	4.33	4	5	4
4	5.00	4.33	4	5	4
5	5.00	4.33	5	5	3
6	5.00	4.33	4	5	4
7	4.75	4.33	4	5	4
8	5.00	5.00	5	5	5
9	4.25	4.67	5	5	4
10	4.75	4.67	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.75	4.67	5	5	4
14	4.75	3.33	1・4・5	5	1
15	4.75	4.33	4	5	4
16	5.00	4.33	4	5	4
17	5.00	4.67	5	5	4
回答者数	4	3			



#### 受講生の傾向

受講生は3名であり、全て解釈論による研究であった。受講生のうち1名は体調面で欠席が多く、他の2名との間で論文執筆の進捗に大きな差が生じていた。アンケート結果のとおり、今年度の結果は昨年度より下回った結果となっているが、当該学生による影響とみている。なお、最終的には2名は年内に修論が完成し、欠席の多かった当該1名は1月10日頃に修論完成となった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、修論執筆が遅れた当該学生に対しては、論題を当初より小さく変更し、執筆遅延への対応を行った。次に、当該学生以外の2名に関しては、いずれも執筆が順調であったことから、修論の仮完成を11月末に設定し、当該スケジュールに沿って、執筆の進捗状況を確認しつつ論文指導を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

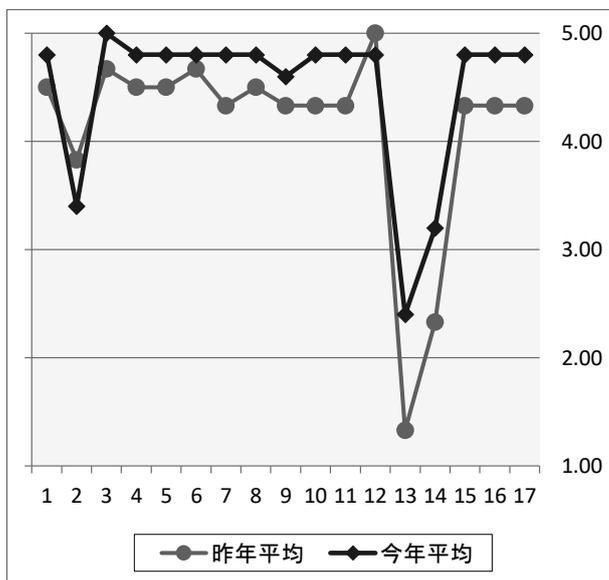
修論執筆が進まない受講生への対応が、今後の課題である。今年度の受講生の例では、口頭では説明できていたものの、文字ベースではきちんと書けていなかった。修論の提出期限との関係から、12月上旬には文字ベースでの指導が行えるよう、修論指導を行っていく必要がある。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

修論執筆が順調に進む受講生に関しては、年内完成を目標としたスケジュールで指導を進める方が受講生の修論執筆へのモチベーション維持に有効であったことから、次年度も実施したい。一方、体調面から欠席が多い受講生や修論執筆に行き詰まりが生じた受講生への対応としては、論題の微調整やオフィスアワーの活用などを通じて修論完成につながるよう指導を行っていきたい。

科 目	租税法会計論		
配当年次	2	開講時限	秋金2
受講者数	6	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.80	5	5	4
2	3.83	3.40	3	5	3
3	4.67	5.00	5	5	5
4	4.50	4.80	5	5	4
5	4.50	4.80	5	5	4
6	4.67	4.80	5	5	4
7	4.33	4.80	5	5	4
8	4.50	4.80	5	5	4
9	4.33	4.60	5	5	4
10	4.33	4.80	5	5	4
11	4.33	4.80	5	5	4
12	5.00	4.80	5	5	4
13	1.33	2.40	2	5	1
14	2.33	3.20	2	5	2
15	4.33	4.80	5	5	4
16	4.33	4.80	5	5	4
17	4.33	4.80	5	5	4
回答者数	6	5			



#### 受講生の傾向

受講生7名の内訳は、会計士志望2名(いずれも公認会計士試験論文式合格者)、税理士志望2名、他の志望1名であった。アンケート結果が示すとおり、今年度は昨年度よりもいずれも望ましい結果となっている。今年度の受講生は、所得税と消費税の計算構造をよく理解していた受講生が大半であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度のアンケート結果の質問No. 2(授業の進度)を改善すべく、講義レジュメの最新化、過去問の解答と前回講義の確認問題の作成を実施した上で、重要度に応じて(適宜、ホワイトボードを活用して)解答解説を行った。また、欠席者への対応として、授業後にLMSへ講義レジュメ等を速やかにアップした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

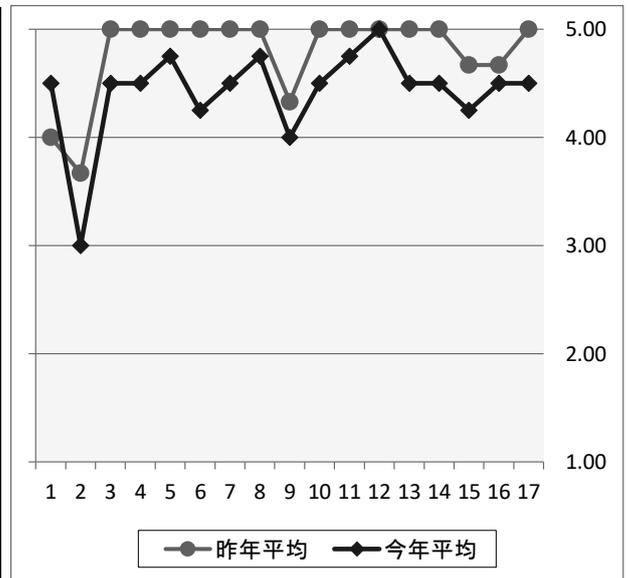
アンケート結果の質問No. 2(授業の進度)が昨年度に比べて若干上昇している。本科目で取り扱う公認会計士試験の過去問が増加していることに拠ると考えている。本年度の対応(講義レジュメの充実、過去問の解答と前回講義の確認問題の作成)を引き続き実施することに加えて、重要度に応じた解答解説を行っていくことで対応したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果の質問No. 2(授業の進度)は改善されたが、今年度は既修者が5名と多かったことも改善理由と考えられる。そこで、次年度は初学者へのフォローも考慮し、講義レジュメの整理と最新化、過去問の解答と前回講義の確認問題の作成を引き続き実施していきたい。また、可能であれば、授業録画も行い、受講生の学修環境の向上を図りたい。

科 目	論文指導(実践)(中村クラス)		
配当年次	2	開講時限	通年金5
受講者数	4	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.67	3.00	3	3	3
3	5.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	4.50	4・5	5	4
5	5.00	4.75	5	5	4
6	5.00	4.25	4	5	4
7	5.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.75	5	5	4
9	4.33	4.00	4	5	3
10	5.00	4.50	4・5	5	4
11	5.00	4.75	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.50	5	5	3
14	5.00	4.50	5	5	3
15	4.67	4.25	4	5	4
16	4.67	4.50	4・5	5	4
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	3	4			



#### 受講生の傾向

受講生は4名であり、全て解釈論であった。受講生4名のうち1名が修論執筆の進捗が著しく早かったため、他の3名の受講生はその影響を受けて、真面目に修論に取り組んでいた。ただ、1名は7月に論題変更を行ったため、修論完成が危ぶまれたが、最終結果として、受講生4名全員が修論を完成することができた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の受講生全員がやはり、各章の間で論理的な一貫性を欠く章立てとなっていたため、全員に「はじめに」と「おわりに」を予め執筆させた。また、判例紹介の箇所が報告レジュメのようにになっていた受講生も多かった（例えば、XとYの主張をそのまま「切り張り」）。このため、「切り張り」解消のために、XとYの主張を一覧表に整理し、かつ、補足文を挿入させるなどの指導を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

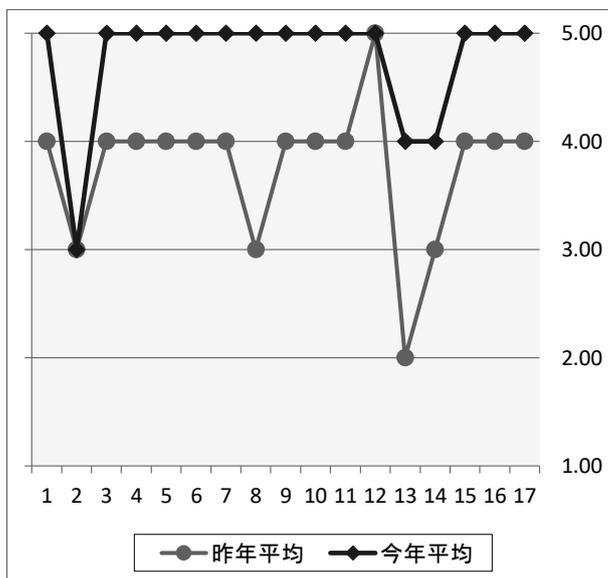
論理的な一貫性をもった修論をいかに作成させるかが、今後の課題である。今年度の受講生の例では、各章立てが論理的につながらない問題が生じたため、「はじめに」と「おわりに」を予め記述させることによって、論理的な一貫性を確保させることができた。次年度も引き続き実施したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

修論の執筆上、判例紹介の箇所が「切り張り」にならないよう指導を行っていく必要がある。また、今年度の受講生も引用もれが頻出したため、正確に引用表記を行うよう指導する必要がある。最後に、修論の形式面に加えて実質面として、論理的な一貫性を確保するため、論文指導のある段階で「はじめに」と「おわりに」を予め記述させる方法を引き続き採用し、指導していきたい。

科目	特殊講義(企業マネジメントと会計)		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	3	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	4.00	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	3.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.00	5.00	5	5	5
11	4.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	4.00	4	4	4
14	3.00	4.00	4	4	4
15	4.00	5.00	5	5	5
16	4.00	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	1	1			



#### 受講生の傾向

- ・最後まで受講した人数は2人だった。ただ、2人とも真面目に事前準備をし、求められた発表をした。取り組む姿勢に全く問題はない。
- ・結果として、①一人はその会社の株主総会で質問しても良い内容までまとめた。これは感心した。②残る一人は、秀ではなく優でとまってしまった。プレ発表の時に、就職する会社に行かねばならず、プレ発表の廣田のコメントを経てそれを修正した最終発表にならずに本番を迎えたためであった。プロセス的には大変惜しい。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

有価証券報告書を用いて分析する手法は初めてと考えるので、①テキストで紹介されているすべての手法を、自分で選択した1つの会社の3年ほどの決算書に適用してみる。②次に、それを3社に適用して同業他社間を比較してみる。③①、②それらを自分でまとめた資料を用いて発表する。

#### 今後の対応

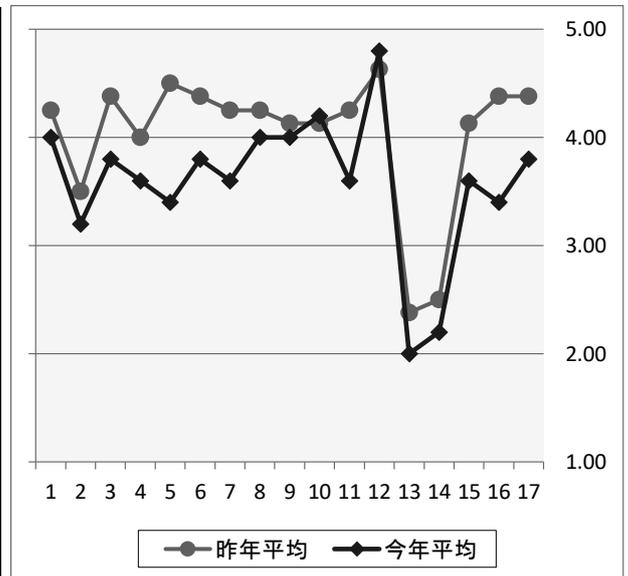
○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

参加型の講義になったと思うので、2025年秋も同じやり方とってみたい。

科 目	会計専門職業倫理(B)		
配当年次	2	開講時限	秋月4
受講者数	7	回答者数	5

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.25	4.00	4・5	5	2
2	3.50	3.20	3	4	3
3	4.38	3.80	4	5	2
4	4.00	3.60	4	5	1
5	4.50	3.40	4	5	1
6	4.38	3.80	4	5	2
7	4.25	3.60	4	5	1
8	4.25	4.00	4	5	3
9	4.13	4.00	4	5	3
10	4.13	4.20	4	5	4
11	4.25	3.60	4	5	1
12	4.63	4.80	5	5	4
13	2.38	2.00	2	3	1
14	2.50	2.20	2	3	2
15	4.13	3.60	4	5	1
16	4.38	3.40	4	5	1
17	4.38	3.80	4	5	2
回答者数	8	5			



#### 受講生の傾向

- ・ 7人ともまじめに講義は聞いている。春期の生徒と比較すると粒がそろっていて、全体とすると優秀であった。
- ・ 資料として倫理規則を配布しておき、自分で倫理的に回答を求められるタイミングでそれを見て判断させるようにした。ちゃんと倫理規則を見て判断するように、ついてきているように思える。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・ 倫理規則を見て判断するように事例を取り入れた。組織内会計士で倫理規則違反に問われた事例を使用した。
- ・ 極力、倫理的にどのように考えるかケースメソッドで問う形にした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

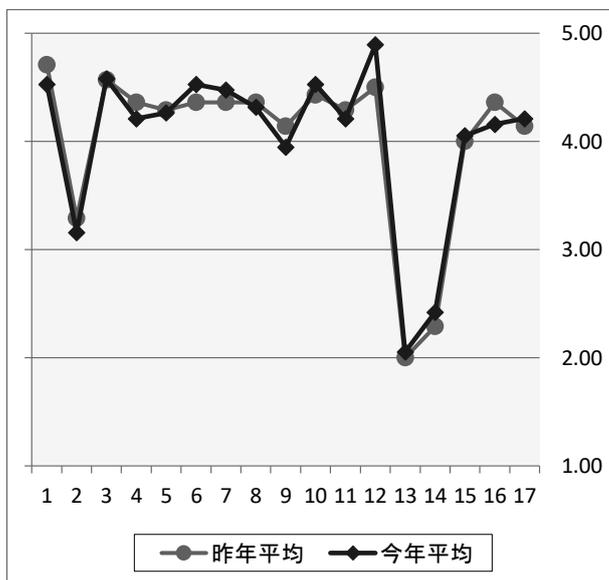
授業評価アンケートは100%回収を目指すこと。その上で、受講生の満足度を継続的に維持・向上させる努力を行っていく必要がある。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

たまたま秋期で「企業とマネジメント」を話し参加型の講義になり、彼らの取り組み方が大変良かったと思うので、できるならば、職業倫理でもっと彼らに参加させられる方法を試してみたい。

科目	監査基準論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋水1
受講者数	31	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.71	4.53	5	5	3
2	3.29	3.16	3	4	3
3	4.57	4.58	5	5	4
4	4.36	4.21	5	5	1
5	4.29	4.26	5	5	1
6	4.36	4.53	5	5	2
7	4.36	4.47	5	5	2
8	4.36	4.32	5	5	2
9	4.14	3.95	4	5	1
10	4.43	4.53	5	5	4
11	4.29	4.21	4	5	1
12	4.50	4.89	5	5	4
13	2.00	2.05	2	5	1
14	2.29	2.42	2	5	1
15	4.00	4.05	4	5	1
16	4.36	4.16	4・5	5	1
17	4.14	4.21	4	5	1
回答者数	14	19			



#### 受講生の傾向

昨年と比較し、12項の「出席状況」が80%から90%へ改善した点を除き、ほぼ変動はなかった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ・重点項目の説明に時間をかけた。
- ・監査基準論の理解に際しては、基本項目を記憶する点の必要性を改めて強調した。
- ・スライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を改めて伝達した。
- ・各監基報の項目が、監査現場でどのように具現化するのか?を付言し、監基報要求事項の必要性や意味の理解を促した。

#### 今後の対応

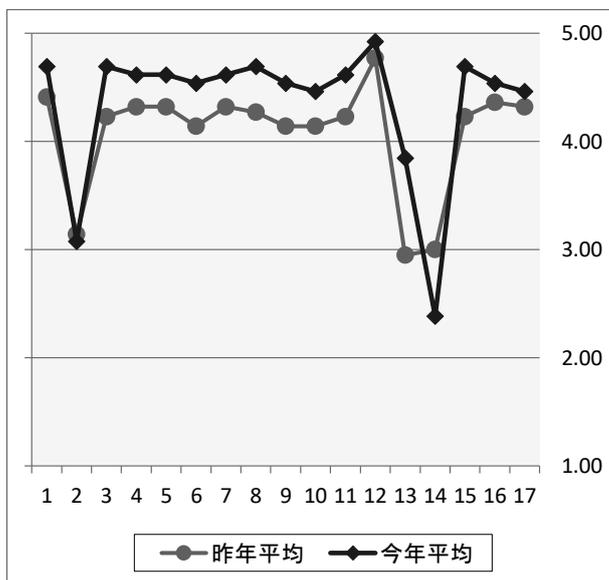
##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

- ・授業スピードは引き続き現状を維持し、抑制を心掛ける。
- ・引き続き配信提示スライドのページ数や添付資料数を削減し、重点項目の説明に時間をかける。
- ・また、監査基準論の理解に際しては、基本項目を憶える必要性を強調し、当日のスライド内容の概要を院生が事前に把握しておく事が記憶の定着に有用である点を伝達する。
- ・さらに、各授業項目に関し、当該授業項目を理解した後に何が待ち受けているか?監査の現場でのどの論点を解決してくれるのか?を最後に付言する。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科 目	監査事例研究		
配当年次	1	開講時限	秋水3
受講者数	20	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.41	4.69	5	5	4
2	3.14	3.08	3	4	3
3	4.23	4.69	5	5	4
4	4.32	4.62	5	5	4
5	4.32	4.62	5	5	4
6	4.14	4.54	5	5	4
7	4.32	4.62	5	5	4
8	4.27	4.69	5	5	4
9	4.14	4.54	5	5	4
10	4.14	4.46	5	5	2
11	4.23	4.62	5	5	4
12	4.77	4.92	5	5	4
13	2.95	3.85	5	5	2
14	3.00	2.38	2	5	1
15	4.23	4.69	5	5	4
16	4.36	4.54	5	5	4
17	4.32	4.46	4	5	4
回答者数	22	13			



#### 受講生の傾向

14項目の復習時間が昨年の1時間から30分強へ減少した点を除き、全般的に評価は0.5程度向上している。これは、「昨年の小グループ単位での発表」の評判が悪かった点から、「今年は個人単位での発表」形式へ切り替えた点が大きく影響していると考えられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年、発表形式を個人別発表形式から小グループでの発表形式へ変更した結果、フィードバック点数が明らかに下がった点から、これを今年には元に戻し、個人単位での発表とした結果、フィードバックの諸点が元に戻った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

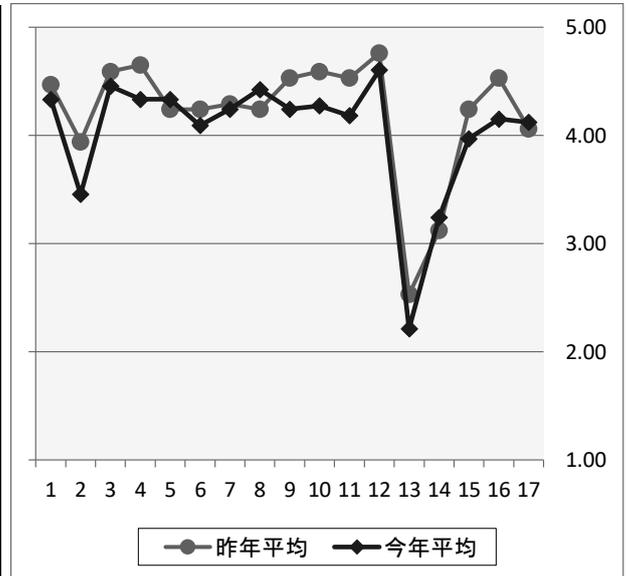
アンケート結果を受け、新年度の監査基準論では、グループでの発表形式（発表者はリーダーのみ）を取りやめ、2022年度までの個人発表形式（福島が翌週の発表者を指名）に戻すこととする。

また、課題の提出期限を日曜の夜までにし、事前の準備を充実させることとしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目	監査制度論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月2
受講者数	40	回答者数	33

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.47	4.33	5	5	2
2	3.94	3.45	3	5	2
3	4.59	4.45	5	5	1
4	4.65	4.33	5	5	1
5	4.24	4.33	5	5	1
6	4.24	4.09	5	5	1
7	4.29	4.24	4・5	5	1
8	4.24	4.42	5	5	2
9	4.53	4.24	5	5	1
10	4.59	4.27	4	5	3
11	4.53	4.18	5	5	1
12	4.76	4.61	5	5	2
13	2.53	2.21	2	5	1
14	3.12	3.24	3	5	1
15	4.24	3.97	5	5	1
16	4.53	4.15	5	5	1
17	4.06	4.12	4	5	1
回答者数	17	33			



### 受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属する科目ではありながら、今年度の出席率(項目12)は昨年に比べて相対的に低くなっており、それが全体的な授業評価の相対的な低さにも反映されている。

昨年度(秋学期)の評価に比べると全体的に評価(項目8を除き)が低下している。特に昨年度の評価が高かった進度の適切さ(項目1、2)、教員による準備(項目3)、熱意・努力(項目4)、教材の利用(項目6、7)といった教員の姿勢、ならびに宿題と小テスト(項目9)、クラス規模(項目10)、満足度(項目11)といった学生側の項目において、昨年実績より低下している。

また、課題予習(項目13)復習(項目14)は昨年度並ではあるが、本科目に対する意欲(項目15、16)も低下している。

### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査基準及び監査実務指針に基づいて網羅的かつ体系的なスライドを前提に、監査制度に関する基礎概念の理解を可能とする講義資料を作成しLMSを通して事前に配布した。これらの講義資料の最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題に対応するための参考文献を列挙しておいた。

また例年通り、2回の講義が終了する毎に講義の理解度を確認するとともに、同時に復習を動機付けることを目的に小テストを実施し、それらを添削しコメントを付記した上で次の講義で返却した。添削済み答案の返却に当たっては、講義の冒頭で添削上のポイントを解説し、講義後、質問に回答するように措置した。

以上のように、講義2回→復習課題実施→小テスト→添削→返却(添削ポイント・講評)→質問・回答を繰り返し、受講生にエッセイの書き方を習得できるように心懸けた。さらに、講義配信のためLMSによる講義録画・配信を適時に行ない、復習が行なえるように対応した。

### 今後の対応

#### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

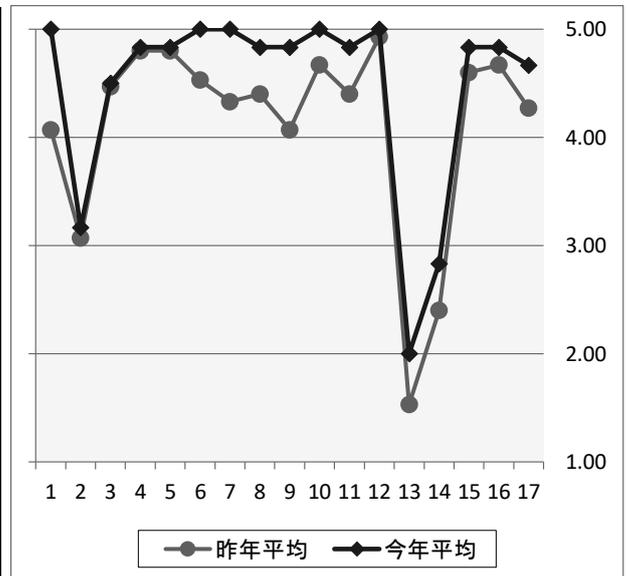
復習課題を毎回の講義後に動機づけるため、次に実施する小テストの対象となる復習課題を指示するとともに、添削済みの解答用紙返却時にも個々にコメントするようにしたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

クラスB固有の問題として、クォーター開講のクラスA1・A2に比してセメスターのため講義間隔が広いため、どうしても教育効果の歩留まりを維持するための復習が肝要となる。クラスB向けの対応として一部の復習課題の提出を義務付けることも考えられる。

科目	基本監査プログラム演習		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	24	回答者数	6

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.07	5.00	5	5	5
2	3.07	3.17	3	4	3
3	4.47	4.50	5	5	2
4	4.80	4.83	5	5	4
5	4.80	4.83	5	5	4
6	4.53	5.00	5	5	5
7	4.33	5.00	5	5	5
8	4.40	4.83	5	5	4
9	4.07	4.83	5	5	4
10	4.67	5.00	5	5	5
11	4.40	4.83	5	5	4
12	4.93	5.00	5	5	5
13	1.53	2.00	1	4	1
14	2.40	2.83	3・4	4	1
15	4.60	4.83	5	5	4
16	4.67	4.83	5	5	4
17	4.27	4.67	5	5	3
回答者数	15	6			



#### 受講生の傾向

授業に対する参加度を測る出席率(項目12)は、昨年度に続きほぼ100%を達成しており非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。また全ての項目で、昨年度の演習よりも授業評価項目が改善した。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

改訂後の内部統制基準や監査実施基準を反映し、監査の実施に関する基礎概念を纏めた講義資料及びテキストに基づき、必要に応じて監査基準・内部統制基準や実務指針等の参考資料を配布・解説することで、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。

今年度は、監査実施プロセスと内部統制評価に関する理解度を確認するため、3つの課題(預金残高の監査、掛け売上取引に関するフローチャートの作成、当該取引に係る内部統制の運用状況評価)を課した。この課題を行なうに当たり、PCを利用した監査手続(銀行預金・売掛金)を経験するとともに、証憑突合による実証手続の実施、ならびに監査調書の作成を経験するようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

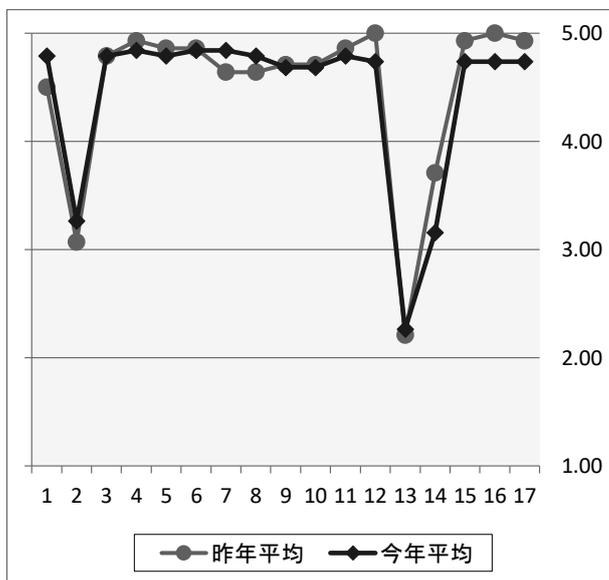
監査実施に関する基礎理論の修得に重きを置きすぎたため、PC利用による監査手続の実施が必ずしも十分に実施できず、監査調書への文書化についてをより具体化して導入することで講義への参加意欲の向上を図りたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の側で商品仕入から販売に至る一連の商流の理解が必ずしも十分ではないため、実際の商流をフローチャート化するための予備的講義を含めたい。

科目	監査報告論		
配当年次	1	開講時限	秋金2
受講者数	24	回答者数	19

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.79	5	5	3
2	3.07	3.26	3	4	3
3	4.79	4.79	5	5	3
4	4.93	4.84	5	5	3
5	4.86	4.79	5	5	3
6	4.86	4.84	5	5	3
7	4.64	4.84	5	5	3
8	4.64	4.79	5	5	3
9	4.71	4.68	5	5	3
10	4.71	4.68	5	5	3
11	4.86	4.79	5	5	3
12	5.00	4.74	5	5	2
13	2.21	2.26	1	5	1
14	3.71	3.16	2・3	5	1
15	4.93	4.74	5	5	2
16	5.00	4.74	5	5	2
17	4.93	4.74	5	5	3
回答者数	14	19			



#### 受講生の傾向

受講生の出席状況(項目12)は昨年よりも若干低下したものの高い出席率となっており、受講生のモラルは相対的に高かった。授業評価に係わる全ての項目(項目2~11)で、受講生による評価が昨年度なみの評価となっている。一方、予習時間(項目13)は昨年度並みではあるが、復習時間(項目14)は昨年度より改善した。さらに受講生の満足度(項目16・17)や啓発度(項目15)の全ても昨年度並である。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

監査報告の基礎概念に基づいた講義資料を作成しLMSで配布するとともに、重要論点とともに解説を加えた。講義資料の最後には受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。受講生の復習を促すとともに理解度を確認するために2回分の講義が終了する毎に論述式の小テストを隔週で実施した。その添削後に採点のポイントを全員に配布し、最高点の受講生による解答を模範答案として配布して解説を行なった。個々の受講生に返却することで、各自がエッセイの書き方を習得できるよう心懸けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

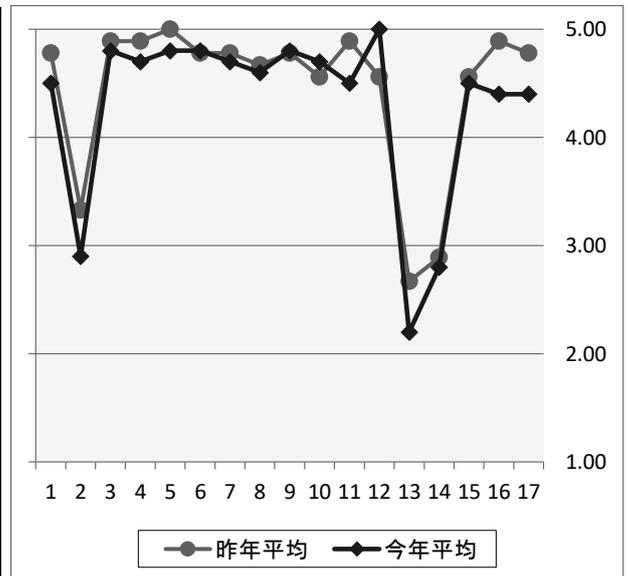
今年度は昨年度の対応が授業評価アンケート結果の改善に結び付いたと考えられるため、引き続き毎回の講義終了時に次回の小テストの対象となる復習課題を明示することで、復習を動機付けたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度も昨年度と同水準の授業評価を得ているので、全般的対応は維持しつつ、予習・復習時間の向上を図るために課題の提出を義務付けることも検討したい。

科目	企業法(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木1
受講者数	20	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.78	4.50	4・5	5	4
2	3.33	2.90	3	3	2
3	4.89	4.80	5	5	4
4	4.89	4.70	5	5	4
5	5.00	4.80	5	5	4
6	4.78	4.80	5	5	4
7	4.78	4.70	5	5	4
8	4.67	4.60	5	5	4
9	4.78	4.80	5	5	4
10	4.56	4.70	5	5	4
11	4.89	4.50	5	5	3
12	4.56	5.00	5	5	5
13	2.67	2.20	2	4	1
14	2.89	2.80	2・3	4	2
15	4.56	4.50	4・5	5	4
16	4.89	4.40	5	5	3
17	4.78	4.40	4	5	4
回答者数	9	10			



#### 受講生の傾向

今年度の受講生は20名であって、秋学期の授業としてはやや人数が多いほうであったが、今年度の多い入学者数から考えると自然であるといえる。受講生は、初履修、再履修や先取り履修などバラエティに富んでいたが、授業を行うにあたっても別段問題はなかった。授業に関しては、多くの学生は、出席率はよく、授業に対して受講時のみならず、小テスト対応においてもまじめに取り組んでいたが、途中から授業に参加しない学生も見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も、講義による企業法の知識の習得のみならず、習得した内容を企業法の問題解決、すなわち短答式の問題や論述ができる学力を習得できるように心がけた。限られた時間ではあるが、企業法の講義で学んだ内容を応用して問題を解く方法や法的の文章の組み立て方や文章表現の仕方などを、とりわけ小テストを通じて教授した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

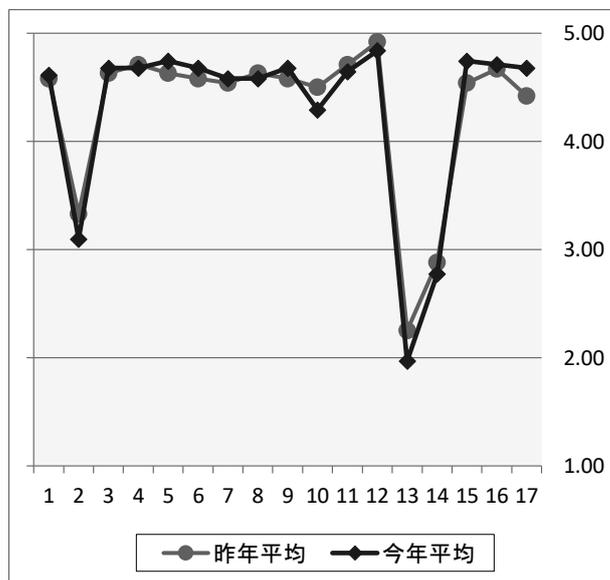
企業法の授業の理解ということはできているが、それを自分で口頭で説明したり、文章で書いたりということになると難しくなる学生が多い。特に学部学生時代から文章作成能力に問題があったのではという受講生も見受けられる。このギャップを埋められるような授業、すなわち、レクチャーと対話と文章作成のバランスをうまく考慮した授業を行いたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の内容としては、やはり、企業法の講義内容の理解ということではできているが、それを法学特有の文章で正確に表現するということが課題となる。今後は、法学の文章を書くことができるころまでを理解ととらえて、企業法の正確な理解として、論文構成や文章表現といったところまでを、しっかりと教授できるようにしたい。

科目	会社法		
配当年次	1	開講時限	秋金1
受講者数	50	回答者数	31

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.58	4.61	5	5	4
2	3.33	3.10	3	4	3
3	4.63	4.68	5	5	4
4	4.71	4.68	5	5	4
5	4.63	4.74	5	5	4
6	4.58	4.68	5	5	4
7	4.54	4.58	5	5	3
8	4.63	4.58	5	5	3
9	4.58	4.68	5	5	4
10	4.50	4.29	5	5	2
11	4.71	4.65	5	5	4
12	4.92	4.84	5	5	4
13	2.25	1.97	1	5	1
14	2.88	2.77	2	5	1
15	4.54	4.74	5	5	4
16	4.67	4.71	5	5	4
17	4.42	4.68	5	5	4
回答者数	24	31			



#### 受講生の傾向

今回の会社法の受講生は50人であった。今年度入学者数が多いこともあるが、近年の会社法の受講者数から考えると非常に多い人数となった。また、現時点で公認会計士試験を受験予定にしている学生も昨年度までよりも多く、そういう学生にとっては必要な科目になるであろう。企業法から引き続き受講している学生が大半であったが、難易度が上がるため、企業法に比して難しく感じる学生も多いようであった。受講態度はおおむね良好であり、熱心に取り組んでいるようであった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会社法は、企業法で学んだところをもう一段深く掘り下げる科目であるが、要所で難易度の高い論点を扱うようにした。すでに企業法の勉強が進んでいる学生にとっては必要であろうし、そうでない学生にとっても会社法に興味をもってもらうきっかけになればと思った。また、それと同時に、会社法について広く全体的な理解ということも心掛けた。深い内容については本来であれば上級会社法で扱うものであるが、バランスを見ながら扱うこととした。さらに、広い内容とはいえお互いの項目がリンクしている部分も多く、これらをつなぎながら授業するという工夫をした。また、本科目は企業法の延長にある科目であるので、企業法で扱った部分については、すでに理解していることとして進め、会社法が単なる企業法の復習科目とならないように意識した。さらには、課外講座ではあるが、基礎講座を用いて、問題演習や論文の書き方について会社法の復習をすることとした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

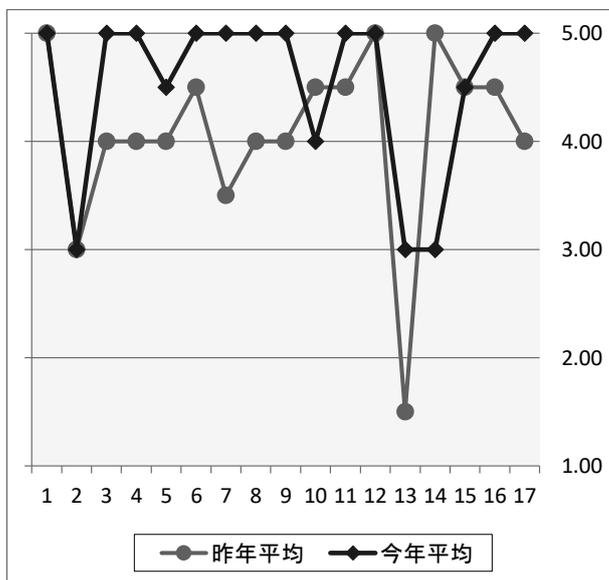
今回は授業の中で、応用力を身につけられるようなトピックを要所で扱うこととしたが、このような論点は、興味を抱く学生も多いが、授業の進度や流れ、また課外講座である基礎講座や上級会社法との関係性を踏まえてバランスよく取り入れていきたい。また、会社法では、広い内容を扱う中であって、それらを何らかのトピックスでくくって扱うことで、その広い内容をより効率的かつ興味深いものとした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会社法は、企業法の発展科目としての位置づけであり、かつ上級会社法の前提となる科目である。また、会社法の授業については、これに対応した基礎講座を開講している。重要なことは、これらの連携である。課外講座を含めてこれらの各種科目を有機的に結合させて授業を行うこと必要となる。企業法関連科目の中の一つとしての会社法としての位置づけを意識しながら、受講生がトータルとして、会社法ひいては企業法全体を理解できるように心がけたい。

科 目	コーポレート・ファイナンス論		
配当年次	2	開講時限	秋月2
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	4.50	4・5	5	4
6	4.50	5.00	5	5	5
7	3.50	5.00	5	5	5
8	4.00	5.00	5	5	5
9	4.00	5.00	5	5	5
10	4.50	4.00	3・5	5	3
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.50	3.00	2・4	4	2
14	5.00	3.00	3	3	3
15	4.50	4.50	4・5	5	4
16	4.50	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	2			



#### 受講生の傾向

受講生の目的意識が明確で、授業並びに課題に積極的に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと  
 昨年同様に反転授業的要素を取り入れた授業を行った。

#### 今後の対応

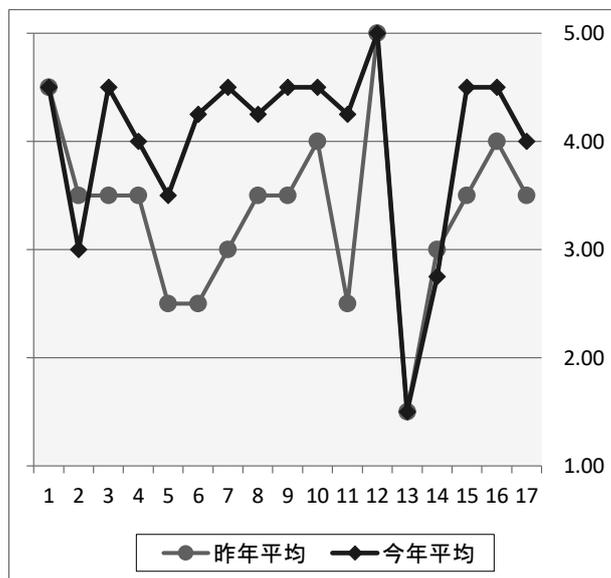
○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」  
 今後も反転的な授業を取り入れた授業を行っていきたい。

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も反転授業的な要素を取り入れた授業を行っていきたい。

科 目	企業分析論		
配当年次	1	開講時限	秋火3
受講者数	13	回答者数	4

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.50	4・5	5	4
2	3.50	3.00	3	3	3
3	3.50	4.50	4・5	5	4
4	3.50	4.00	4	5	3
5	2.50	3.50	4	5	1
6	2.50	4.25	4	5	4
7	3.00	4.50	4・5	5	4
8	3.50	4.25	4	5	4
9	3.50	4.50	4・5	5	4
10	4.00	4.50	4・5	5	4
11	2.50	4.25	4	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.50	1.50	1・2	2	1
14	3.00	2.75	2	5	2
15	3.50	4.50	4・5	5	4
16	4.00	4.50	4・5	5	4
17	3.50	4.00	4	4	4
回答者数	2	4			



#### 受講生の傾向

学生の意識に大きな差があり、積極的に取り組む学生と必要最小限だけでよい成績を取ろうとする学生がいた。前回と今回のアンケートの差は、その違いが表れたものと思われる。前回は、あまり熱心でなかった学生が答えたのに対し、今回は、熱心な学生とそうでない学生がともに答えた結果ではないかと思われる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回は同業4社比較を行ったが、今年度は1社を固定し、もう1社は任意の企業を選んで比較させるようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

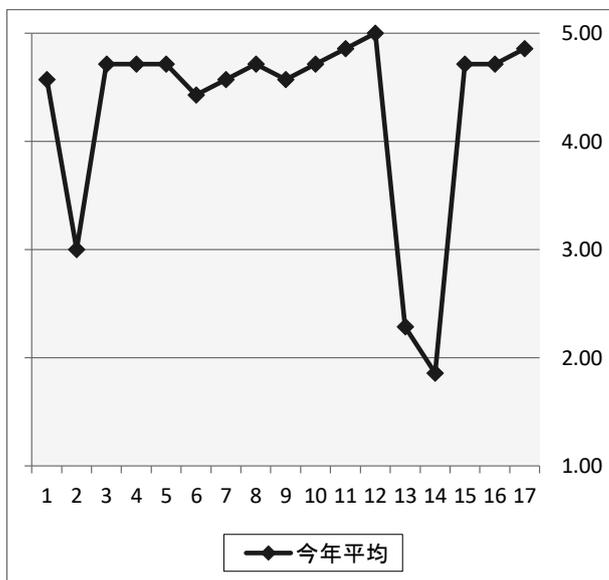
授業内容を工夫して、熱心に取り組ませるようにする。具体的には、指標の意味や使い方を自分で考えさせるようにする。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

指標の意味を自ら考えさせる授業を行っていきたい。

科目	アカデミック・ソリューション(坂口クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	8	回答者数	7

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.57	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	4.71	5	5	4
5	—	4.71	5	5	4
6	—	4.43	4	5	4
7	—	4.57	5	5	4
8	—	4.71	5	5	4
9	—	4.57	5	5	4
10	—	4.71	5	5	4
11	—	4.86	5	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.29	2	5	1
14	—	1.86	2	2	1
15	—	4.71	5	5	4
16	—	4.71	5	5	4
17	—	4.86	5	5	4
回答者数	—	7			



#### 受講生の傾向

受講生は、管理会計に興味を抱いており、出席状況もおおむね良好であった。しかし、公認会計士試験を目指すものと一般企業への就職を目指すもの、および、大学院1年生と大学院2年生といったように、希望する進路や学年で多様性が見られた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

希望とする進路や学年で多様性が見られたため、最初はレクチャーを中心に展開した。その後、個々の項目に関連するグループワークを行い、知識の整理と活用を促進するよう心がけた。最後に、グループごとに問題設定とプレゼンテーションを行うことで、会計専門職として発信する能力が向上するよう配慮した。これらの取り組みは、アンケートを見る限り、有益であったと考えられる。

#### 今後の対応

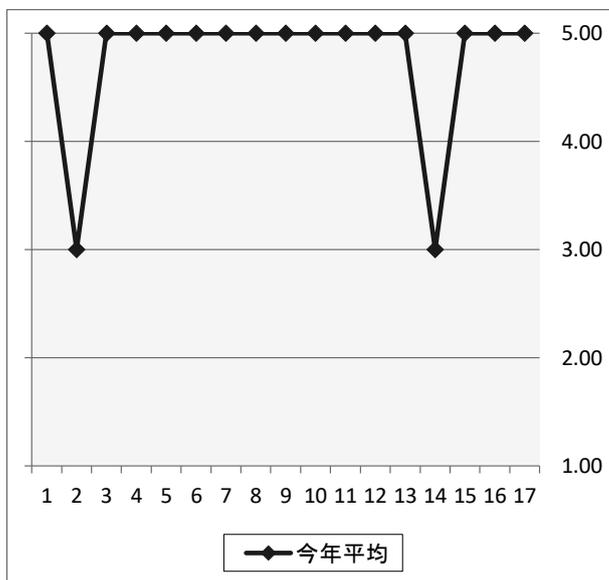
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

本年度に取り組んだ、「レクチャー→グループワーク→プレゼンテーション」という手順に沿って、最近の企業経営で注目されるトピックを、できる限り盛り込んでいくことを考えている。これにより、最近のビジネスの動向にふれる機会を提供し、多様な受講生のまなびを支援することを目指したい。

科 目	アカデミック・ソリューション(富田クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	1	回答者数	1

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	3.00	3	3	3
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



#### 受講生の傾向

受講生が1名であるため、当該受講生の評価になってしまうが、真摯に毎回課題を実施し、課題に則した質疑応答及びディスカッションも活発かつ積極的であった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は担当していないため、昨年度の授業評価アンケートを踏まえることはできないが、マンツーマンであることから、理解度を確認しつつ理解の深度を深め、より学習意欲を持てるよう促したつもりである。

#### 今後の対応

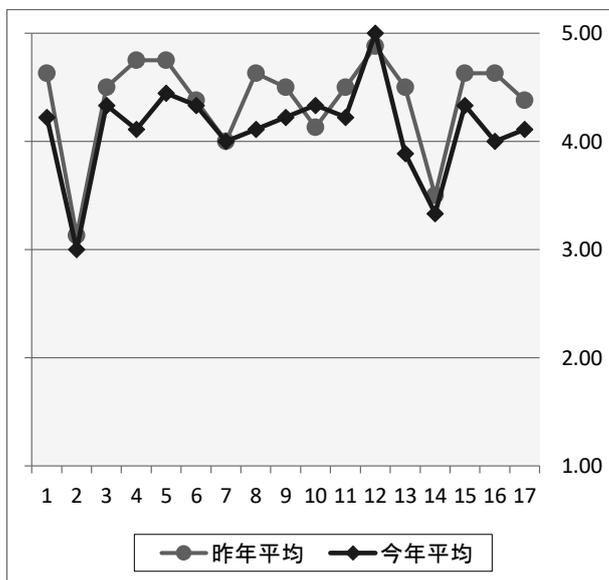
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

#### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生数が多い年度と少ない年度があり、そのばらつきも多い。少ない場合は、今年度のように受講生に合わせてきめ細かく対応することを意識するつもりである。一方、受講生が多い年度は、できるだけ共通のニーズを汲み取り、十分なインプットを促し、そのポイントが伝わるよう工夫を講じるつもりである。また、アウトプットやディスカッションについては、より主体的に行えるように課題設定を行うなどの工夫を講じるつもりである。

科目	アカデミック・ソリューション(中村クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	12	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.22	4	5	3
2	3.13	3.00	3	3	3
3	4.50	4.33	4	5	4
4	4.75	4.11	4・5	5	1
5	4.75	4.44	4	5	4
6	4.38	4.33	4・5	5	3
7	4.00	4.00	4	5	2
8	4.63	4.11	4・5	5	1
9	4.50	4.22	5	5	3
10	4.13	4.33	4	5	4
11	4.50	4.22	4・5	5	2
12	4.88	5.00	5	5	5
13	4.50	3.89	5	5	1
14	3.50	3.33	3	5	1
15	4.63	4.33	4・5	5	3
16	4.63	4.00	4	5	1
17	4.38	4.11	4・5	5	1
回答者数	8	9			



#### 受講生の傾向

12名の受講生の内訳は、すべて税理士志望であった。本科目では受講生に判例分析を行ってもらう関係で、質問No. 13(予習時間)が関係してくるが、アンケート結果では昨年度よりも悪くなっている。予習時間の減少だけが限界ではないが、今年度の受講生の報告時に多く見られたことは、評釈を一部しか入手せず、それに基づいて私見を作成していたことである。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

まず、第1回講義で、引用表記について指導した。次に、第2回講義で、教員が判例分析のデモンストレーションを行い、判例分析の形式的スタイルと私見の作成方法を講義した。そして、第3回講義以降では、受講生による報告(質疑応答を含む)を実施するとともに、報告者以外にはグループワークを採用した。また、各グループからの質疑後、教員から税務訴訟に関する基礎知識等を講義した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

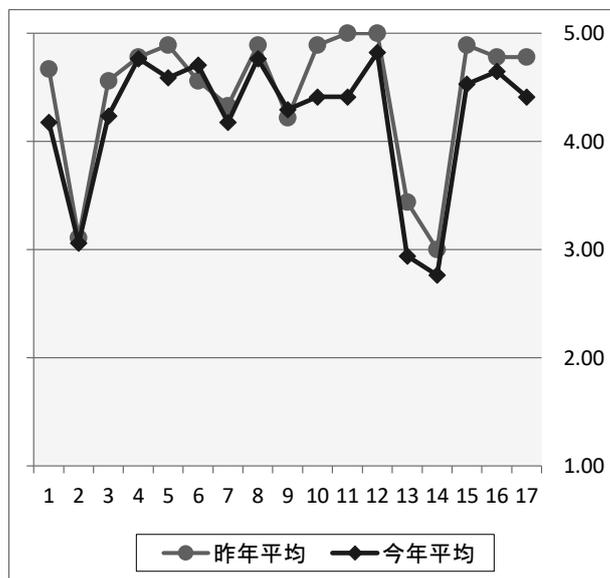
昨年度と同様、引用表記(形式面)と私見(実質面)に関しては、引き続き対応する必要がある。また、新たに対応すべき事項として、税務訴訟に関する基礎知識を提供することを考えている。なぜなら、基礎知識の欠如が事案の概要や判示をきちんと理解できていない一因になっていると考えられるためである。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

判例分析の形式的スタイルの習得は一応、出来ていたと評価している。しかし、私見の作成については、ほぼ全員が不十分であった。今後の対応としては、まず評釈の入手不足の解消を指導したい(評釈情報の入手方法の指導)。次に、評釈者の情報を整理するよう指導したい(各評釈者の位置付け作業の指導)。最後に、評釈者の意見を使って、私見を作成するよう指導したい(私見が他の評釈者とどのような位置付けにあるかを指導)。

科目	アカデミック・ソリューション(松本クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	18	回答者数	17

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.18	5	5	1
2	3.11	3.06	3	4	2
3	4.56	4.24	4	5	3
4	4.78	4.76	5	5	4
5	4.89	4.59	5	5	4
6	4.56	4.71	5	5	4
7	4.33	4.18	5	5	3
8	4.89	4.76	5	5	4
9	4.22	4.29	5	5	2
10	4.89	4.41	4・5	5	3
11	5.00	4.41	5	5	3
12	5.00	4.82	5	5	4
13	3.44	2.94	3	5	1
14	3.00	2.76	3	5	1
15	4.89	4.53	5	5	3
16	4.78	4.65	5	5	3
17	4.78	4.41	5	5	3
回答者数	9	17			



#### 受講生の傾向

受講生の授業参加意欲を測る出席率(項目12)において90%以上を達成したものの、昨年度に比して全体的に評価が低下している。この結果には、受講者数が個別演習科目として多いことが影響していると考えられる。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講者数が昨年度の倍になったが、受講生から演習課題への希望を聴取し、監査論の各種論点に関する課題を効果的に実施できるような演習形式とした。昨年度同様に、全員に当該論点を自主的に解答させ、演習時間中に全員で検討すると同時に解説を行なった。これら課題は、予め事前に受講生に対して配布し予習を促し(項目13)と復習時間(項目14)も確保できるように努めた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

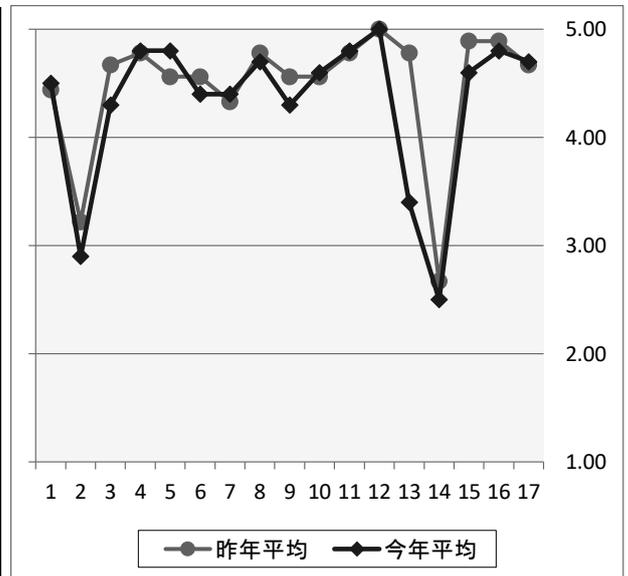
課題に対する受講生の予習時間を増やし、演習時間はできる限り添削と解説に充てるようにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題の事前実施が不完全な受講生が演習への参加意欲を失う傾向にあるため、演習に参加するに当たって課題の実施を義務付ける措置を講じる。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション(松本クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔月5
受講者数	11	回答者数	10

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.44	4.50	4・5	5	4
2	3.22	2.90	3	3	2
3	4.67	4.30	4	5	3
4	4.78	4.80	5	5	4
5	4.56	4.80	5	5	4
6	4.56	4.40	4	5	4
7	4.33	4.40	4	5	4
8	4.78	4.70	5	5	4
9	4.56	4.30	5	5	3
10	4.56	4.60	5	5	4
11	4.78	4.80	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.78	3.40	3	5	2
14	2.67	2.50	2	5	1
15	4.89	4.60	5	5	4
16	4.89	4.80	5	5	4
17	4.67	4.70	5	5	4
回答者数	9	10			



#### 受講生の傾向

受講生の演習参加度(項目12)は非常に高く、積極的に演習に参加している。しかし、宿題回数(項目9)や予習時間(項目13)は昨年度に比して低下している。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の希望を前提に、会計士試験に係わる監査論に関する各種論点を課題として事前に配布し、自主的に重要なポイントを解答することを通して演習時間中に全員で検討する形態とした。このため受講生それぞれが各種論点に対する分析・資料作成・プレゼンテーション・ディスカッションを行なえるようにした。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートに記載した「今後の対応」

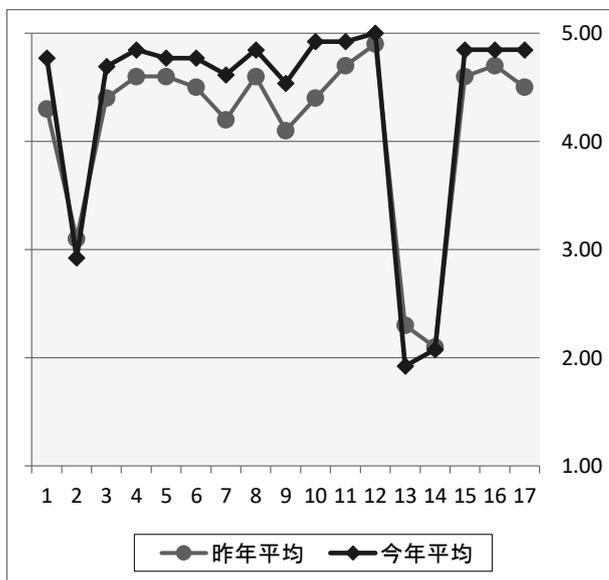
論文作成に応用できるように、複数の課題に対する解答間の関係にも配慮した解説を行なうようにしたい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

監査論の各種論点への対応として論述能力を向上させるために、派生論点の捕捉とその解説も加えるようにしたい。

科 目	アカデミック・ソリューション(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	通隔月5
受講者数	14	回答者数	13

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.30	4.77	5	5	4
2	3.10	2.92	3	3	2
3	4.40	4.69	5	5	4
4	4.60	4.85	5	5	4
5	4.60	4.77	5	5	4
6	4.50	4.77	5	5	4
7	4.20	4.62	5	5	3
8	4.60	4.85	5	5	4
9	4.10	4.54	5	5	3
10	4.40	4.92	5	5	4
11	4.70	4.92	5	5	4
12	4.90	5.00	5	5	5
13	2.30	1.92	1	5	1
14	2.10	2.08	1	5	1
15	4.60	4.85	5	5	4
16	4.70	4.85	5	5	4
17	4.50	4.85	5	5	4
回答者数	10	13			



#### 受講生の傾向

今年度はこの授業の受講生は14人であって、ソリューション科目としては、かなり多いと感じた。全体の入学者が多いためこのような結果になったと思う。その結果として、学生の企業法に関する学力については、既学習者と未学習者がおり、ばらつきがみられた。しかしながら、その全員が公認会計士を目指しているというもあり、授業には熱心かつまじめに取り組んでいた。また、予習・復習もしっかりと行っていた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業においては、14名という人数から、4つのグループに分けてグループワークを行うことにした。また、1年間同じグループであると、ディスカッションの方法やパターンが固定してしまうので、3回ほどグループをシャッフルすることにした。これにより、人数の多いソリューション出るとはいえ、グループ人数の最大を4名に抑えることができ、個々のグループメンバーの学生も積極的に参加するようになり、かつグループごとに個性のあるディスカッションが行われるようになった。ディスカッション後の質疑応答についても、グループの特定の学生が応じるようになりがちであるが、極力すべての学生に質疑応答に答えてもらうよう心掛けた。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

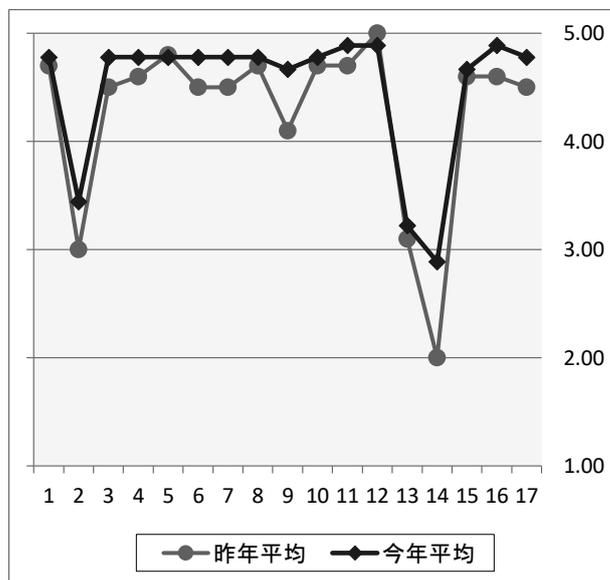
グループワークとはいえ、特定の受講生が議論を主導しがちで、全員で議論するというレベルにはいかないこともあったため、この点を改善していきたい。全受講生の学習進度やレベルを最初の段階でしっかりと把握したうえで、アシストしながらそれぞれのグループワークを見守る必要性を感じた。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応としては、これからのソリューションでこのような多人数となるかどうかは不明であるが、多人数であればあるほど、個々の学生の授業への参加度合いが異なってくる。企業法についてすでに学んできたかどうかで、差異が出てしまうのは仕方のないことであるが、極力こちらがサポートすることで、すべての学生がディスカッションや質疑応答に積極的に参加できるように心がけたい。

科目	プロフェッショナル・ソリューション(三島クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔月5
受講者数	11	回答者数	9

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.70	4.78	5	5	4
2	3.00	3.44	3	5	3
3	4.50	4.78	5	5	4
4	4.60	4.78	5	5	4
5	4.80	4.78	5	5	4
6	4.50	4.78	5	5	4
7	4.50	4.78	5	5	4
8	4.70	4.78	5	5	4
9	4.10	4.67	5	5	4
10	4.70	4.78	5	5	4
11	4.70	4.89	5	5	4
12	5.00	4.89	5	5	4
13	3.10	3.22	3	5	2
14	2.00	2.89	2	5	2
15	4.60	4.67	5	5	4
16	4.60	4.89	5	5	4
17	4.50	4.78	5	5	4
回答者数	10	9			



#### 受講生の傾向

今年度は11人の受講者があり、人数的には平均的であって、授業にはすべて出席しており、予習・復習も丁寧に行われていた。また、授業進度やレベルについてもちょうど良いようであった。11人の受講生のすべてが、公認会計士を目指しているというものではなく（4名は税理士志望）、それぞれの目的意識を明確にもっており、授業に対して真面目にかつ熱心に取り組んでいた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も、受講生11名の受講目的は、公認会計士志望者と税理士志望者とで異なっていることから、クラス分けをして授業を行った。公認会計士志望者についてはグループ学習、税理士志望者については個別指導とすることによって、公認会計士試験合格や論文の執筆などの目的を踏まえた、効率的な授業を行うことができたと感じている。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

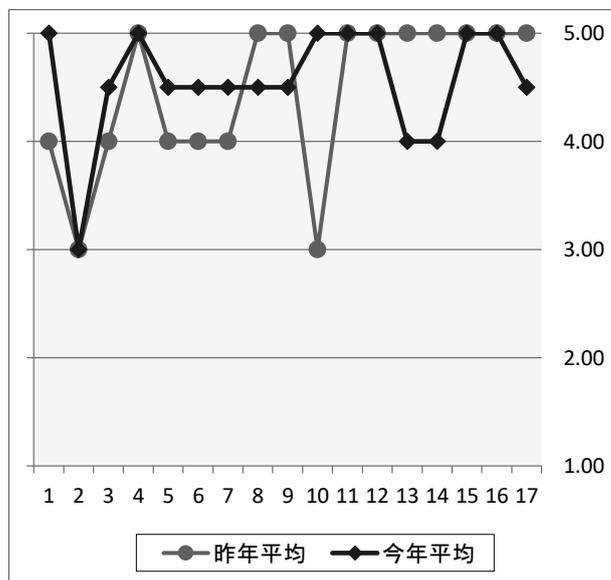
クラス分けにより授業を行うことは、うまくいっているように思うので、今後もこれは継続していきたい。その中で、クラス分けされた中で、グループワークの充実は今後より一層図っていかなければならない。グループワークの中で全員が積極的に参加し、議論をして一定の結論を導き、また質疑応答の中で、議論を成熟していくような工夫が必要であると考えられる。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後の対応としては、まずは今年度と同様に、受講生の学習目的に応じてクラス分けをすることを継続したい。また、グループ学習をする上において、その題材とするレベルについては、学生の学習状況に合わせる必要があると感じた。特に、近年はプロフェッショナルソリューションを履修する学生の学力が向上しており、よりレベルの堅い題材をも扱えるのではないかと考えている。基本的には、これまでのレベル感は維持しつつ、追加で難易度の高い題材も織り交ぜて、学生には随時チャレンジしてもらいたい。

科 目	プロフェッショナル・ソリューション(宗岡クラス)		
配当年次	2	開講時限	通隔月5
受講者数	4	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.00	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	5.00	4.50	4・5	5	4
9	5.00	4.50	4・5	5	4
10	3.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	4.00	3・5	5	3
14	5.00	4.00	3・5	5	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	4.50	4・5	5	4
回答者数	1	2			



#### 受講生の傾向

お互いに協力し合いながら課題に積極的に取り組んでおり、様々な工夫を入れた発表する等成果のある授業となった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

分析対象の上場会社の社長をゲストスピーカーで招くことができ、シミュレーションの結果に加え、新規事業の提案を行う等充実した授業を行った。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

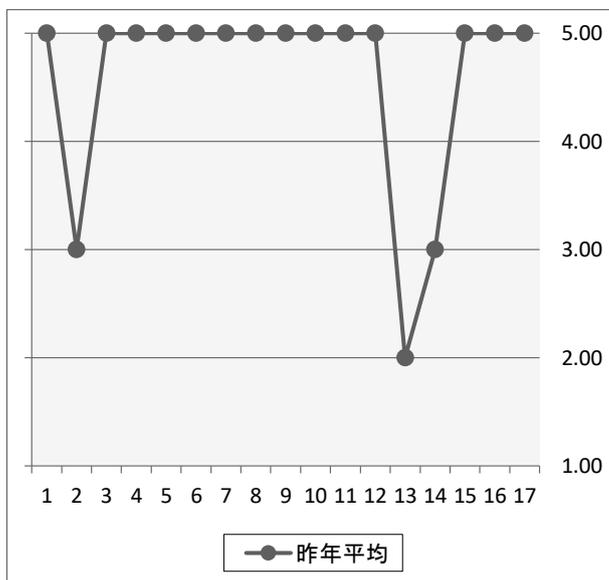
課題企業の企業分析を多面的に解説して、将来予測の重要性、ならびにその手法、考え方を抗議したい。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

将来予測の重要性を体感してもらえるような授業を行いたい。

科目	中級商業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋金5
受講者数	—	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	—	—	—	—
2	3.00	—	—	—	—
3	5.00	—	—	—	—
4	5.00	—	—	—	—
5	5.00	—	—	—	—
6	5.00	—	—	—	—
7	5.00	—	—	—	—
8	5.00	—	—	—	—
9	5.00	—	—	—	—
10	5.00	—	—	—	—
11	5.00	—	—	—	—
12	5.00	—	—	—	—
13	2.00	—	—	—	—
14	3.00	—	—	—	—
15	5.00	—	—	—	—
16	5.00	—	—	—	—
17	5.00	—	—	—	—
回答者数	1	0			



※未実施または未回答のため、今年平均値なし

#### 受講生の傾向

受講生は、再履修の学生であり、簿記の習熟度は低かった。はじめのうちは講義に出席していたが、後半は欠席が続いた。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生のニーズと学習の進捗状況に応じて、シラバスを柔軟に変更した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

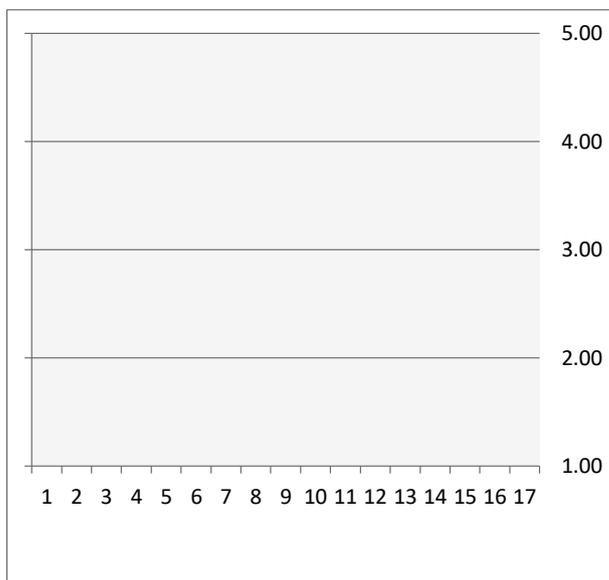
今年度のアンケート結果は、概ね高いポイントを得ている。次年度も継続することにした。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

特になし(アンケート未回答)。

科 目	中級工業簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋火2
受講者数	2	回答者数	0

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
11	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—
13	—	—	—	—	—
14	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—
16	—	—	—	—	—
17	—	—	—	—	—
回答者数	—	0			



※昨年度・今年度ともに未実施または未回答のため、平均値なし

#### 受講生の傾向

本講義は、基本科目を履修するための会計的な知識が十分ではないと判断された学生を対象とした導入科目である。本年度も受講者数は非常に少なかった。また、講義の終盤で受講者の欠席が続いたため、授業評価アンケートを実施することができなかった。

#### 昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年度と同様に、受講者の個別の理解度を考慮して丁寧に指導することに留意した。

#### 今後の対応

##### ○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

前年度と同様の取り組みを継続する予定である。

##### ○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

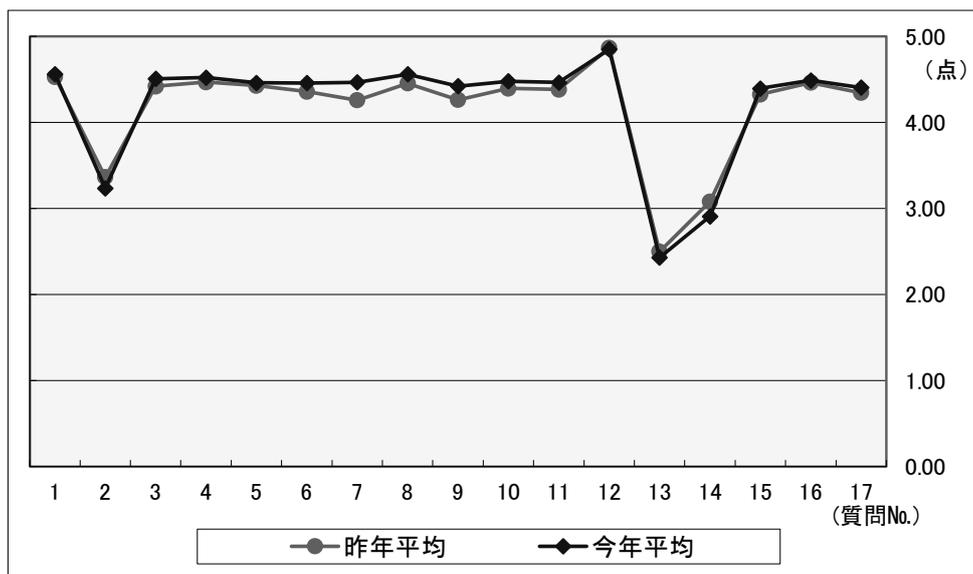
受講者の個別の理解状況に留意して指導する取組を、今後も継続することが重要であると考えられる。

### Ⅲ-(3). 2024 年度授業評価アンケート総括



総括

質問No.	昨年平均	今年平均
1	4.53	4.56
2	3.36	3.24
3	4.42	4.51
4	4.47	4.52
5	4.43	4.46
6	4.36	4.46
7	4.26	4.46
8	4.45	4.56
9	4.26	4.42
10	4.39	4.48
11	4.38	4.46
12	4.87	4.85
13	2.50	2.43
14	3.08	2.91
15	4.32	4.39
16	4.46	4.49
17	4.34	4.40
回答者数	733	910



2024年度は、コロナ禍の影響下から脱し全学の方針に基づき春学期・秋学期を通して対面による授業を実施できた。受講生全体の人数が、1年次生が約70名、2年次生が約50名という構成となったことから、春学期開始当初に懸念されたクラス編成については、複数クラス開講等の措置を講じることで適切なクラス規模として運営できた(項目10)。

授業全体の授業評価を通して昨年度と同様の傾向となっており、受講生の出席状況は極めて高く(項目12)モラルの高い状態を研究科として確保できていることが判る。また同様の傾向ではあるものの、教員の準備状況(項目3)、教員側の教育サービスに対する熱意(項目4)、教員による説明の仕方(項目5)、講義資料の利用(項目6)、PC等の利用(項目7)、受講生からの質問対応(項目8)、宿題・小テストの利用(項目9)、クラス規模(項目10)、授業の満足度(項目11)といった教員に対する受講生からの評価は、その程度に差はあるものの全て改善している。

しかし、予習時間(項目13)や復習時間(項目14)といった受講生側の努力に係わる自己評価が、昨年度よりも僅かではあるが低下した。もともと受講生全体の傾向として予復習の時間が十分に取れていないことから、各科目において授業時間外における受講生の学習を促す仕組み作りが必要となっているかもしれない。この課題は、昨年度も2つ目の課題として挙げられている。

昨年度の課題の1つとされた春学期と秋学期の受講生数の平準化という問題は、クラス規模(項目10)に対する評価は僅かながら改善しているだけでなく平均4.48となっていることから、特に受講生は問題とは感じていないことが判る。

昨年度、3つ目の課題として挙げられた受講生数を回答者数が下回る問題については、①どうしても授業開始時登録者のうちから授業に付いていけなくなる受講生が何人かは出てしまうという点や、②授業評価という制度が全ての講義を終了した時点でなければ受講生による全体評価が不可能である点から、現在の授業評価の仕組み固有の問題と言える。もちろん①の受講者数が授業の進捗とともに減少するとしても、その人数は少ないに越したことはないことから、各科目担当者としては可能な範囲で受講生の減少が過度に大きくならない措置を講じる必要がある。

以上のことから、研究科としての次年度に向けての課題は大きく2つ考えられる。1つは、受講生の予習・復習時間の確保のための方策、ならびに2つは、授業進捗とともに生じる受講生の減少が過度に大きくならないようにする措置である。これら両者の課題について、受講生の減少が短時間の予復習による授業の理解度不足によって生じているも可能性もあり、1つ目の課題の方が相対的に重要な改善すべき喫緊の課題と思われる。



#### IV. 組織的な研修等



## 2024 年度 関西大学大学院会計研究科セミナー開催一覧

### ■客員教授講演会（新入生指導行事）

[2024 年 4 月 3 日(水)開催]

◇元国際会計士連盟会長／元日本公認会計士協会会長

藤沼亜起氏(客員教授)

演題「学ぼう そして挑戦しよう 会計プロフェッションの道へ」

### ■Henri C. Dekker 先生 講演会

[2024 年 8 月 8 日(木)開催]

◇アムステルダム自由大学教授

ヘンリ・デッカー(Henri C. Dekker)氏

演題「Learnings from Field Research in Management Accounting」

### ■客員教授講演会 ※オンライン開催

[2024 年 12 月 18 日(水)開催]

◇慶應義塾大学名誉教授

竹中平蔵氏(客員教授)

演題「石破内閣の経済運営と日本経済」

### ■客員教授講演会（入学前教育指導）

[2025 年 2 月 18 日(火)開催]

◇有限責任あずさ監査法人 専務理事 大阪事務所長/公認会計士

小林礼治氏(客員教授)

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

# 藤沼亜起 客員教授講演会

日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟(IFAC)元会長  
～学ぼう そして 挑戦しよう 会計プロフェッションの道へ～

会計専門職大学院では、2024 年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、日本公認会計士協会元会長及び国際会計士連盟(IFAC)元会長の藤沼亜起客員教授をお招きし、講演会を開催します。多数の方のご来聴をお待ちしています。

■ 日時：2024 年 4 月 3 日 (水)

10:40～12:10

■ 場所：第2学舎2号館507教室

■ 演題：学ぼう そして 挑戦しよう  
会計プロフェッションの道へ

■ 対象：会計研究科新入生・在学生、  
幅広い分野で活躍する会計  
プロの道に興味のある学部生

■ 事前申込は不要です。

<会場案内図>

第2学舎2号館  
5階 C507教室



講師 藤沼亜起 氏

関西大学会計専門職大学院  
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121 (代表)

E-Mail kaikei@ml.kandai.jp

関西大学

## Henri C. Dekker 先生 講演会

### タイトル：*Learnings from Field Research in Management Accounting*

世界的な研究者であるヘンリ・デッカー先生（アムステルダム自由大学 教授）をお招きし、おもにご自身が現在取り組まれている研究プロジェクト（特定の企業を対象としたフィールド調査）についてご講演頂きます。

司会：坂口 順也 教授（関西大学大学院会計研究科）

使用言語：英語（通訳：河合 隆治 教授（同志社大学商学部））

2024年8月8日（木）13時30分～15時30分（13時より開場）  
関西大学千里山キャンパス 第2学舎2号館 C507 教室  
（キャンパスマップ 2-2 C 棟）

[https://www.kansai-u.ac.jp/ja/assets/images/about/campus/img\\_senriyama\\_map.png](https://www.kansai-u.ac.jp/ja/assets/images/about/campus/img_senriyama_map.png)

申し込み（参加費無料 受付期限 8月1日（木））

URL もしくは QR コードにてアクセスし、必要事項をご記入・ご送信下さい。

<https://forms.office.com/r/Gw5bByMdBf>



#### Henri C. Dekker 先生 ご略歴

- ・アムステルダム自由大学 会計学科 学科長 教授
- ・David Solomon Prize (Best paper appeared in *Management Accounting Research*, 2003, 2020), Great Impact on Practice Award (American Accounting Association, Management Accounting Section, 2010)等受賞多数
- ・*Accounting, Organizations and Society*, *Journal of Accounting Research*, *Management Accounting Research*, *Management Science*, *The Accounting Review* など国際学術雑誌に論文多数

後援：牧誠財団（旧メルコ学術振興財団）国際研究交流助成 国際 2023005 号（招聘）

#### 開催責任者・問い合わせ先

大西 靖（関西大学大学院会計研究科 教授）  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35  
yonishi@kansai-u.ac.jp



# 竹中平蔵 客員教授講演会

慶應義塾大学名誉教授

## 「石破内閣の経済運営と日本経済」

元国務大臣で、総務大臣や郵政民営化担当大臣等を歴任された竹中平蔵客員教授のオンライン講演会を開催します。学生及び教職員の皆様のご視聴をお待ちしております。

■日時：2024年 **12月18日(水)** 4限  
14:40~16:10

■実施方法：オンラインで開催します。  
リンク先等の詳細については、  
申込時にお知らせします。

■申込：12月11日(水) 17時までに  
以下のQRコードからお申込ください。  
(定員150名・先着順)



教室集合視聴も実施します！

第2学舎2号館C404教室にて、  
オンライン講演会をご視聴いただけます。  
詳しくは申し込み時にご確認ください。

＜お問合せ先＞

関西大学会計専門職大学院  
電話 06-6368-1121 (代表)  
Mail: kaikei@ml.kandai.jp

# 小林礼治 客員教授講演会

有限責任 あずさ監査法人 専務理事 大阪事務所長

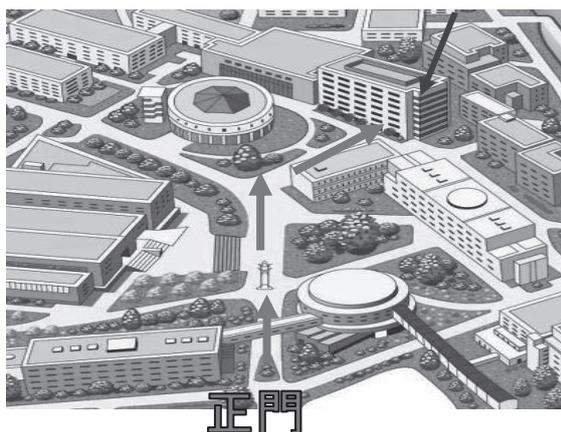
会計専門職大学院では、2025 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、有限責任 あずさ監査法人 専務理事 大阪事務所長の小林礼治客員教授をお招きし、講演会を開催します。

公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：2025 年 2 月 18 日（火）  
14：30～16：00
- 場所：第2学舎2号館5階507教室
- 演題：監査を取り巻く環境変化と  
求められる人材
- 対象：会計研究科入学予定者・在学生  
公認会計士を目指す学部生
- 事前申込は不要です。

<会場案内図>

第2学舎2号館  
5階 C507教室



講師 小林礼治 氏  
関西大学会計専門職大学院  
客員教授

<お問合せ先>  
会計専門職大学院  
電話 06-6368-1121 (代表)  
E-Mail [kaikei@ml.kandai.jp](mailto:kaikei@ml.kandai.jp)



関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0248